静岡県立美術館

第三者評価委員会評価報告書

平成 27 年 2 月

静岡県立美術館第三者評価委員会

目次

はじめに 1

【報告編】

Ⅰ　平成 25 年度　静岡県立美術館第三者評価委員会評価シート 5

【資料編】

Ⅱ―１　平成 25 年度　展覧会に関する自己点検評価表 11

Ⅱ―２　平成 25 年度　調査・研究に関する自己点検評価報告書 17

Ⅱ―３　平成 25 年度　定性評価の状況 28

Ⅱ―４　平成 25 年度　静岡県立美術館評価業務 報告書 35

Ⅱ―５　平成 26 年度以降の評価指標に対する目標値 129

はじめに

本委員会は、評価を通じて静岡県立美術館の自律的かつ継続的な運営改善を推進することを目的として、平成 18 年９月に発足しました。

本委員会の使命は三つあります。第一は、県立美術館が自ら行う自己評価（一次評価）に対して、外部の視点から二次評価することです。第二には、美術館に対する県庁（本庁）の支援体制を委員会が独自の視点に立って評価することです。第三は、美術館の運営及び評価の方法について、次年度の改善に向けた提言をすることです。

本年度の本委員会の活動としては、平成 26 年２月に中間評価会を開催し、展覧会、教育普及事業の現地視察及び意見交換を行いました。それを踏まえ、平成 26 年 6 月に第三者評価委員会を開催し、平成 25 年度の美術館自己評価に対する二次評価、設置者の取組に対する意見、今後の改善課題について討議しました。この報告書はその結果に基づき作成したものです。

本報告書では、今年度より最初に本委員会の報告を含めた評価シートをⅠとして掲載し、評価のための資料をⅡ－１からⅡ－５として掲載しました。

本報告書が県庁と県立美術館のますますの発展と充実に資することを願います。

平成 27 年 2 月

静岡県立美術館第三者評価委員会

委員長　木下　直之

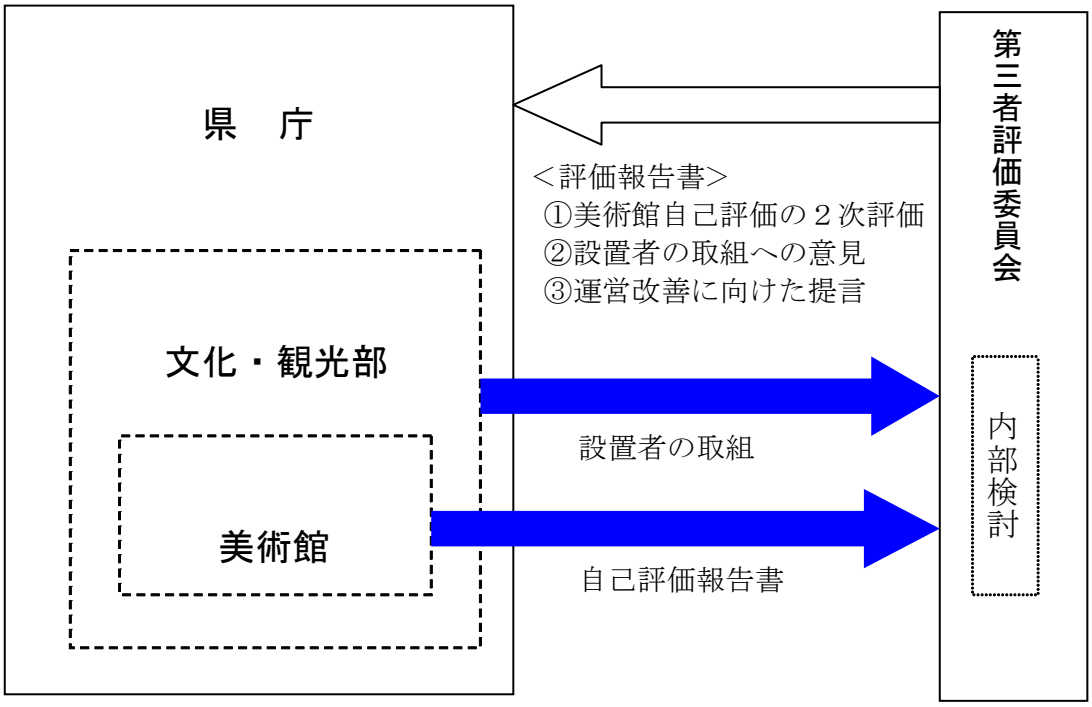
静岡県立美術館第三者評価委員会委員名簿（敬称略、五十音順）

	候補者	役　　職
委員長	木下（きのした）　直之（なおゆき）	東京大学大学院教授
委員	金原（きんぱら）　宏行（ひろゆき）	常葉美術館館長、豊橋市美術博物館館長
〃	佐々木（さささき）秀彦（ひでひこ）	東京都美術館交流係長
〃	西（にし）　雅寛（まさひろ）	協立電機株式会社代表取締役社長
〃	村井（むらい）　良子（よしこ）	有限会社プランニング・ラボ代表
〃	村田（むらた）　眞宏（まさひろ）	愛知県美術館館長
〃	山口（やまぐち）　裕美（ゆみ）	山口裕美ｺﾝﾃﾝﾎﾟﾗﾘｰｱｰﾄﾗﾎﾞ代表

平成 26 年度の活動

会議名等	内容等
第三者評価委員会 中間評価会	日時：平成 26 年２月 19 日（水）13:30～16:00 会場：静岡県立美術館　講座室ほか 内容：（１）教育普及事業視察 （２）企画展視察 （３）平成 25 年度事業実績説明 （４）中間評価及び意見交換
第１回第三者評価委員会	日時：平成 26 年６月 11 日（水）13:30～16:00 会場：静岡県立美術館　講座室ほか 内容：（１）平成 25 年度の取組に対する評価 （２）企画展視察

評価システム全体図（第三者評価委員会の位置付け）



静岡県立美術館第三者評価委員会設置要綱

（設置）

第１条　静岡県立美術館（以下「美術館」という。）では、より良いサービスの提供を図るため、事業の運営等の効果について、多面的かつ客観的な測定・評価を行う自己評価活動を実施しているが、美術館の自律的かつ継続的な運営改善を推進するため、美術館の自己評価及び県庁の支援体制等を第三者の視点から評価する「静岡県立美術館第三者評価委員会」（以下「委員会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第２条　委員会は、次に掲げる事項を所管する。

（１）美術館の自己評価に対する２次評価

（２）県庁の支援体制等に関する評価

（３）評価結果の報告及びそれに基づく美術館の運営改善に向けた提言

（４）その他、この委員会の目的達成に関すること

（委員）

第３条　委員は、知事が委嘱する。

２　委員の人数は、10 名以内とする。

３　委員の任期は２年とする。ただし、その委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

４　委員は、再任されることができる。

（委員長）

第４条　委員会に、委員長１人を置く。

２　委員長は、知事が指名する。

３　委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。

（会議）

第５条　委員会は、委員長が招集する。

２　委員会は公開とし、その傍聴に関して必要な事項は、別に定める。

３　委員会は、必要に応じて個別課題検討のための分科会を置くことができる。

４　委員会及び分科会には、委員以外の者に出席を求めることができる。

（事務局）

第６条　委員会の事務を処理するため、事務局を静岡県文化・観光部文化政策課内に置く。

（その他）

第７条　この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

附　則

１　この要綱は、平成 18 年９月 21 日から施行する。

２　この要綱の施行の日に委嘱する委員の任期は、第３条第３項の規定にかかわらず、平成 20 年３月 31 日までとする。

（最終改正　平成 23 年６月 17 日）

【使命】＝美術館のめざす姿	静岡県立美術館は、創造的で多様性に富んだ社会を実現していくために存在します。 そのためにコレクションを基盤として人々が美術と出会い新たな価値を見出す体験の場をより多く提供するとともに、地域をパートナーと考える経営を行い、日本の新しい公立美術館となります。

基本方針	計画（P）						実施状況（D）	評価（C）	
	重点目標		H25 取組方針		評価指標	目標	実績	自己評価	第三者評価
A 人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します	1	新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します	**①新たな視点を取り入れた展覧会の開催** ・当館所蔵の現代作品を有効活用する企画展及び富士山世界文化遺産登録という県の重要施策と呼応する日本画の企画展を開催する。 ・世界的に注目される日本人アーティストの個展と絵画と文学両分野に跨る企画展を他館との共同企画により実施する。 **②県立美術館開館30周年及びロダン没後100年を見据えた事業の検討** ・県文化・観光部及び関係機関と連携し、徳川没後400年と関連した「徳川250年の文化の豊かさ」を再考する展覧会の開催を検討していく。 ・新たなロダン展の開催を海外美術館に打診しながら進める。	1	展覧会の来館者数（人）	170,000 人	142,344 人	取組方針①に従って新しい切り口の企画展を開催した。江戸時代から現代まで、また他機関との連携による展覧会もあれば収蔵品展もありというように、基本方針Aの重点目標1～3に沿って展覧会のラインアップを多彩なものとした。 【成果】 ・「草間彌生」展では、地元の商業施設と連携した広報活動を展開し、静岡県の平成25年度「ひとり一改革運動　広報グランプリ金賞・知事表彰」を受賞した。 ・「夏目漱石の美術世界」展では、東京藝術大学大学美術館などと連携し、漱石の美意識と、その当時の美術への関心のありかたをとらえた。それにより「美術館連絡協議会奨励賞」を受賞した。 ・「富士山の絵画」展では世界遺産登録記念に相応しい作品選定を行い、充実した図録を作成。高階秀爾氏が選ぶ「平成25年の展覧会ベスト3」に入った。展示は収蔵品を中心とした。 ・寄贈（収蔵品）作品を活用した「二見彰一」展も、充実した図録を作成した。 ・静岡ゆかりの現代美術グループ「グループ幻触」の活動の全貌を掘り起こした「グループ幻触と石子順造」展では、戦後美術史と静岡の美術活動の関係を捉え展示に収蔵品も活用した。 取組方針②に従って開館30周年記念の「徳川の平和」を主題とする企画展を2016年秋に計画し、準備に入った。また、ロダン館についても、ロダン館20周年記念イベントを2014年度秋に計画し、準備中である。 ・さらに、収集方針に沿って、黒田清輝「富士之図」を購入し、コレクションの充実に努めた。 【課題】 ・展覧会観覧者数実績は目標の84パーセントであったが、展覧会ごとにみれば目標値を大きく割り込むものもあり、目標値に近づけるための展示会内容、イベント、広報等について工夫が必要。 ・作品寄贈については、近年現存作家からの寄贈の申し出が急増し、とくに現代美術担当者がその対応に多くの時間を割いている。寄贈については、既存の収蔵品と組み合わせた効果的な活用策を考慮して厳選する努力が必要になっている。	・平成25年度については、二見彰一、富士山、幻触といった多様な展覧会を開催し、さらに草間展を開催したことにより美術館観覧者の裾野を広げたという点で評価できる。特に幻触展については調査が行き届き、深みのある展覧会となっていた。 ・美術館の役割である、県民のニーズを反映しながら多様性に富んだ社会を実現するため、展覧会の全体構成についての評価が必要である。 ・美術作品を保存し継承していくという美術館の大きな役割についても評価の対象とすべきである。 ・目標と実績の差異について、目標設定が妥当であったかという自己評価も含め、その原因の分析評価が必要である。 ・静岡県民が求めている展覧会を美術館が把握しているのか見直す必要がある。現代アートなど「見たことのないものを見たい」という県民の欲求に応えることも県立美術館の果たすべき役割である。 ・目標値の設定については、例えば展覧会の観覧者数は過去5年の平均値とするなど、よりリアリティのある目標設定とすべきである。 ・近代美術については観覧者数の少なさに議論が集中しがちであるが、なぜ近代美術を県立美術館が取り上げるのか、その展覧会の意義をアピールすべきである。 ・他の美術館・大学と連携することにより何が強化されたのかについて自己評価をすべきである。 ・記念展「徳川の平和」、「ロダン没後100年展」の準備を始めたことは理解できるが、いささか具体性に欠ける。
				2	自主企画・企画参加型の展覧会の回数（回）	4 回	4 回		
				3	作品やテーマに興味を持った人の割合（%）	88.0 %	84.4 %		
				4	展覧会における新規来館者の割合（%）	20.0 %	25.7 %		
				5	展覧会に対する外部評価 【定性】	－	別添		
	2	他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します		6	調査研究の発表回数（回）	10 回	14 回		
				7	内部セミナー・研究会・研修の回数（回）	14 回	8 回		
				8	他の美術館や大学と連携した取り組み件数（回）	5 回	4 回		
				9	調査研究に関する外部評価 【定性】	－	別添		
	3	特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します		10	収蔵品展の観覧者数（人）	23,000 人	12,401 人		
				11	収蔵品の公開件数（件）	500 件	407 件		
				12	作品購入件数・価格（件・千円）	－ 件 千円	1 件 63000 千円		
				13	作品寄贈件数・価格（件・千円）	10 件 10,000 千円	14 件 85,000 千円		
				14	公開・貸し出した展覧会における学芸員のレポート【定性】	－	別添		
B 地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します	1	質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します	**③鑑賞教育を中心とした教育普及の充実** ・学校教員の当館美術館講座への参加による新たな人材育成、教育普及プログラムの開発など事業の充実に取り組む。 ・キッズアートプロジェクトを基盤に拡充した県内の参加館園と連携し、小学生の鑑賞教育の促進を図る。	15	学校教育と連携した取り組み数(件)	350 件	330 件	【成果】 ・実技系イベントを開催中の企画展、収蔵品展の内容に沿ったものとし、実技体験がより深い鑑賞体験に結びつくように努めた。 ・学校教育現場における鑑賞教育に対する需要の高まりを反映して、ボランティアによる学校団体の鑑賞ツアーの利用数が増加した。 ・コレクションを活用して教育普及ツール「アート・カード」の開発にとりくんだ。 ・地域住民との連携としては、ボランティア草薙ツアーグループによるエントランスでの観覧者に無料のお茶サービスを実施したほか、草薙商店会とのタウンミーティングを開催し、交流をはかった。 以上のように、基本方針Bの重点目標1～3に沿って取り組んだ。 【課題】 ・今後も、鑑賞と実技を有機的に関連させるようなプログラムの開発に努めたい。 ・有度山地区の文化・芸術施設が連携した「ムセイオン静岡」主催の連続講座は、各施設の知名度を上げるよう継続的な取り組みが必要である。 ・講演会等の開催実績件数が目標に遠く及ばない結果になっているが、これは、目標設定時と実績測定時で、どの事業を「講演会等」として数えるかの認識にずれが生じたためではないかと反省する。今後、改善したい。	・平成25年度の取組方針である「鑑賞教育を中心とした教育普及の充実」についての成果がどうであったのか、より具体的な自己評価の記載が求められる。 ・移動美術展はマンネリ化しており、地域の要求に沿って開催されたい。
				16	鑑賞系プログラム数（件）	13 件	18 件		
				17	コレクションを活用したプログラム数（件）	16 件	18 件		
				18	普及・教育プログラムに関する美術館職員のレポート 【定性】	－	特記事項		
	2	講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を実施します		19	講演会等の開催件数（回）	210 回	136 回		
				20	学芸員のフロアレクチャー等の数（回）	120 回	111 回		
	3	地域住民、企業、NPO等と連携した美術館活動を充実します		21	地域住民等と連携した取り組み数（件）	4 件	6 件		
				22	館内空間を生かした催事の件数・参加者数（件・人）	90 件 5,500 人	79 件 4,344 人		
				23	地域空間、住民等と連携した取組に関する職員レポート 【定性】	－	別添		
C さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます	1	広報戦略を策定し、広報の質を高めます	**④美術館活動の戦略的広報の推進** ・企画展ごとに主たる対象の絞込みを行い、その年代に合わせたコミュニケーション・メディアの活用を図る。 ・商業活動と連携した広報を関係機関との協働により推進する。 **⑤ロダン館の新たな試み** ・ロダン館を中心とした県立美術館の観光ルート化のため、有度山フレンドシップ協定を活用した観光プログラムを旅行会社に提案し、実現化を図る。	24	美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合（%）	70.0 %	68 %	【成果】 ・「草間彌生」展では、地元の商業施設と展示・広報・物販において連携し、「夏目漱石」展では、地元映画館と協力して、映画「それから」上映会（2回）・その映画に関連した講演会を開催した。新たな客層の開拓や、県立美術館のブランド力向上に努めた。 ・「二見彰一」展では、大学生の広報サポーターを募集し、SNSによる情報発信を試み、新たな広報チャンネルの開拓に努めた。 ・ロダン館の新たな魅力作りのため、「ロダン賞記念コンサート」、「ロダン館クイズ」イベントを実施した。 以上、基本方針B重点目標1～3に沿った取組を行った。 【課題】 ・ホームページのアクセス数は飛躍的に増加したが、満足度は若干減少している。より幅広い層からのアクセスに応え満足度を高める。 ・ロダン館イベントはロダン館に親近感を抱いてもらうためには効果的だが、ロダン彫刻ファンを増やすには至らず、ロダン館入館者数は伸び悩んでいる。今後も、ロダン館の魅力を発信する努力が必要である。	・広報活動においては、ホームページのアクセスなど予想以上の実績を残したことは評価できる。 ・商店街など地域住民を巻き込むような企画・イベントがいくつか実現したことは評価できる。 ・広報戦略については、静岡らしさの表現も含め、具体的に何をやるべきか検討が必要である。 ・カリエール展など、ロダンに関する理解を含める併設企画をすべきである。
				25	ホームページのアクセス件数（件）	170,000 件	977,227 件		
				26	ホームページの満足度（%）	75.0 %	73.9 %		
	2	観光業界などとの連携や新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます		27	観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数（件）	2 件	5 件		
				28	広報手法における新たな取組状況に関しての美術館職員のレポート【定性】	－	別添		
	3	ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします		29	ロダン館の入場者数（人）	80,000 人	71,386 人		
D 常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます	1	館内施設を充実させ、満足度を高めます	**⑥施設環境の改善によるサービスの向上** ・館内レストラン及びカフェについて、両施設のコンセプトを明確にし、来館者のニーズにあった上質なサービスを提供する。 ・「施設維持補修中長期計画」を策定し、計画的なメンテナンスを行うことにより来館者の満足度向上を図るとともに、美術館周辺環境整備について検討を行う。	30	美術館利用者数（人）	400,000 人	310,228 人	【成果】 ・レストランのメニューをさらに充実するため、専門家による試食会を実施し、サービスの向上に努めた結果、花見の時期などには、レストラン目的の来館者も多数みられるようになり、一定の効果をあげた。 ・施設の効率的な改修を進めるため、中長期計画づくりに着手した。 ・県の観光部局などと連携し、美術館周辺の遊歩道の整備をすすめた。これによって、日本平エリアの一体感を強化した。 ・以上基本方針D重点目標1、2に沿って取り組んだ。 【課題】 ・美術館利用者数は目標値の78パーセントであったが、来館者のニーズに合ったサービスの検討が必要。 ・積極的に利用をPRしてきた静岡鉄道運行のバスの便数削減により、来館者の利便性は残念ながら低下した。来館者のアクセス満足度の数値にはまだ反映していないものの、隣接する図書館ともども、今後、利用者の利便性の確保に努めるべく、方策を考えたい。	・ミュージアムショップの存在は、近年美術館において大きな役割を占めている。県立美術館ミュージアムショップにおいても、レストラン・カフェだけの利用者向けに1階にも設置するなど、設置場所・内容等、他館の事例を分析し、一層の改善を検討されたい。 ・アクセスバスの便数削減については、美術館としてバス会社にきちんと申し入れを行うべきである。
				31	鑑賞環境に対する満足度（%）	90.0 %	90.9 %		
				32	レストラン・カフェに対する満足度（%）	70.0 %	72.9 %		
				33	ミュージアムショップに対する満足度（%）	85.0 %	86.1 %		
	2	周辺環境やアクセスの利便を向上させます		34	来館者のアクセス満足度（%） ※上段：公共交通機関利用、下段：自家用車利用	80.0 %	※75.5 85.0 %		

設置者の取組	取組の状況	第三者評価委員意見
	・庁内各部局と連携し、美術館広報記事のFDA機内誌への掲載や東京事務所を通じた首都圏広報の実施など、県の広報ツールを最大限に活用し効果的な広報を展開した。 ・施設整備については美術館運営事業費の実施だけではなく、屋外ポール灯更新工事に観光費を活用するなど、必要な修繕・更新を確実に実施できるよう調整を行った。	・中長期計画策定を美術館職員とともに取り組み、長期的な観点から美術館運営を行えるよう職員の意識改革をサポートした点を評価したい。 ・現在の美術館経営は大きな曲角にあると思う。県民の年令構成の変化や若年層の美術館離れ傾向、運営コストの年を追うごとの削減要請など、どれ一つをとっても深刻な問題ばかりである。苦心が多いとは思うが、「運営」ではなく「経営」として、将来にわたる県美の存在感をより高めると共に、「自立できる県美」を目指してより良き経営戦略の実現を期待する。 ・日本で唯一のロダン専門館が付置されていることを、県の誇りとして全国にもっと知らしめるべきである。 ・広報や施設整備に関する取り組みは評価できる。今後は、広報や集客面で美術館が必要とするルールの整備（例えば団体誘致のための観覧料の柔軟な割引など）への取り組みも望まれる。

基本方針	A 人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します

計画（P）							実施状況（D） H26.3.31現在		評価（C）
重点目標		H25 取組方針		評価指標	目標		実績		特記事項	自己評価
1	新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します	**①新たな視点を取り入れた展覧会の開催** **・当館所蔵の現代作品を有効活用する企画展及び富士山世界文化遺産登録という県の重要施策と呼応する日本画の企画展を開催する。** **・世界的に注目される日本人アーティストの個展と絵画と文学両分野に跨る企画展を他館との共同企画により実施する。** **②県立美術館開館30周年及びロダン没後100年を見据えた事業の検討** **・県文化・観光部及び関係機関と連携し、徳川没後400年と関連した「徳川250年の文化の豊かさ」を再考する展覧会の開催を検討していく。** **・新たなロダン展の開催を海外美術館に打診しながら進める。**	1	展覧会の来館者数（人）	170,000 人		142,344 人		・現代美術を活用して地域の活性化を図る。 ・富士山世界遺産登録を記念して企画展を開催する。 ・寄贈による収蔵作品を有効活用して企画展を開催する。	【成果】 ・「草間」展では、抜群の知名度を誇る作家の近作を多く紹介したが、併せて静岡市内の大型商業施設CENOVAと連携し、大幅な集客アップを果たした。来館者には若年層が目立った。 ・「漱石」展では、東京藝術大学大学美術館との共同企画により、絵画と文学双方にまたがる漱石の世界を提示することができた。 ・「富士山の絵画」展では、収蔵作品を十分活用する一方で、新たな作品も多数交えた。富士山の文化的意義を考えるという本展の目的を、納得のいく水準ではたすことができた。 ・二見氏からご寄贈いただいた作品を、版画展にしては大きな規模で一挙公開した。展覧会カタログは、良質なカラー図版はもとより、詳細な作家経歴、参考文献、作品データを収録し、二見研究の基礎資料を残すことができた。 ・「グループ幻触と石子順造」展では、多数の作品と詳細な資料により、同グループの活動の全貌と美術史における意義を明らかにした。 【課題】 ・「草間」展では、特に広報が十分に機能した点が際立ったが、民間との連携やSNSの利用など、今後の展覧会に応用できる点を検討していく。 ・「漱石」展は、展覧会チーム内にイギリス美術を専門とする学芸員がおらず、体制上の不備があった。展覧会運営にあたっては、内容に応じた横断的で柔軟なチームマネジメントが必要である。一方、まずまずの動員数を集めながら、経済的には苦戦した。これは、歳出の75%強を占める負担金を入館者数だけではまかないきれない現実が現れたものといえる。 ・「富士山の絵画」展では、10代、20代の来館者は1割程度にとどまり、若年層の来館に課題を残した。 また、約15%の来館者がポスターをきっかけとして挙げており、依然として重要な広報媒体の一つであることは確かである。より魅力的なポスターとするため、デザイナーについての情報取集をすすめていく。 ・「グループ幻触と石子順造」展は、地域とともにある美術館として、今後、検証すべき作家を洗い出す必要性を感じた。また、出来上がった言説に疑いを持ち、新たな視点で、戦後美術史を読み直していく作業も、同時並行して進めていくべきである。 ・美術館の基本方針や重点目標に立脚した美術館中長期計画（H26 ～H33）を平成25年度末に策定した。今後はこの中長期計画に基づき、事業の進捗や当面する施設の検討を進めていく。
				◆草間彌生−永遠の永遠の永遠（63日間）	45,000 人		67,977 人			
				◆夏目漱石の美術世界（37日間）	36,000 人		18,612 人			
				◆富士山の絵画（38日間）	14,000 人		17,781 人			
				◆ふじのくに芸術祭2013（16日間）	17,000 人		8,047 人			
				◆静岡県立美術館所蔵 二見彰一展（47日間）	13,000 人		7,577 人			
				◆グループ「幻触」と石子順造展（44日間）	12,000 人		7,033 人			
				◆収蔵品展	23,000 人		12,401 人			
				◆移動美術展	10,000 人		2,916 人			
			2	自主企画・企画参加型の展覧会の回数（回）	4 回		4 回			
			3	作品やテーマに興味を持った人の割合（%）	88.0 %		84.4 %			
			4	展覧会における新規来館者の割合（%）	20.0 %		25.7 %			
			5	展覧会に対する外部評価 【定性】	―		別添			
2	他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します		6	調査研究の発表回数（回）	10 回		14 回		・近隣大学との連携をさまざまな形で深めている。	【成果】 ・学芸課職員の研究会を、月１回程度開催し、その成果を展覧会や教育普及事業に活かすことを図った。 ・近隣の静岡県立大学、静岡県舞台芸術センターと連携し、富士山世界遺産登録を応援するという趣旨で、山岳をテーマとする「マウントカルチャー連続講座」（ムセイオン静岡主催）を実施した。 ・静岡大学人文社会科学部と連携し、学生によるロダン館ギャラリー・トークの指導助言にあたった。学生のロダンについてのトークを通じて、学生と参加者が一体となり、ロダンの理解がさらに深まった。 ・静岡大学が地域の文化施設等と連携して立ち上げたアートマネジメント人材育成事業に参画。地域全体の文化振興の向上・充実を図った。 【課題】 ・他の美術館や大学等と連携したシンポジウムや企画展の共同開催をこれまで以上に積極的に開催していく。 ・当館の学芸員をゲストキュレーターとして他館に派遣する等の取組も進めて行きたい。
			7	内部セミナー・研究会・研修の回数（回）	14 回		8 回			
			8	他の美術館や大学と連携した取り組み件数（回）	5 回		4 回			
			9	調査研究に関する外部評価 【定性】	―		別添			
3	特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します		10	収蔵品展の観覧者数（人）	23,000 人		12,401 人		・富士山世界遺産登録に合わせた秀作の取得。	【成果】 ・基金保有美術品として黒田清輝《富士之図》（６点一組）を取得したことで、富士山ならびに日本洋画コレクションをより充実することができた。 ・個人所蔵家4名から14件、8500万円相当の美術品をご寄贈いただき、コレクションの幅を広げることができた。 ・収蔵品の活用についても、平成25年度は例年の収蔵品展に加え、「富士山の絵画」及び「二見彰一展」において、多数の収蔵品を公開することができた。 【課題】 ・平成26年度当初予算の館蔵品取得事業費は、基金を活用したコレクション購入予定があるため、ゼロとなった。また基金も限度があり、今後、基金の活用の可能性は極めて低いと思慮される。作品購入及びコレクションの保存・継承は、美術館の不朽の課題であるため、予算復活について、設置者と協力して積極的に取組みたい。
			11	収蔵品の公開件数（件）	500 件		407 件			
			12	作品購入件数・価格（件・千円）	― 件 千円		1 件 63000 千円			
			13	作品寄贈件数・価格（件・千円）	10 件 10,000 千円		14 件 85,000 千円			
			14	公開・貸し出した展覧会における学芸員のレポート 【定性】	―		別添			

基本方針	B 地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します

計画（P）						実施状況（D） H26.3.31現在		評価（C）
重点目標		H25 取組方針	評価指標		目標	実績	特記事項	自己評価
1	質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します	**③鑑賞教育を中心とした教育普及の充実** ・学校教員の当館美術館講座への参加による新たな人材育成、教育普及プログラムの開発など事業の充実に取り組む。 ・キッズアートプロジェクトを基盤に拡充した県内の参加館園と連携し、小学生の鑑賞教育の促進を図る。	15	学校教育と連携した取り組み数	350 件	330 件	【普及・教育プログラムに関する美術館職員のレポート】 ・「美術館教室」事業を継続的に行ってきたことにより、学校教育との連携機会が増えてきた。 ・とりわけ今年度は粘土貸出の件数が増加し、学校現場が自力で「粘土教室」を開催する地力がつき始めたことをうかがわせた。「指導者向け粘土講習会」などの継続的開催の成果の一端と考えられる。 ・実技系プログラムでは、前年度に引き続き、企画展・収蔵品展にかかわりのある内容の実施をより心がけた。参加者の鑑賞・制作両面からの美術への理解が深まるとともに、美術館ならではのプログラムとなった。 ・学校団体向けボランティアとの鑑賞ツアーの利用数も増加しており、学校現場での鑑賞教育に対する需要の高まりをうかがわせる。 ・前年度は工事休館により利用数が減となっていたロダン館関連のプログラムだが、本年度の利用数は回復傾向をみせている。	【成果】 ・ 粘土・絵の具教室など体験系プログラムの人気も依然として高いが、一方で学校向けのオリエンテーションやボランティアとの対話鑑賞の依頼が伸びをみせている。今後は、鑑賞系のプログラムの開発や鑑賞教育支援等の推進に力点を置く必要が強まると考えられる。 【課題】 ・ 上記に関連して、体験系プログラムを鑑賞系プログラムとリンクさせる工夫を行い、美術館ならではの教育普及活動を目指す姿勢も必要である。 ・ 平成24年度から教育普及担当職員が定数の1名（H21～23は2名）に戻っているが、教育普及事業運営においては、前年度同様、質を損なうことなく満足度の高いプログラム推進の工夫を継続的に進める。 ・教育普及専門家であるエデュケーターを常置することが、中長期的課題であるが、当面は、外部エデュケーターを活用し、美術館職員、文化政策課職員の「エデュケーターを活用した教育普及」の理解促進を図る必要がある。
			16	鑑賞系プログラム数	13 件	18 件		
			17	コレクションを活用したプログラム数	16 件	18 件		
			18	普及・教育プログラムに関する美術館職員のレポート 【定性】	－	特記事項		
2	講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を実施します		19	講演会等の開催件数	210 回	136 回		【成果】 ・ 昨年度、新規来館者開拓のための取り組みとして、親子、ファミリー向け講座を開発する必要性を認識したことから、本年度はロダン館のクリスマスイベントなど、親子、ファミリー向け講座を開発し、今後の事業展開への試金石とした。 【課題】 ・当館の活動をアピールすることのできる講演会、美術講座等を積極的に開催する。
			20	学芸員のフロアレクチャー等の数	120 回	111 回		
3	地域住民、企業、NPO等と連携した美術館活動を充実します		21	地域住民等と連携した取り組み数	4 件	6 件	・来館者サービスとして美術館ボランティアによるお茶会の実施。 ・草間弥生展の新静岡セノバとタイアップした展覧会活動の展開。 ・夏目漱石展では、館外施設「サールナートホール」の協力により、映画上映会を開催。 ・日本平エリア施設間で締結したフレンドシップ協定に新たに2施設（日本平動物園、久能山東照宮）を加えた5施設による連携協力協定を締結。 ・富士山世界遺産登録を視野にムセイオン静岡が企画した全8回の「マウントカルチャー連続講座」に当館館長をはじめ学芸員2名が講師を務めた。 ・地元静岡大学と協働しロダン館を使ったギャラリートークを実施。	【成果】 ・ 地域住民等と連携した取組については、従前から取り組んできた美術館ボランティア「草薙ツアーグループ」の活動を支援した。 ・美術館活動連携では、草間弥生展において地元静岡の商業施設「新静岡セノバ」の協力により、作品展示をはじめパネル展開催、オリジナル商品の開発・販売、専用リーフレットの制作・配布など幅広い展覧会活動の実施に繋がった。また、夏目漱石展においても館外施設の協力による展覧会イベントをとおして、新たな客層への情報発信が出来た。 ・ムセイオン静岡の多分野文化施設連携による連続講座「マウントカルチャー」の実施は、積極的な文化の情報発信に大いに効果があった。 ・館内空間を活かした催事の件数は、3月末時点で目標の90件に対して79件、参加者数は5,500人に対して4,344人と目標を若干下回っているが、本館エントランスで実施する「ちょこっと体験」では、美術作品の鑑賞を意識したプログラムになっており、参加者にはイベントをとおして作品への理解がより深まる機会を提供できた。また、ロダン館普及事業で美術館全職員による様々なイベントを企画したことは、ロダン館の空間活用の幅を広げた。 【課題】 ・日本平エリア5施設間により締結した有度山フレンドシップ協定を、今後、地域・相互施設間による具体的な事業展開に繋げていく。 ・ロダン彫刻の理解を深めてもらうためにも、文学作品との連携等、今後も新たな試みを継続していく。
			22	館内空間を生かした催事の件数・参加者数	90 件 5,500 人	79 件 4,344 人		
			23	地域住民等と連携した取組に関する職員レポート 【定性】	－	別添		

基本方針	C さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます

計画（P）						実施状況（D） H26.3.31現在		評価（C）
重点目標		H25 取組方針	評価指標		目標	実績	特記事項	自己評価
1	広報戦略を策定し、広報の質を高めます	**④美術館活動の戦略的広報の推進** ・企画展ごとに主たる対象の絞込みを行い、その年代に合わせたコミュニケーション・メディアの活用を図る。 ・商業活動と連携した広報を関係機関との協働により推進する。 **⑤ロダン館の新たな試み** ・ロダン館を中心とした県立美術館の観光ルート化のため、有度山フレンドシップ協定を活用した観光プログラムを旅行会社に提案し、実現化を図る。	24	美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合	70.0 %	68.0 %		【成果】 ・「美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合（%）」と「ホームページの満足度（%）」は、やや減少しているが、「ホームページへのアクセス件数」は増加している。21年度末にホームページのリニューアルが完了して以来、アクセス件数は高めで安定してきている。 【課題】 ・若年層の開拓に向けたSNSやアプリの導入等、コミュニケーションメディアを積極的に活用した情報発信をする。
			25	ホームページのアクセス件数	170,000 件	977,227 件		
			26	ホームページの満足度	75.0 %	73.9 %		
2	観光業界などとの連携や新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます		27	観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数	2 件	5 件	・草間彌生展におけるセノバとの連携 ・夏目漱石展におけるサールナート静岡シネギャラリーとの連携 ・ふじのくに静岡大商談会参加 ・「二見彰一展」における大学生の広報サポーターの活用 ・「つながるくさなぎフェス」参加	【成果】 ・「草間彌生」展での、「新静岡セノバ」における作品展示・グッズ販売、レストランでの作品にちなんだメニュー販売、展覧会広報は「新静岡セノバ」のタイアップ企画（セノバ負担）により、金額ベースで約7,000千円の広報を展開した。その結果、64,743千円の経済効果があり、観覧者増に大きな効果があったといえる。 ・夏目漱石展において、サールナート静岡シネギャラリーにて、映画「それから」（1985年）を上映し、幕間に大阪大学大学院教授の講演会を催した。文学と芸術との相互交流をテーマにした漱石展に相応しい内容で約200名の来場者を集め、映像ファンに芸術や文学に対する関心を持たせる効果があった。 ・「ふじのくにしずおか観光大商談会in名古屋」に、有度山フレンドシップ協定を結んでいる日本平ホテル、久能山東照宮とチームを組んで参加。フレンドシップ協定施設間を結んだ観光ルートの周知に努めた。 ・「二見彰一展」において大学生の広報サポーターを募り展覧会の感想等をブログ、Facebook、ツイッターなどのSNSで発信。若い世代に美術館とのつながりを持ってもらうきっかけとなった。 ・静岡市、草薙商店会、県立大学、自治会等が主催する、草薙駅周辺の賑わいを創出するイベント「つながるくさなぎフェス」において、エンボス版画を体験するブースを出店。二見彰一展や県立美術館のアピールをし、地域における存在感を高めることができた。 【課題】 ・経済産業界を中心に、トップセールスを強化する。 ・若年層の開拓に向けたコミュニケーション・メディアを積極的に活用した情報発信を実施する。 ・「有度山フレンドシップ協定」を活かした近隣5施設による首都圏、関西圏での観光商談会へ継続的に出席しているが、集客につながりにくい。今後は、各施設が協力し、具体的なツアーを企画・紹介する等、集客に向けた工夫が必要である。
			28	広報手法における新たな取組状況に関しての美術館職員のレポート【定性】	－	別添		
3	ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします		29	ロダン館の入場者数	80,000 人	71,386 人	ロダン館普及事業 ・ロダン館ギャラリーツアー「もっと知ろうロダン館SP」 ・夏休みクイズラリー「親子でロダン館を探検」 ・ロダン賞コンサート「午後のひとときコンサート」	【成果】 ・ロダン館の入館者数は、12月末時点で目標の80,000人に対して達成率78.3%の62,668人で目標に達していないが、今年の8月から新たに取り組んだ「ロダン館普及事業」において、様々なイベントを企画し、ロダン館の魅力発信に努めてきたことは、新たな顧客の開拓に繋がった。また、このイベントがマスコミにも取り上げられことでロダン館の魅力を広く情報発信することができた。 【課題】 ・ロダン館を「静岡の財産」として発信し、今後のロダン館周年に併せた様々な事業の実施、その他関係事業を行う。 ・ロダン館の認知度を高めるため、首都圏を中心にした県外広報に取り組む。

基本方針	D 施設の改修を推進し、美術館のアメニティを高めていきます

計画（P）						実施状況（D） H26.3.31現在		評価（C）
重点目標		H25 取組方針	評価指標		目標	実績	特記事項	自己評価
1	館内施設を充実させ、満足度を高めます	**⑥施設環境の改善によるサービスの向上** ・館内レストラン及びカフェについて、両施設のコンセプトを明確にし、来館者のニーズにあった上質なサービスを提供する。 ・「施設維持補修中長期計画」を策定し、計画的なメンテナンスを行うことにより来館者の満足度向上を図るとともに、美術館周辺環境整備について検討を行う。	30	美術館利用者数	400,000 人	310,228 人	・レストラン及びカフェメニュー試食会の実施とメニューの刷新 ・静岡県立美術館中長期修繕計画の作成 ・遊歩道の整備、観光部局と連携してハイキングマップを作成	【成果】 ・ 県立美術館のレストラン及びカフェの運営について来館者に対しより質の高いサービスを提供するため、今年度初めて専門家等をメンバーとするメニュー試食会を実施して、その意見等を参考に、メニューの刷新等を行った。その結果、多くの方から、味はもちろんのこと盛りつけ等についても大変満足したとのご意見を頂いていることから、サービス向上の効果が認められる。 ・ 当館は開館から約27年が経過し経年劣化等により建築及び各設備に多くの不具合が生じている。今まではその都度予算化するなど対応してきたが、不具合の未対応 箇所がうまく引き継がれないなど計画的な執行ができなかった。そのため今年度、今後発生するとおもわれる不具合箇所や必要とされる修繕コスト、維持管理コストを明確にするため中長期修繕計画を作成した。今後はこの修繕計画をもとに、近い将来の大規模修繕を念頭に館全体の効率的な修繕を図っていく。 ・美術館周辺環境整備については、美術館敷地内の遊歩道整備と観光部局と連携してのハイキングマップ作成を行った。今後は平成25年度末に策定した美術館中長期計画に基づき検討会を設置して計画的に整備していく予定。 【課題】 ・館内サービスについては、現行のサービス改善委員会を活用し具体的な事例をもとにした検討を進め、さらなるサービスの改善に取り組む。
				◆展覧会観覧者数	160,000 人	139,428 人		
				◆移動美術展	10,000 人	2,916 人		
				◆教育普及プログラム参加者数	－ 人	27,794 人		
				◆ミュージアムコンサート入場者数	－ 人	374 人		
				◆県民ギャラリー入場者数	－ 人	48,483 人		
				◆講堂入場者数	－ 人	8,763 人		
				◆レストラン・カフェ利用者数	－ 人	39,625 人		
				◆ミュージアムショップ利用者数	－ 人	40,699 人		
				◆図書閲覧室利用者数	－ 人	2,146 人		
			31	鑑賞環境に対する満足度	90.0 %	90.9 %		
			32	レストラン・カフェに対する満足度	70.0 %	72.9 %		
			33	ミューアジアムショップに対する満足度	85.0 %	86.1 %		
2	周辺環境やアクセスの利便を向上させます		34	来館者のアクセス満足度 ※上段：公共交通機関利用 下段：自家用車利用	80.0 %	※75.5 85.0 %		【成果】 ・「来館者のアクセス満足度」については、公共交通機関利用者の満足度が目標80%に対して 75.5%で目標を下回った。自家用車の満足度は85.0%と目標の80%を上回る結果となった。 ・ 自家用車で来館した方の満足度（目標値を上回った要因）については、第1駐車場において老朽化による路盤の沈下等により不陸が生じ、自家用車で来館する方に不便をかけていたが、平成24年度末に舗装改修工事等を実施した影響が考えられる。 ・ 駐車場の確保について、引き続き来館者の多い企画展の土、日、休日には、隣接する県立大学の職員駐車場を借用し、美術館来館者の利便性の向上を図った。 【課題】 ・ 公共交通機関で来館した方の満足度が目標値を下回った。アクセスの問合せに対して、「JR草薙駅から20分間隔で運行する100円バスを利用するのが便利であること」を引き続き周知するよう配慮したが、平成25年度から日曜、祝日の運行が30分間隔になったのが影響したと考えられる。今後はバス会社との調整を検討する。

（空白）

【Ⅱ－１】

展覧会に関する自己点検評価表（平成 25 年度）

１　「草間彌生　永遠の永遠の永遠」展

２　「夏目漱石の美術世界」展

３　「世界遺産登録記念　富士山の絵画」展

４　「静岡県立美術館所蔵　二見彰一」展

５　「グループ「幻触」と石子順造　1966-1971」展

（様式1）

展覧会自己点検評価表

展覧会名	「草間彌生　永遠の永遠の永遠」展

期　間	4月13日（土）～6月23日（日）（ 63日間）
場　所	静岡県立美術館第1～7展示室

担当者名	三谷（学芸）、横畑（総務）

学芸員の企画への参加の有無	有・無	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等	有・無
マスコミ等による共催の有無	有・無	巡回の有無	有・無

記入日	企画	平成25年4月1日
	実績	平成26年3月31日

	企画	実績・検証
目的・内容	現代日本を代表する美術家として国際的に活躍する草間彌生の、最新の創作活動を紹介する展覧会。新作の連作「愛はとこしえ」と「わが永遠の魂」や同じく新作の彫刻作品を展示し、草間彌生という稀有な才能に恵まれた美術家の圧倒的な創造性と、ジャンルの枠を超えた壮大な表現の世界を紹介することを目的とした。	【研究活動評価委員会からの意見（要約）】
期待される成果 ・ねらい ・主なターゲット	20～40代の女性・男性が主なターゲットとして設定されていた。また、バルーン（風船）の作品などの展示もあるため、若年層や親子連れの観覧も期待した。来館者の居住地としては、市内及び近郊、近隣都市を想定した。	【アンケートにみる特徴】
指標（数値目標）	観覧者数　45,000人	観覧者数　67,977人
収支計画	・歳出　13,760千円 ・歳入　16,745千円 ・特財率　121.7%	・歳出 13,760千円 ・歳入 32,372千円 ・特財率 235.3%
広報戦略 主な取組	・実行委員会（美術館・テレビ局）により早い時期から広報を開始し、次の段階では、主に若い女性をターゲットとして、新静岡セノバを中心とした静岡鉄道、静鉄バス等、静鉄グループとタイアップしたビジュアル的な広報を展開 ・展覧会場に写真撮影可能なコーナーを設け、TwitterやFacebookを通じた来館者による情報発信への期待	・セノバの客層と今回の展覧会のターゲットがうまくマッチしたため、効果的な広報結果が得られた。 ・静岡鉄道では、草間彌生展チケットと1日フリー乗車券のセット販売を行ったが、同様にセット販売を行ったインカ帝国展の販売実績を上回る結果が得られた。 ・FacebookやTwitterによる情報発信は相当数確認され、効果的な広報として機能したと思われる。
自己評価 今後の課題	・観覧者の区分のうち「一般」の比率が71.5%と著しく高く、また、「70歳以上」、「高校生・大学生」を含めた有料観覧者の比率が全体の81.9%を占めており、観覧料収入が目標を大幅に上回る結果となった。また、ミュージアムショップでの草間展関連グッズの販売状況をみても、1人当たりの平均購入額は、昨年度のインカ帝国展での実績に比べで2倍強となっている。熱烈な草間彌生ファンが多かったこと、また、購入意欲の高い女性客（特に若い女性）が多かったことによるものと考えられ、今回の広報展開が効果の高いものであったことがうかがわれる。 ・写真撮影可能なポイントを設けたため、来場者の撮影した画像がFacebookやTwitterにアップされて流布し、広報効果を生んだと思われる。 ・今回の展覧会では特に広報が十全に機能した点が際立ったが、民間との連携やSNSの利用など、応用できる点は今後に活かしていくよう努めたい。	

（様式1）

展覧会自己点検評価表

展覧会名	夏目漱石の美術世界

期　間	7月13日（土）～8月25日（日）（37日間）
場　所	静岡県立美術館第1～6展示室

担当者名	泰井（学芸24年度）、村上（学芸25年度）、阿形（総務）

学芸員の企画への参加の有無	有・無	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等	有・無
マスコミ等による共催の有無	有・無	巡回の有無	有・無

記入日	企画	平成25年4月1日
	実績	平成26年3月31日

	企画	実績・検証
目的・内容	近代日本を代表する国民作家・夏目漱石の文学作品や美術批評に登場する画家や彫刻家の作品を可能なかぎり集めることを試みた企画展。ターナーやミレイといったイギリス絵画から、若冲や応挙、抱一といった江戸絵画、さらには青木繁、黒田清輝、横山大観、朝倉文夫といった近代美術を漱石の眼を通して見直す機会を提供する。	【研究活動評価委員会からの意見（要約）】 ・「テーマにおいては野心的で画期的、内容においては十分な議論と周到な準備が行われた上でのこれ以上ないほど充実したもの。（図録において）唯一残念なことは、西洋美術についての記述に関して、理解が十分とは言えない箇所が見出されたことだろう。」（潮江委員） ・「古今の西洋画、日本東洋の古美術、明治末から大正期の美術が一堂に会した会場は、漱石の視覚世界だけではなく、その背景となった明治末大正期の視覚世界のひとつの有様を再現したかのようであった。説明的要素の強い展覧会であったが、静岡県立美術館の会場は出品作品それぞれを美術品として鑑賞できる構成となっていた。」（山梨委員）
期待される成果 ・ねらい ・主なターゲット	【期待される成果・ねらい】 ・美術を見慣れた層にも新鮮な視点を紹介する。「漱石の視点」という新機軸を導入することで、美術館リピーターにも刺激的な鑑賞体験を提供する。 ・文学ファンにも美術館に足を運んでもらい、より立体的に明治の文化をあじわってもらう契機とする。 【主なターゲット】 ・日本や英国の近代美術を愛好する層。 ・漱石をはじめとする日本近代文学を愛好する層。 ・美術や文学にとくに造詣が深いわけではないが、「こころ」や「吾輩は猫である」等を通じて夏目漱石に親しみのある層。	・観覧者数は目標の51.7%と下回ってしまった。しかし、3月に開催した広島県立美術館の観覧者が約10,000人であったことを考えると、メディア露出等による漱石展の認知度が高まったことが、集客につながったと考えられる。 ・夏休み期間中だったことから、小中高生の観覧者の割合が高かった。 ・図録の販売数が、計1,052冊（5.7%）であり、好評だった。県外からの問い合わせも多かった。 ・観覧料収入の減により歳入が対目標の▲8,814千円だったが、歳出を3,135千円削減できたため、最終的な収支は▲5,679千円であった。
指標（数値目標）	観覧者数　36,000人	観覧者数　18,612人
収支計画	・歳出　29,400千円 ・歳入　19,704千円 ・特財率　67.0%	・歳出　26,434千円 ・歳入　10,966千円 ・特財率　41.5%
広報戦略 主な取組	・文学愛好者層にアピールする内容と考えられるため、50～60代の男女がメインターゲットとなると思われる。この年齢層の女性はもとより美術館によく来館されるが、今回は文学の要素があるため男性層もターゲットとなりうる。 ・テレビ静岡・中日新聞との共催により、県民に広く広報する。 ・併せて、漱石映画会実施、地元FM・県庁ラジオ、東京展会期中の「NHK日曜美術館」への館長出演など多様な媒体によって、本展を広く周知する。	・特別広報として、テレビ静岡（840千円）、中日新聞（315千円）と契約し、費用対効果の高い広報を展開することができた。 ・8月18日（日）サールナートホール静岡シネギャラリーにて映画「それから」（1985年）を上映し、幕間に大阪大学大学院教授・上倉庸敬氏による講演会を催した。 　文学と芸術との相互交流をテーマにした同展に相応しい内容、かつ1985年の多くの映画賞に輝いた名作のフィルムによる復活上演という話題性もあり、テレビ静岡の取材も駆けつけた。約200名の来場者を集め、催しとしても盛況のうちに終わることができた。
自己評価 今後の課題	【自己評価】 ・研究活動評価委員のコメントに見られるように、漱石の眼を通して近代美術を見直すという趣旨を観覧者に伝えることは達成されたと考えられる。また、この展覧会趣旨を裏付ける現場の展示構成もおおむね評価を得た。 ・加えて、本展の内容は全国紙でも高い評価を得た。『朝日新聞』（平成25年12月19日）では、北澤憲昭氏・山下裕二氏の2名の評論家が、『毎日新聞』（平成25年12月26日東京夕刊）では、美術評論家の高階秀爾氏がそれぞれ平成25年の優れた展覧会3本の一つとして本展を挙げている。 ・動員の面でも、圏域人口の大きな広島展（広島市人口：約118万、静岡市人口：約71万）の観覧者数が約1万人に留まったなかで、18,000人を超える観覧者を集め、まずますのものとなった。 【今後の課題】 ・潮江研究活動評価委員のコメントには、「西洋美術についての記述に関して、理解が十分とは言えない箇所が見出された」との指摘がみられた。これはイギリス美術を多く扱う展覧会でありながら本展学芸チームに西洋美術の専門家がゼロという体制上の不備によるところが大きい。各美術ジャンルごとのチーム分けは作品管理の上では有用だが、展覧会運営にあたっては、展覧会内容に応じた横断的で柔軟なチームマネジメントが求められる。 ・一方、まずまずの動員数を集めながら、経済的には苦戦した。これは、歳出の75%強を占める負担金を入館者数だけではまかないきれない現実が現れたものといえる。	

（様式1）

展覧会自己点検評価表

展覧会名	「世界遺産登録記念　富士山の絵画」展

期　間	9月7日（土）～10月20日（日）（38日間）
場　所	静岡県立美術館第1～6展示室

担当者名	福士（学芸）、横畑（総務）

学芸員の企画への参加の有無	(有)・無	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等	(有)・無
マスコミ等による共催の有無	(有)・無	巡回の有無	有・(無)

記入日	企画	平成25年4月1日
	実績	平成26年3月31日

	企画	実績・検証
目的・内容	・6月頃に富士山が世界文化遺産に登録される見込みであることを踏まえ、いにしえより信仰の対象とされ、様々な芸術活動の源泉となってきた富士山の文化的意義を改めて示すために、中世から近代に至る富士山の絵画を一堂に展観する。 ・当館の富士山絵画を充分に活用することで、特色あるコレクションについて多くの方々に知っていただく。 ・新出作品の発掘に努め、富士山という古典的テーマに新しい視点を提示することも試みる。	【研究活動評価委員会からの意見（要約）】 ・コンセプトが明快で展示も見やすく、富士山絵画の展開がよく理解できる。また、さらなる調査研究への展開も期待できる内容となっている。（金原委員） ・江戸時代の絵画に特化し、富士山図の多様性を示した点にこれまでの富士山展にない独自性がある。館蔵品を有効活用すると同時に、新出作品を発掘している点も評価したい。（榊原委員）
期待される成果 ・ねらい ・主なターゲット	・世界遺産への登録に当たっては、県内有数の景勝地でもある「三保松原」および「白糸ノ滝」が構成資産として選定されている。この点に注目し、富士山信仰はもとより、県内の構成資産として重要な位置を占める両者が富士山と組み合わされることで、どのような景観を形作ってきたのかについても検証する。 ・富士山絵画に関するこれまでの言説を単に繰り返すだけでなく、学術的にも意義のある展示とすることを目指す。 ・古美術が中心となることから、県内居住の中高年層を主たるターゲットとし、さらに世界遺産登録に触発された県外中高年層、県内の若年層を取り込みたい。	【アンケートにみる特徴】 ・回答者の66.1%を50歳以上の中高年層が占め、居住区域も静岡市が最も多い(38.3%)。 ・一方で、新規来館者も2割を超え、このうち6割近くが県外居住者であることは特徴的である。 ・来館のきっかけは、「新聞を見て」が28.7%と突出して多く、次いでテレビが19.0%となっており、両者で半数近くの来館をうながしていることになる。 ・「心地よく鑑賞」は、91.3%、「スタッフの対応の適切さ」81.6%、「来館を勧めたいか」 72.9%と、いずれも高い数値を示した。
指標（数値目標）	観覧者数　14,000人 作品やテーマに興味を持った人の割合　70%	観覧者数　17,781人（127.0%） 作品やテーマに興味を持った人の割合　87.5%
収支計画	・歳出　9,250千円 ・歳入　5,017千円 ・特財率　54.2%	・歳出　7,976千円 ・歳入　7,023千円 ・特財率 88.1%
広報戦略 主な取組	・世界遺産登録によって、富士山に大きな注目が集まることは確実である。その盛り上がりを利用し、うまくパブリシティが展開できるよう各マスコミに早いうちから働きかけを行っていく。	・予想通り増加した作品画像提供依頼に対し、展覧会広報扱いでの画像提供を提案することで、広範なエリアに展覧会情報を発信することができた。 ・日曜美術館アートシーン、芸術新潮、視点論点、朝日新聞などのメディアを通じ、全国への情報発信ができたことは、事前の広報戦略が功を奏したものといえる。 ・マスコミとの名義共催もねらい通りの効果を発揮した。
自己評価 今後の課題	・収蔵作品を充分に活用し、新たな作品も提示しつつ、富士山の文化的意義を考えるという展覧会の目的は、納得のいく水準とすることができたと考えている。 ・アンケート結果にみる「全体的な満足度」は、91.6%、また「作品やテーマへの興味・関心の深まり」は、87.5%と、いずれも高い数値に達した。また、自由回答欄に寄せられたコメントからも、本展の目的・内容はおおむね鑑賞者に理解され、満足が得られたといえる。 ・来館者数自体は目標を大幅に上回り、特財率も90%近い数値を達成したことは、この規模の展覧会としては大いに評価できる。 ・10代、20代の来館者は1割程度にとどまり、若年層の来館に課題を残した。 ・約15%の来館者がポスターをきっかけとして挙げており、依然として重要な広報媒体の一つであることは確かである。より魅力的なポスターとするため、デザイナーについての情報取集をすすめていくことも重要である。	

（様式1）

展覧会自己点検評価表

展覧会名	静岡県立美術館所蔵「二見彰一」展

期　間	11月22日（火）～1月19日（日）（ 47 日間）
場　所	静岡県立美術館第1～6展示室

担当者名	新田（学芸）、青木（総務）

学芸員の企画への参加の有無	(有)・無	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等	(有)・無
マスコミ等による共催の有無	有・(無)	巡回の有無	有・(無)

記入日	企画	平成25年4月1日
	実績	平成26年3月31日

	企画	実績・検証
目的・内容	二見彰一は、戦後日本の銅版画をリードしてきた作家の一人であり、日本のみならずヨーロッパで高い評価を受けてきた。当館は2009（平成21）年度に作家自身からの寄贈を受け、それに先立つ収蔵品と合わせ、137点の作品を所蔵しているが、これらをまとめてご覧頂く機会が、設けられてこなかった。本展は収蔵品を核とし、作家からの資料や借用品を追加することで、この作家の全貌を紹介する。二見彰一についての国内で大規模な個展が開催されるのは、本展が2回目であり、静岡県内では初めてである。	【研究活動評価委員会からの意見（要約）】 「版画のワンマンショウとしては規模が大きく、この版画家の特色である豊かな詩情、それでいて静謐なところをよく味わうことが出来る展示となっている」「作者の好む音楽が、鑑賞に邪魔にならないように配慮されながら館内に流れていた。これは新しい試み（仏教美術展の時以来か）であり、展示が広くゆったりした構成で、自由に作者のイメージを感得できよう」「寄贈されてから時間がたっての展覧会であり、それだけによく配慮された展示であり、それを反映した図録となっている。もっとはやく展覧会を実現できたら、よかったと思う。」（金原委員）
期待される成果 ・ねらい ・主なターゲット	二見作品をモノクロで記録したカタログレゾネは1987年に刊行されているが、良質なカラーで作品を多数紹介した文献はほぼ皆無である。本展カタログは、二見本来の特徴であるその色彩を出来るだけ忠実に再現すること、併せてこの作家についての文献、略歴等を可能な限り網羅的に作成することで、今後、この作家や近しい分野についての研究調査が行なわれる際の、基礎となることを目指した。展示に際しては、単調にならぬよう、作品やケースの配置、照明に留意した。作家が音楽と深い関わりを持っていることから、展示室にも音楽を流した。これは鑑賞空間に少々変わったニュアンスをもたらすのに役立った。 鑑賞者の性別、年齢、居住地は問わないが、文明展程の幅広い層へのアピールは無理かと思われる。	【アンケートにみる特徴】 際立って大きな特徴は無いと思われる。この年度にアンケートを実施した「富士山の絵画」「グループ幻触」と比較しても、全体の満足度で両展の中間（91.0%）、展覧会への評価についても、全体で両展の中間（肯定的な評価が84.5%）、会場で心地よく観覧出来たかについても中間（肯定的評価が91.1%）である。女性の観覧者数がやや多かった（59.8%）が、これも両展との比較の問題である。 このことは、本展覧会が特定の層だけではなく、幅広い方々にアピールした結果かと考える。
指標（数値目標）	観覧者数　13,000人 作品やテーマに興味を持った人の割合	観覧者数　7,577人 作品やテーマに興味を持った人の割合84.5%
収支計画	・歳出　5,691千円 ・歳入　3,916千円 ・特財率　68.8%	・歳出 6,359千円 ・歳入 2,017千円 ・特財率 31.7%
広報戦略 主な取組	多様な媒体によって、本展を広く周知する。 広報媒体に掲載を依頼するための材料として、会期中に実施するコンサート、銅版画ちょこっと体験、学芸員によるフロアレクチャー等を増やす。	「来館のきっかけ」「この展覧会のことを誰かに伝え、来館を勧めたいか」いずれの項目でも、アンケートからは大きな特徴を読み取り難いと思われる。自由意見の欄に、会場で流していた音楽や、イベントへの肯定的な評価など、「来館してみたら予想よりも良かった」という感想があることから、来館のきっかけ作りとしてのイベントの追加は、それなりの効果があったものと考える。
自己評価 今後の課題	地味な展覧会であり、大規模な観覧者数は当初から見込まれてはいなかった。実際に作品をご覧頂いた方には、十分にご満足頂けたかと思われる。 本展の如く、開催の意義はあっても観覧者数を見込めない展覧会の開催を、今後も続けていくためには、年間、あるいは複数年度をまたいでの展覧会計画が重要かと思われる。個々の展覧会における収支のみを見ているだけでは、当館の使命を十分に果たせないのではないだろうか。 また、本展出品作品の核となったのは、当館収蔵品である。作品購入を正しく継続し、コレクションに広さと深さを与え続けていくことが、当館展覧会活動にとって、今後ますます重要性を増していくと思われる。	

（様式１）

展覧会自己点検評価表

展覧会名	グループ幻触と石子順造展

期　間	2月1日（土）～3月23日（日）（44日間）
場　所	静岡県立美術館第１～6展示室

担当者名	川谷(学芸)、阿形（総務）

学芸員の企画への参加の有無	(有)・無	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等	(有)・無
マスコミ等による共催の有無	有・(無)	巡回の有無	有・(無)

記入日	企画	平成25年4月1日
	実績	平成26年3月31日

企画		実績・検証
目的・内容	1966年に静岡を拠点に結成された美術家集団、グループ「幻触」は、1956年から64年まで清水で暮らした気鋭の評論家石子順造との深い交流を通して、時代を先駆ける作品を発表し、1960年代末から1970年初頭にかけての日本の現代美術シーンにおいて、重要な足跡を残した。本展では、鈴木慶則、前田守一、飯田昭二、丹羽勝次、小池一誠の5人の作家を中心とするグループメンバーの表現と同時代の美術の動向を、石子順造の美術批評との関わり、および当時の資料をもとに読み解き、グループの全貌を明らかにする。	・現存作家への取材、同時代の文献の収集などを丁寧に行い、作品・資料ともに掘り起こした充実した展覧会であった。1950年代以降の美術を考える上でも、また「幻触」に至る日本近代美術の流れを考える上でも重要な展観であった。（山梨委員評価レポート） ・展覧会「幻触」を再現して、その前後にも気を配った貴重な企画である。複雑な運動体を導入部から展開、終りへと流れが理解できるところがユニークで、広く調査しており、文献、実作品ともに充実している。刊行予定であるテキスト（展覧会のコンセプトや解説）が会期中に発刊されるべきであった。展覧会中に読めないことは惜しまれる。（金原委員評価レポート） ＜その他展評より＞ ・幻触の作品と石子にまつわる資料を幅広く紹介した画期的な展覧会だ。時代を物語る事物を背景にすることで謎に包まれていた 幻触の輪郭が、鮮やかに浮き彫りになったのである。 福住廉「まぼろしの輪郭『グループ「幻触」と石子順造1966-1971』」『美術手帖』2014年5月号 ・本展は地方美術館ならではの取り組みとして、その開催の意義は大きく、なにより丹念な調査と研究の積み重ねによって、知られざる「幻触」の総体を明らかにしたという点において高く評価されてしかるべきであろう。 学芸員レポート「グループ『幻触』と石子順造 1960-1971」工藤健志（青森県立美術館）artscape2014年04月01日号 http://artscape.jp/report/curator/10097714_1634.html
期待される成果 ・ねらい ・主なターゲット	・ねらい 静岡ゆかりのグループ幻触と評論家石子順造の関わりの全貌を紹介する展覧会。1960年代末から1970年初頭にかけての日本の現代美術史に与えた影響を検証するとともに、再評価を行う。 ・主なターゲット（年齢、性別、居住地など） 幅広い年代の現代美術の愛好者（20代～70代の男女静岡） 1960年代～70年代の日本現代美術に関心のある美術関係者、研究者、学生	＜観覧者・収支＞ ・ 観覧者数は目標の58.6%と下回った。 ・ 図録については、別冊図録の発行が当初予定よりも遅れてしまい、販売価格も2,400円と通常より高額であったが、購買率5.2%と好評であった。 ・ 歳出は、役務費の節約等で約3,500千円削減できた。 ＜展覧会アンケート＞ ・展覧会満足度88.2%と、本年度平均（90.9%）を下回った。 ・新規来館者数が、28.0%と本年度平均（25.7%）を上回った。 ・年齢層では、13～19歳、20歳、30歳の来場者割合が、本年度平均を大きく上回った。一方、50歳～70歳代が、大きく下回った。
指標（数値目標）	観覧者数　12,000人	観覧者数　7,033人
収支計画	・歳出　15,408千円 ・歳入　6,865千円 ・特財率　44.6%	・歳出　12,617千円 ・歳入　3,930千円 ・特財率 31.1%
広報戦略 主な取組	・「むすびじゅつ」の実施 文化庁より「地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」の枠での補助金を受け、「『むすびじゅつ』静岡の芸術文化を掘り起こす共働事業」を実施する。 ・鈴与特別協賛について 石子順造が鈴与（株）に勤務していたことがあったため、鈴与グループに公報協力及び協賛を依頼。 ・小中学生向け招待状について グループ「幻触」が清水で生まれた美術家集団であることを考慮して、静岡市内の小中学生向けの招待状（同伴者は2名まで割引料金で入館可）を作成し、市内小中学校の美術担当主任に生徒に直接配布していただけるよう依頼した（配布枚数約53,500枚）。	・「むすびじゅつ」の名称で、近隣の4つの文化施設と連携して、「幻触」展に関連を持たせた事業を展開した。ジャンルを超えた多面的な情報発信を行うことによって、結果的に美術館の企画展の内容に関心を持つ人の数を増やすことにつながった。 ・鈴与グループ関連会社（ガソリンスタンド、フェリー・ドリームプラザ等）へポスター、チラシ、割引券を配布したほか、鈴与社内報への記事掲載、退職者向けメーリングリストの送信、幻触展作家のエフエム清水への出演等の広報を展開した。また、協賛として前売券400枚（320千円）を購入いただいた。 ・小中学生向け招待状の利用枚数は192枚（同伴者割引人数271名）で、回収率は0.36%と低かったが、他の団体券に比べ利用枚数は多く、招待状配布後は、団体除く小中学生の入館者37.3%が招待券を利用していた。
自己評価 今後の課題	【自己評価】 再評価が進んでいるとはいえ、未だ広く知られていない、グループの輪郭を浮き上がせ、美術史の中に落とし込むという、事前に目指した課題に対しては、展示、図録ともにある程度の成果を出せたと思う。複数の作家による作品と、ドキュメンテーション、石子順造の美術批評、これら性質の異なる素材を扱いながら、まとまりを持った展覧会として組み立てる事は、非常に難しい課題であった。その解決策として、展示を補う目的で、石子の批評文とグループの活動を伝える写真や資料を、図録の形を借りて、時系列に整理し掲載するという方法を取った。ドキュメンテーションの編集に膨大な時間を要してしまい、エッセイや年表といった本来的な図録の内容制作にかけるべき時間を、大幅に奪ってしまう結果となり、分冊となり、別冊の刊行が大幅に遅れてしまったことは大いに反省すべき点である。一方で、幻触の作家や、石子と接点がある戦後美術の重要な作家のひとりである李禹煥李の未掲出の論文を、図録本編に、全文掲載することができた点、これまでにまとめられる機会のなかった、幻触の作家の個人プロフィールを別冊に掲載する事ができた点は、今後のこの分野の美術史研究にも寄与することと思う。全体の流れを作ることに注力したため、キャプション等での個別の作品の説明まで力が及ばなかった点が、悔やまれる。 【今後の課題】 今回の展覧会を通じて、地域の作家や研究者から、多くの反応を頂戴した。地域とともにある美術館として、今後、検証するべき作家を洗い出して、検証していきたい。それとともに、出来上がった言説に疑いを持ち、新たな視点で、戦後美術史を読み直していく作業も、同時並行して進めていきたい。	

【Ⅱ－２】

調査・研究に関する自己点検評価報告書（平成 25 年度）

調査・研究に関する自己点検　報告書

提出日　平成 26 年 3 月 31 日

職・氏名　　学芸部長兼学芸課長　　小針由紀隆

●専門分野　　西洋美術史
●所属学会　　美術史学会、三田芸術学会
●主要研究テーマ　　17～19 世紀イタリアにおける風景画に関する諸問題

1．今年一年間に執筆した主な論文
（カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等）
『ローマ――外国人芸術家たちの都市』（共著、竹林舎、2013 年）
『版画の写像学』（共著、ありな書房、2013 年）
『フランス近世美術叢書Ⅱ　絵画と受容』（共著、ありな書房、2014 年）

小計 3 本

2．今年１年間に携わった展覧会及び普及事業
ふじのくに芸術祭 2013（第 53 回静岡県芸術祭）10 月 29 日～11 月 1 日

小計１本

3．上記以外の専門領域活動及びその他の活動

ヤマザキマザック美術館ギャラリートーク講師　5 月 3 日
富士山世界遺産センター展示実施計画検討会委員　9 月 6 日、10 月 28 日
出張美術講座（伊豆市日本航空高等学校）　11 月 21 日
静岡市美術館運営協議会　6 月 21 日、12 月 12 日
マウントカルチャー講座講師　9 月 28 日
ふじのくに子ども芸術大学実行委員会　４月 19 日、1 月 15 日
ふじのくに芸術祭 2013（第 53 回静岡県芸術祭）美術部門審査員　10 月 24，25 日
国立西洋美術館美術品価格評価員　2 月 26 日
静岡県立大学「世界の文化遺産」講義　12 月４日
静岡県舞台芸術センター評議員会　　6 月 29 日、3 月 18 日
富士山世界遺産ポスター選考委員

小計 11 本

4．収蔵作品に関する論文・発表等

小計０ 本

合計１５ 本

調査・研究に関する自己点検　報告書

提出日　平成 26 年 3 月 30 日

職・氏名　　上席学芸員　・　角田　新

●専門分野　　日本油彩画
●所属学会　　無し
●主要研究テーマ　　名井萬龜・菅井汲

1．今年一年間に執筆した主な論文
（カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等）

特になし

小計０本

2．今年１年間に携わった展覧会及び普及事業
・移動美術展
・「夏目漱石の美術世界」展補助
・「グループ「幻蝕」と石子順造　１９６６－１９７１」展補助

小計３本

3．上記以外の専門領域活動及びその他の活動

特になし

小計０本

4．収蔵作品に関する論文・発表等

特になし

小計０本

合計３本

調査・研究に関する自己点検　報告書

提出日　平成 26 年 3 月 26 日

職・氏名　　上席学芸員　・　南　美幸

●専門分野　　美学・美術史
●所属学会　　美術史学会、日仏美術学会
●主要研究テーマ　　西洋美術史、ロダン関連

1. 今年一年間に執筆した主な論文
(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

1　「絵師・下岡蓮杖に関する一考察　西洋的手法から見る作画態度」(2014. 東京都写真美術館監修『下岡蓮杖　日本写真の開拓者』国書刊行会)
2　「下岡蓮杖のキリスト教絵画－『手本』を中心とする考察」(『静岡県立美術館紀要』第 29 号)

小計　2　本

2. 今年１年間に携わった展覧会及び普及事業

1　企画展「二見彰一展」　副担当
2　収蔵品展「挿絵・書籍の楽しみ」　企画・実施
3　収蔵品展「挿絵・書籍の楽しみ」　フロアレクチャー　1 回
4　ロダン館タッチ・ツアー　4 件

小計 4 本

3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

小計　本

4. 収蔵作品に関する論文・発表等

小計　本

合計 6 本

調査・研究に関する自己点検　報告書

提出日　平成 26 年 3 月 18 日

職・氏名　　上席学芸員　新田建史

●専門分野　　美学美術史
●所属学会　　地中海学会、保存修復学会
●主要研究テーマ　　西洋 16～18 世紀美術、東西美術交流史、東西版画史、文化財保存

1．今年一年間に執筆した主な論文
（カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等）
・「二見彰一展」カタログ
・「ブルーの探究、あるいは深みを視ることについて」『二見彰一展』カタログ所収

小計 2 本

2．今年 1 年間に携わった展覧会及び普及事業
・「二見彰一展」　主担当
・「二見彰一 自らの作品を語る」11 月 23 日（土・祝）
・「二見彰一展 音楽と美術と」2014 年 1 月 12 日（日）、13 日（月・祝）
・「ちょこっと体験講座 銅版画」2014 年 1 月 8 日（水）～12 日（日）
・「二見彰一展 関連銅版画講座　アクアチント講座 構成の愉しみ」2014 年 1 月 13 日（月・祝）
・「学芸員によるフロアレクチャー」11 月 24 日（日）、12 月 4 日（水）、14 日（土）、18 日（水）、2014 年 1 月 2 日（木）、8 日（水）

小計 12 本

3．上記以外の専門領域活動及びその他の活動
・「文化財保存修復学会第 35 回大会 セッション 4 座長」7 月 20 日（土）
・「静岡県文化財等救済ネットワーク会議」10 月 19 日（土）
・「静岡市文化財サポーター養成講座 第 4 回」講師　2014 年 2 月 8 日（土）

小計 3 本

4．収蔵作品に関する論文・発表等
・「静岡県立美術館における低酸素濃度殺虫処理の実施と今後の課題について」
7 月 20 日（土）、文化財保存修復学会第 35 回大会
・「静岡県文化財等救済ネットワークの試みについて」
7 月 20 日（土）、文化財保存修復学会第 35 回大会

小計 2 本

合計 19 本

調査・研究に関する自己点検　報告書

提出日　平成 26 年 3 月 25 日

職・氏名　　上席学芸員・村上 敬

●専門分野　　日本近代美術史、文化資源学
●所属学会　　美学会、美術史学会、文化資源学会、明治美術学会、意匠学会
●主要研究テーマ　　近代日本工芸・デザイン史

1. 今年一年間に執筆した主な論文
(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

・「川村清雄《天の石屋戸の図》の発見」『アマリリス』No.110　平成 25 年 6 月

小計 1 本

2. 今年 1 年間に携わった展覧会及び普及事業

・企画展「夏目漱石の美術世界」　担当
・同展　シンポジウム「夏目漱石の美術世界」運営　1 回
・同展　講演会「夏目漱石の美術世界」運営　1 回
・同展　映画「それから」ミニレクチャー付き上映会運営　1 回
・同展　フロアレクチャー　1 回
・収蔵品展「佐伯祐三、里見勝蔵と独立の画家たち」担当
・同展　フロアレクチャー　1 回

小計 7 本

3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

・口頭発表「「留守模様」としての歴史画――川村清雄《建国》をめぐって」(第 64 回美学会全国大会) 東京藝術大学、平成 25 年 10 月 13 日

小計 1 本

4. 収蔵作品に関する論文・発表等

・

小計 0 本

合計 9 本

調査・研究に関する自己点検　報告書

提出日　平成 26 年 3 月 18 日

職・氏名　　主任学芸員・福士　雄也

●専門分野　　美術史
●所属学会　　美術史学会、近世絵画研究会
●主要研究テーマ　　日本近世絵画史

1. 今年一年間に執筆した主な論文
(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

・「古画愛好の時代―狩野惟信《徽宗筆水仙鶉図模本》から見えてくること―」『美術フォーラム 21』第 27 号　醍醐書房　2013.5
・「富士画 1000 年史」『芸術新潮』第 64 巻第 9 号（富士山大特集）　2013.8.24
・「富士見のトポスとその変遷―「発見」される富士山」『世界遺産登録記念　富士山の絵画』展図録　静岡県立美術館　2013.9
・(作品解説)『世界遺産登録記念　富士山の絵画』(展覧会図録)　静岡県立美術館　2013.9
・(作品解説) 大倉集古館編、板倉聖哲監修『描かれた都―開封・杭州・京都・江戸』東京大学出版会　2013.10
・「大岡雲峰《日金山富嶽眺望図》について―関東南画の一系譜―」『アマリリス』No.111　2013.10
・「司馬江漢が描いた富士山」『静岡商工会議所報　Sing』12 月号　2013.12
・「池大雅筆　翠嶂懸泉図」『國華』1418 号　2013.12
・「高芙蓉筆　富士川西岸望富嶽図」『静岡県立美術館紀要』第 29 号　2014.3

小計 9 本

2. 今年１年間に携わった展覧会及び普及事業

・企画展「世界遺産登録記念　富士山の絵画」展（2013.9-10）　主担当
・同展　特別講演会　1 回
・同展　美術講座　1 回
・同展　フロアレクチャー　2 回
・収蔵品展「没後 150 年　福田半香とその師友」展（2014.2-3）　主担当
・同展　フロアレクチャー　1 回
・出張美術講座　1 回

小計 7 本

3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

・講演「「世界遺産登録記念　富士山の絵画」展の裏側」静岡県立美術館（清水銀行プレゼンツ）2013.09.22
・美術講座「富士山―信仰と芸術の山―」静岡県立美術館　2013.10.6
・講演「富士見のトポスとその変遷―富士山をどこから描くか―」静岡県立大学小講堂（ムセイオン、マウントカルチャー講座）2013.11.23
・講話「富士山の美術史」静岡文化会議　2014.1.21
・番組出演「日曜美術館　夢の傑作 10 選―富士山―」(谷文晁《富士山図屏風》について) NHK 教育　2013.7.28 放送
・番組出演「たっぷり静岡」(富士山と三保松原について) NHK 総合（静岡）　2013.8.1 放送
・番組出演「視点論点」(「芸術の山　富士山」) NHK 総合　2013.9.6 放送
・世界遺産富士山に係る名勝総合調査検討委員会委員（静岡県教育委員会からの委嘱）
・三保松原保全活用計画検討委員会委員（静岡市文化財課からの委嘱）

小計 9 本

4. 収蔵作品に関する論文・発表等

・「古画愛好の時代―狩野惟信《徽宗筆水仙鶉図模本》から見えてくること―」静岡県立美術館研究会　2013.5.15

小計 1 本

合計 26 本

調査・研究に関する自己点検　報告書

提出日　平成 26 年 3 月 18 日

職・氏名　　上席学芸員・三谷理華

●専門分野　　美術史
●所属学会　　美術史学会、美学会、日仏美術学会、ジャポニスム学会、
九州藝術学会、Société de l'histoire de l'art français、ICOM
●主要研究テーマ　　ヨーロッパ近代美術史、日仏文化交流史

1. 今年一年間に執筆した主な論文
(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

1　「ロダンとコラン　ロダン美術館の文書が物語る芸術家の交友」『静岡県立美術館ニュース　アマリリス』第 109 号、平成 25 年 4 月

小計　１本

2. 今年１年間に携わった展覧会及び普及事業

1　企画展「草間彌生　永遠の永遠の永遠」展　主担当
2　同展　フロアレクチャー　１回
3　同展　特別講演会「草間彌生の世界」(講師：建畠哲氏)　１回
4　同展　映画上映会「≒草間彌生　わたし大好き」（2008年日本、監督：松本貴子）２回
5　同展　こどもワークショップ　「ヤヨイちゃん夢の旅日記」　２回
6　同展　ぬりえちょこっと体験　「ヤヨイちゃん夢の旅日記」　６回
7　企画展「佐伯祐三とパリ　ポスターのある街角」展（準備）　主担当
8　同展　プレ企画「トークセッション 映画×宝塚！？佐伯祐三が憧れた 1920 年代のパリをもっと知る二つのキーワード」　１回
9　移動美術展（小山町、袋井)、次年度移動美術展の準備　副担当
１０　収蔵品展「グループ『幻触』と石子順造 プレ企画　前衛の駆け抜けた頃」展　主担当
１１　同展　フロアレクチャー　１回
１２　同展　アート鑑賞講座　３回

小計　１９本

3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

1　ムセイオン静岡連続講演会 マウント・カルチャー∞「セザンヌとサント・ヴィクトワール―南フランスの富士山？」
2　第１回ジャポニスム学会奨励賞受賞記念講演会「ラファエル・コランの極東美術コレクション―新出旧蔵品について」

小計　２本

4. 収蔵作品に関する論文・発表等

小計 0 本

合計　２２本

調査・研究に関する自己点検　報告書

提出日　平成 26 年　　3 月　　18 日

職・氏名　　上席学芸員・川谷承子

●専門分野　　現代美術史
●所属学会
●主要研究テーマ　　日本の戦後美術

1. 今年一年間に執筆した主な論文
(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

・石田徹也とその時代（「石田徹也展図録『石田徹也ノート』」
・グループ「幻触」と石子順造（「グループ『幻触』と石子順造」展図録）

小計　2　本

2. 今年１年間に携わった展覧会及び普及事業
・石田徹也展　ノート、夢のしるし―
・グループ「幻触」と石子順造　1966－1971　時代を先駆けた冒険者たちの記録

・めぐるりアート静岡（静岡大学との連携事業　アートマネージメント講座の一環として開催）
・平成 25 年度「むすびじゅつ」静岡の芸術文化を掘り起こす共同事業（グループ「幻触」と石子順造展の関連企画として、市内 4 施設と連携した、事業を展開した。）

小計　４本

3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動
・現代美術の展望ＶＯＣＡ展２０１４―新しい平面の作家達―
（主催：「ＶＯＣＡ展」実行委員会、開催：上野の森美術館）
作品推薦者として、静岡出身の臼井良平を推薦し、図録に推薦文を寄稿した。

・浜松市美術館の今年度収集される作品の評価のため、委員の一人として、美術資料審査会に出席した。

小計　２本

4. 収蔵作品に関する論文・発表等
コレクション解説シート　前田守一《遠近のものさし》

小計　１本

合計　９本

調査・研究に関する自己点検　報告書

提出日　平成 26 年 3 月 24 日

職・氏名　　主任学芸員・石上充代

●専門分野　　近世近代の日本画
●所属学会　　美術史学会、近世絵画研究会
●主要研究テーマ　　日本近世近代絵画史

1. 今年一年間に執筆した主な論文
(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

「鈴木松年《日本武尊・素戔嗚尊図屏風》―右隻主題の検討を中心に―」『アマリリス』113 号 研究ノート　平成 26 年 3 月

小計 1 本

2. 今年１年間に携わった展覧会及び普及事業

1　企画展『夏目漱石の美術世界』副担当
2　企画展『富士山の絵画』副担当
3　収蔵品展『大地から―日本画の情景』担当
4　『夏目漱石の美術世界』フロアレクチャー 8/10
5　『富士山の絵画』フロアレクチャー 9/14
6　『大地から―日本画の情景』フロアレクチャー 2/8
7　大学連携普及事業「ARU」担当
8　出張美術講座 9/24

小計 8 本

3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

小計　本

4. 収蔵作品に関する論文・発表等

「鈴木松年《日本武尊・素戔嗚尊図屏風》―右隻主題の検討を中心に―」『アマリリス』113 号 研究ノート　平成 26 年 3 月（1 に既述）

小計（1）本

合計 9 本

調査・研究に関する自己点検　報告書

提出日　平成 26 年　　3 月　　25 日

職・氏名　　学芸員　浦澤倫太郎

●専門分野　　美術史
●所属学会　　美術史学会
●主要研究テーマ　　日本近世絵画史

1．今年一年間に執筆した主な論文
（カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等）

小計 0 本

2．今年１年間に携わった展覧会及び普及事業
企画展「富士山の絵画」（副担当）
移動美術展（副担当）
富士山の絵画フロア・レクチャー　１回
ロダン賞受賞記念コンサート

小計 4 本

3．上記以外の専門領域活動及びその他の活動

小計 0 本

4．収蔵作品に関する論文・発表等

小計 0 本

合計 4 本

【Ⅱ－３】

定性評価の状況（平成 25 年度）

評価指標５	展覧会に対する外部評価

【夏目漱石の美術世界展】〈自主企画展〉

- テーマにおいては野心的で画期的、内容においては十分な議論と周到な準備が行われた上でのこれ以上ないほど充実したもの。（図録において）唯一残念なことは、西洋美術についての記述に関して、理解が十分とは言えない箇所が見出されたことだろう。（潮江委員）
- 古今の西洋画、日本東洋の古美術、明治末から大正期の美術が一堂に会した会場は、漱石の視覚世界だけではなく、その背景となった明治末大正期の視覚世界のひとつの有様を再現したかのようであった。説明的要素の強い展覧会であったが、静岡県立美術館の会場は出品作品それぞれを美術品として鑑賞できる構成となっていた。（山梨委員）

【世界遺産登録記念　富士山の絵画展】〈自主企画展〉

- コンセプトが明快で展示も見やすく、富士山絵画の展開がよく理解できる。また、さらなる調査研究への展開も期待できる内容となっている。（金原委員）
- 江戸時代の絵画に特化し、富士山図の多様性を示した点にこれまでの富士山展にない独自性がある。館蔵品を有効活用すると同時に、新出作品を発掘している点も評価したい。（榊原委員）

【静岡県立美術館所蔵　二見彰一展】〈自主企画展〉

- 版画のワンマンショウとしては規模が大きく、この版画家の特色である豊かな詩情、それでいて静謐なところをよく味わうことが出来る展示となっている。（金原委員）
- 作者の好む音楽が、鑑賞に邪魔にならないように配慮されながら館内に流れていた。これは新しい試み（仏教美術展の時以来か）であり、展示が広くゆったりした構成で、自由に作者のイメージを感得できよう。（金原委員）
- 寄贈されてから時間がたっての展覧会であり、それだけによく配慮された展示であり、それを反映した図録となっている。もっとはやく展覧会を実現できたら、よかったと思う。（金原委員）

【グループ幻触と石子順造展】（自主企画展）

- 現存作家への取材、同時代の文献の収集などを丁寧に行い、作品・資料ともに掘り起こした充実した展覧会であった。1950 年代以降の美術を考える上でも、また「幻触」に至る日本近代美術の流れを考える上でも重要な展観であった。（山梨委員）
- 展覧会「幻触」を再現して、その前後にも気を配った貴重な企画である。複雑な運動体を導入部から展開、終りへと流れが理解できるところがユニークで、広く調査しており、文献、実作品ともに充実している。刊行予定であるテキスト（展覧会のコンセプトや解説）が会期中に発刊されるべきであった。展覧会中に読めないことは惜しまれる。（金原委員）

評価指標 9	調査研究に対する外部評価

①研究紀要 南美幸「下岡蓮杖のキリスト教絵画−「手本」を中心とする考察」

（坂本委員）

- 現在利用可能の資料を駆使してはじめて画家として（それも洋風画家としての面に限られるが）の蓮杖の存在を明確にしたという点で高く評価できる。
- 洋風画家たちが、キリスト教的主題を描かなかったことを改めて気付かせられた。19 世紀がすでに非宗教的時代であったというだけでなく、16 世紀以来の禁教の影響も、背景にあるのではないか、と私は考えたくなるが、南氏の御意見を伺いたいと思った。

②研究紀要 福士雄也「高芙蓉筆　富士川西岸望富嶽図」

（金原委員）

- 高芙蓉研究は実作が残されているものが少なく、困難を極める。その状況のなかで、県立美術館で出品し、富士山図像を多く実見して、研究を進めたのは貴重である。
- 特に「実景図において描かれている場所が理解できることが重要だ」という論者の意見は大切である。享受者の研究、鑑賞者がどのような人々であったか。作品の制作者（担い手）のみならず、享受者の歴史でもあるのが美術史であるので、大いにこうした真景図の成り立ちを探求されたい。

（榊原委員）

- 18 世紀以降の近世絵画史を記述する上で最大の論点たる真景図の問題に、一点の作品を手掛りに取組み、そこに着けられた賛詩の意味を説いた点は大変興味深い。以前展示した折、小品ながら実に実感のこもった、よい作品だと思ったことが記憶にあるが、今回の論文の指摘で改めて作品のよさ、素直な描写に納得した。

- 今後は、池大雅の「児島湾真景図」や「浅間山真景図」など著者が保留にした問題点を含めた真景図論を期待する。今回の結論と密接な関係があると思うからである。

評価指標 14	公開・貸し出した展覧会における学芸員のレポート

【西洋】

近年、当館収蔵品の海外での公開が増加している。今年度は、ポール・ゴーギャン《家畜番の少女》を、ソウル市立美術館で開催された「ゴーギャン：神話への旅」展に出品した。「旅」をテーマに、ゴーギャンの足跡を 50 余点の作品で辿った本展には、ボストン美術館の名品も出品され、当館作品は初期の代表作の一つとして位置づけられた。約 3 か月間開催されたソウル初のゴーギャン展を訪れた鑑賞者は約 53 万人で、日本で唯一の出品館となった当館の名前とコレクションをアピールする好機となった。

【日本画】

例年以上に作家の回顧展への出品が目立った。「応挙」展（愛知県美術館）への円山応挙《木賊兎図》の出品を皮切りに、狩野山雪《富士三保松原図屏風》ほか 4 点が「山楽・山雪」展（京都国立博物館）、谷文晁《連山春色図》ほか 6 点が「谷文晁」展（サントリー美術館）、下村観山・横山大観《日月蓬莱山図》が二つの観山展（横浜美術館、駿府博物館）、今村紫紅《宇津の山路》が「今村紫紅」展（三溪園）に出品されるなど、当館収蔵作品が各作家の重要作品として改めて位置付けられた。加えて、各地で開催された江戸狩野に関する展覧会（埼玉県立歴史と民族の博物館、出光美術館、徳島市立徳島城博物館ほか）にのべ 15 点、世界遺産登録で盛り上がりを見せた富士山関連の展覧会（パラミタミュージアム、MOA 美術館）に 13 点が出品されたことは、特色あるコレクションを形成してきた当館のこれまでの成果が存分に発揮されたものと言える。

【現代】

草間彌生《無題》が、「内臓感覚―遠くて近い生の声」展（金沢 21 世紀美術館）へ出品された。当館で開催の「草間彌生　永遠の永遠の永遠」展出品との調整により会期半ばからではあったが、金沢での展覧会に是非とも必要という強い要請に応じるもので、作品の評価をさらに高める結果となった。イサム・ノグチ《クロノス》は、「ET IN ARCDIZ EGO 墓は語るか？」展（武蔵野大学美術館・図書館）に出品された。大学美術館の好企画への出品により、作品への注目度も高まった。また石田徹也作品 21 点が、国内 4 会場巡回中の「石田徹也展」に出品中である。最終会場は当館の予定であるが、静岡県出身の美術家の作品を地元内外で紹介し認知度を高める好機として好評を博している。

【日本洋画】

徳川慶喜《風景》が「没後 100 年　徳川慶喜展」（松戸市戸定歴史館、静岡市美術館）に出品された。本作は静岡市内の旧家に伝来した作品で、平成 17 年度に当館に寄贈されて以降、研究者には知られた存在となっていた。今回、徳川慶喜の大回顧展である本展に 10 点近い他の作品群とともに慶喜真筆油彩画群として位置づけられ、多くの目に触れることとなった。また、同展図録に収載された吉田恵理氏の論考「徳川慶喜の書画に関する覚書」でも言及されたことで、今後さらに考究の俎上に載ることと思われる。

評価指標 18	普及・教育プログラムに関する美術館職員のレポート

- 「美術館教室」事業を継続的に行ってきたことにより、学校教育との連携機会が増えてきた。
- とりわけ今年度は粘土貸出の件数が増加し、学校現場が自力で「粘土教室」を開催する地力がつき始めたことをうかがわせた。「指導者向け粘土講習会」などの継続的開催の成果の一端と考えられる。
- 実技系プログラムでは、前年度に引き続き、企画展・収蔵品展にかかわりのある内容の実施をより心がけた。参加者の鑑賞・制作両面からの美術への理解が深まるとともに、美術館ならではのプログラムとなった。
- 学校団体向けボランティアとの鑑賞ツアーの利用数も増加しており、学校現場での鑑賞教育に対する需要の高まりをうかがわせる。
- 前年度は工事休館により利用数が減となっていたロダン館関連のプログラムだが、本年度の利用数は回復傾向をみせている。

評価指標 23	地域空間、住民等と連携した取組に関する職員レポート

・これまでの地域等の連携をさらに深め、地域をパートナーと考える経営を推進した。
さらに地域企業との連携のあり方を検討した。

（１）各展覧会で美術館ボランティア草薙ツアーグループによる来館者サービスお茶会の実施

（２）有度山地域に立地する三施設（県立美術館、ＳＰＡＣ、日本平ホテル）に日本平動物園、久能山東照宮を新たに加えた５施設による「有度山フレンドシップ協定」を平成 25 年 4 月に締結

（３）静岡大学と連携し前期授業単位に認定した「大学生によるロダン館ギャラリートーク」の実施（平成 25 年 7 月 13,14 日 2 日間）

（４）タウンミーティングの開催

・静岡市小中学校図工、美術担当教員「学校と美術館との連携」等（平成 25 年 8 月 7 日）

・草薙商店会役員及び会員「商店会等と美術館の連携のあり方」等（平成 26 年２月４日）

・ムセイオン静岡の取組

谷田地域の文化教育 6 機関（県立大学、美術館、中央図書館、埋蔵文化財センター、SPAC、グランシップ）が多分野における連携を進め、更なる文化の情報発信を目指し、次の事業を実施した。

（１）ムセイオン静岡協働イベント「文化の丘フェスタ」（10 月 26 日～11 月 10 日）事業を開催。当館では「ロダン賞受賞記念　午後のひとときコンサート」を実施。

（２）静岡・富士山世界文化遺産応援シンフォニー「マウント・カルチャー∞（ウロボロス）」（8 回／年）を開催。第 1・4・5・6 回の各講座では当館館長および学芸員が講演。

（３）「富士山」関連イベントの開催

・富士山の絵画展

・富士山世界文化遺産応援シンフォニー「マウント・カルチャー」講座（再掲）

評価指標 28	広報手法における新たな取組状況に関しての美術館職員のレポート

【広報活動】

・ 企画展を中心に、より多くの県民のもとに情報が届き、展覧会への関心を持ってもらえるよう、様々な広報手段を活用し、広報の推進を図るとともに、リアルタイムな美術館情報が入手できるようＨＰの活用を図った。

・ さらに、美術館ニュース「アマリリス」をリニューアルし、県内外の美術館等関係機関に送付して当館の情報発信を行った。

（１）ホームページ　≪アクセス数：977,227 件（H25）≫

（２）展覧会等イベント情報のマスコミへの資料提供

（３）ポスター、チラシの配布、駅貼り、車内吊り

（４）県広報課との連携（県民だより、県政番組、ラジオ番組出演）

（５）広報サポーターへの情報提供

（６）展覧会共催者（新聞社・テレビ局）、協賛者（JR 東海、鈴与グループ）との連携

（７）美術館ニュース「アマリリス」の発行（4 回／年）

【新たな取組】

（１）草間彌生展において、新静岡セノバと連携し、セノバ館内での作品展示・グッズ販売やレストランでの作品にちなんだメニュー販売や展覧会広報を行ったほか、静鉄グループとして、ラッピングバスの運行や静岡鉄道一日乗車券付鑑賞券を販売。

（２）夏目漱石展において、サールナート静岡シネギャラリーにて、映画「それから」（1985 年）を上映し、幕間に大阪大学大学院教授の講演会を開催。

（３）「ふじのくにしずおか観光大商談会ｉｎ名古屋」及び「ふじのくにしずおか観光大商談会ｉｎ大阪」に、有度山フレンドシップ協定を結んでいる施設とチームを組んで参加。

（４）「二見彰一展」において大学生の広報サポーターを募り、展覧会の感想等をブログ、Ｆａｃｅｂｏｏｋ、ツイッターなどのＳＮＳで発信。

（５）静岡市、草薙商店会、県立大学、自治会等が主催する、草薙駅周辺の賑わいを創出するイベント「つながるくさなぎフェス」において、エンボス版画を体験するブースを出店。

（６）グループ「幻触」展において、小中学生向けの招待状（同伴者は 2 名まで割引料金で入館可）を作成し、静岡市内小中学校の生徒に美術担当主任教諭を通じて約 53,500 枚を配布。

Ⅱ－４

静岡県立美術館評価業務
報　告　書

平成 26 年３月

静岡県立美術館

平成 25 年度静岡県立美術館評価業務報告書
目　　次

１　調査概要 …… 37
　（１）　調査目的 …… 37
　（２）　実施概要 …… 37
　（３）　報告書内のデータ記述について …… 37
２　調査結果概要 …… 38
　（１）　結果概要 …… 38
　（２）　提言 …… 38
３　美術館評価指標の現状値 …… 39
４　展覧会アンケート結果 …… 40
　（１）　回収状況 …… 40
　（２）　観覧者の属性 …… 42
　（３）　観覧者の行動 …… 48
　（４）　展覧会の評価 …… 59
５　レストランアンケート結果 …… 78
　（１）　実施数（回答数） …… 78
　（２）　アンケート結果 …… 78
６　カフェアンケート結果 …… 84
　（１）　実施数（回答数） …… 84
　（２）　アンケート結果 …… 84
７　ミュージアム・ショップアンケート結果 …… 90
　（１）　実施数（回答数） …… 90
　（２）　アンケート結果 …… 90
８　美術館ホームページアンケート結果 …… 94
　（１）　実施数（回答数） …… 94
　（２）　アンケート結果 …… 94
９　自由意見 …… 97
　（１）　生活において「美術館」の存在・位置付け …… 97
　（２）　展覧会または当美術館についてのご指摘やご意見 …… 108
10　佐々木先生のレクチャー「評価アンケートの設問設定とデータ活用の方法」 …… 117

１　調査概要

（１）　調査目的

静岡県立美術館では、評価委員会提言「評価と経営の確立に向けて」（平成 17 年３月）を踏まえ、館長公約を柱とする自己評価システムの体系を構築している。

今般、館の全体像を把握する評価指標を整理するためアンケートを実施した。

（２）　実施概要

	富士山の絵画		二見彰一展		グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	
会　期	平成 25 年９月７日～10 月 20 日		平成 25 年 11 月 22 日～平成 26 年１月 19 日		平成 26 年２月１日～３月 23 日	
開催日数	38 日		47 日		44 日	
観覧者数	17,781 人		7,577 人		7,033 人	
１日あたり平均観覧者数	467.9 人／日		161.2 人／日		159.8 人／日	
アンケート実施日	9/14（土）	68 件	11/23(土)	63 件	2/7(金)	26 件
	9/15（日）	87 件	11/29(金)	21 件	2/8(土)	59 件
	9/18（水）	44 件	11/30(土)	64 件	2/15(土)	68 件
	9/25（水）	36 件	12/8(日)	72 件	2/18(火)	28 件
	10/1（火）	37 件	12/10(火)	20 件	2/19(水)	36 件
	10/5（土）	49 件	12/17(火)	21 件	2/23(日)	77 件
アンケート実施数	321 件		261 件		294 件	
アンケート実施数（回収率）※観覧者数に占める実施の割合	1.81%		3.44%		4.18%	

（３）　報告書内のデータ記述について

・比率はすべて百分率で表し、小数点第２位を四捨五入して算出した。そのために、比率の合計が 100%にならないことがある。

・基数とすべき実数は、表中に「件数」として記載した。比率はこの基数を 100%として算出している。

・質問の選択肢から複数回答を認めている場合、比率の合計は通常 100%を超える。

２　調査結果概要

（１）　結果概要

	富士山の絵画	二見彰一展	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971
①展覧会満足度（展覧会別）	93.3%	91.0%	88.2%

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
②展覧会満足度（経年）	86.8%	90.8%	90.8%	93.3%	90.9%
③レストラン満足度	68.8%	53.8%	71.3%	82.2%	78.8%
④ミュージアム・ショップ満足度	84.4%	85.6%	86.8%	82.8%	86.1%
⑤ホームページ満足度	71.9%	74.3%	71.7%	71.6%	73.9%

（２）　提言

満足度と評価の相関係数

問	Ｂ（１）	Ｂ（２）	Ｂ（３）	Ｂ（４）	Ｂ（５）	Ｂ（６）
評　価	作品やテーマについての興味・関心	展覧会会場の心地よさ	美術館のスタッフの対応	展覧会のことを誰かに伝え、来館を勧めたいか	当美術館に関する情報入手のしやすさ	交通機関の利用のスムーズさ
富士山の絵画	0.477	0.462	0.421	0.420	0.321	0.191
二見彰一展	0.626	0.520	0.358	0.518	0.350	0.223
グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	0.503	0.453	0.403	0.521	0.310	0.175
全　体	0.535	0.476	0.390	0.488	0.329	0.196

※算出方法：展覧会の評価【Ｂ（１）～（７）】の５段階評価を１点～５点に置き換えて相関係数を算出した。ただし無回答については「どちらともいえない（３点）」と換算した。

※相関係数：－１～１をとる係数で、０に近いほど相関は薄い。１に近づくほど正の相関が、－１に近づくほど負の相関がある。(0.0～±0.2…ほとんど相関がない／±0.2～±0.4…やや相関がある／±0.4～±0.7…相関がある／±0.7～±0.9…強い相関がある／±0.9～±1.0…極めて強い相関がある)

相関係数をみると、評価が高いほど満足度も高い傾向にある項目は、下表のとおり。

富士山の絵画	１位	Ｂ（１）作品やテーマについての興味・関心	[0.477]
	２位	Ｂ（２）展覧会会場の心地よさ	[0.462]
	３位	Ｂ（３）美術館のスタッフの対応	[0.421]
二見彰一展	１位	Ｂ（１）作品やテーマについての興味・関心	[0.626]
	２位	Ｂ（２）展覧会会場の心地よさ	[0.520]
	３位	Ｂ（４）展覧会のことを誰かに伝え、来館を勧めたいか	[0.518]
グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	１位	Ｂ（４）展覧会のことを誰かに伝え、来館を勧めたいか	[0.521]
	２位	Ｂ（１）作品やテーマについての興味・関心	[0.503]
	３位	Ｂ（２）展覧会会場の心地よさ	[0.453]
全　体	１位	Ｂ（１）作品やテーマについての興味・関心	[0.535]
	２位	Ｂ（４）展覧会のことを誰かに伝え、来館を勧めたいか	[0.488]
	３位	Ｂ（２）展覧会会場の心地よさ	[0.476]

３　美術館評価指標の現状値

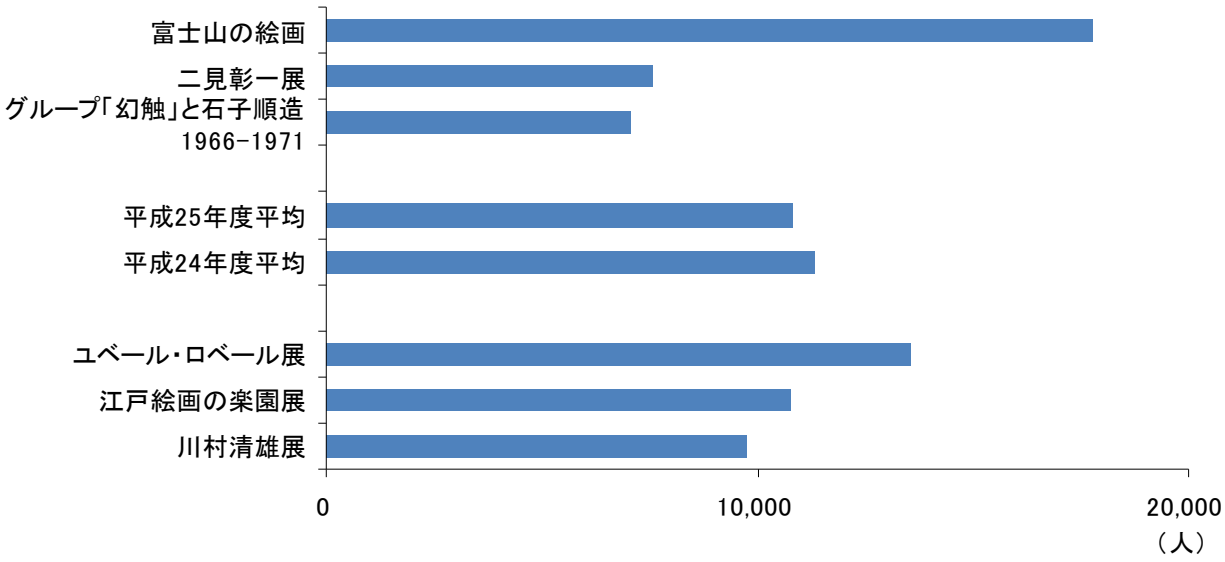
			H24 実績	H25 実績	展覧会		
					A※	B※	C※
A	2	展覧会リピート率	80.4%	74.3%	75.0%	76.0%	72.0%
	3	展覧会満足度	93.3%	91.0%	93.3%	91.0%	88.2%
	8	鑑賞環境満足度	92.5%	90.9%	92.2%	91.1%	89.4%
B	23	風景美術館認知度	22.7%	66.8%	67.6%	68.2%	64.7%
C	25	情報が「入手しやすい」	71.6%	68.0%	73.1%	62.5%	67.4%
	26	公共交通機関アクセス満足度	80.0%	75.5%	81.4%	74.6%	71.8%
	27	自家用車アクセス満足度	83.1%	85.0%	86.5%	81.8%	86.1%
	29	スタッフ対応満足度	88.7%	84.8%	82.7%	84.5%	87.3%
	34	レストラン満足度	80.8%	78.8%			
	36	ミュージアム・ショップ満足度	82.8%	86.1%			
D	46	ホームページ満足度	71.6%	73.9%			
	51	展覧会での新規観覧者の割合	19.5%	25.7%	25.0%	24.0%	28.0%
	52	展覧会での新規観覧者満足度	93.0%	91.7%	92.1%	88.6%	93.9%
	53	地域別利用者割合　東部	15.6%	17.9%	17.8%	16.1%	19.7%
		中部	58.0%	52.0%	50.8%	51.3%	53.8%
		西部	16.1%	11.1%	10.6%	13.8%	9.2%
		県外	10.4%	19.1%	20.9%	18.8%	17.3%
	54	２・３世代観覧割合	31.6%	28.8%	25.9%	31.6%	30.0%

※）展覧会Ａ・・・・・富士山の絵画
展覧会Ｂ・・・・・二見彰一展
展覧会Ｃ・・・・・グループ「幻触」と石子順造 1966-1971

４　展覧会アンケート結果

（１）　回収状況

		観覧者数 （人）	回収数 （件）	回収率 （%）
平成25年度	富士山の絵画	17,781	321	1.8
	二見彰一展	7,577	261	3.4
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	7,033	294	4.2
経年	平成 25 年度平均	10,797	292	2.7
	平成 24 年度平均	11,340	277	2.5
平成24年度	ユベール・ロベール展	13,541	277	2.1
	江戸絵画の楽園展	10,758	278	2.6
	川村清雄展	9,722	276	2.8


富士山の絵画
二見彰一展
グループ「幻触」と石子順造
1966-1971
平成25年度平均
平成24年度平均
ユベール・ロベール展
江戸絵画の楽園展
川村清雄展
0
10,000
20,000
（人）

（２）　観覧者の属性

①　性別

全体

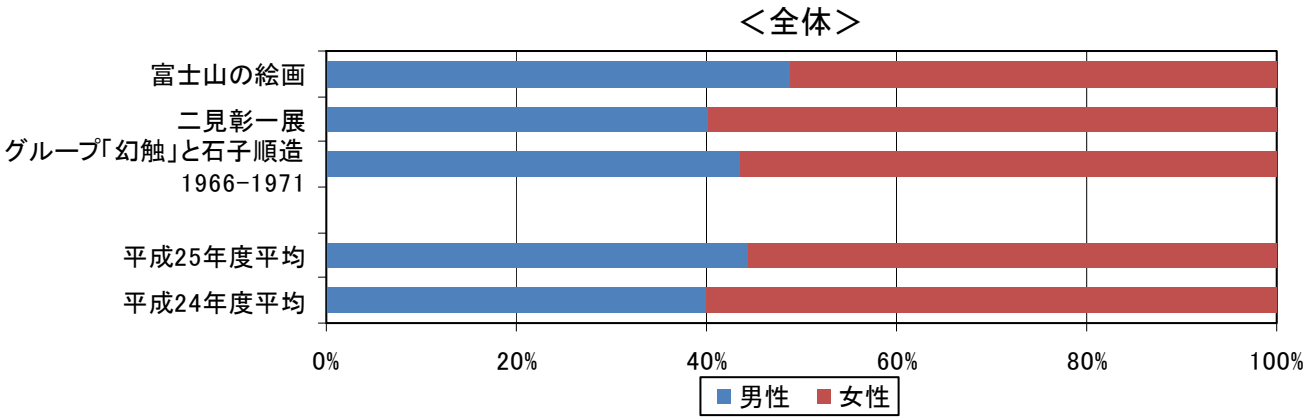
		件数（件）	男性	女性
平成25年度	富士山の絵画	321	48.9	51.1
	二見彰一展	261	40.2	59.8
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	294	43.5	56.5
経年	平成 25 年度全体		44.5	55.5
	平成 24 年度全体		40.0	60.0
平成24年度	ユベール・ロベール展	276	39.1	60.9
	江戸絵画の楽園展	278	42.1	57.9
	川村清雄展	276	38.8	61.2

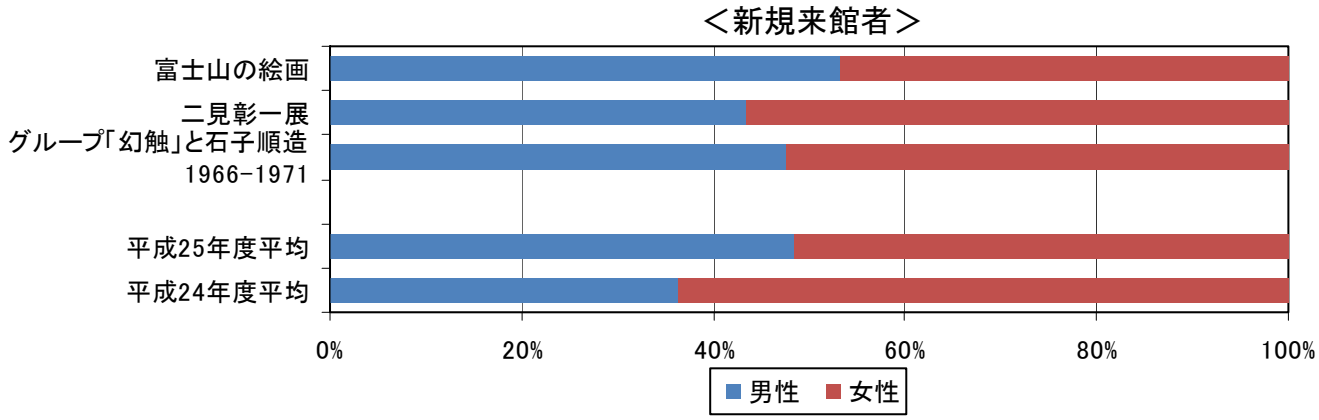
単位：％

新規来館者

		件数（件）	男性	女性
平成25年度	富士山の絵画	79	53.2	46.8
	二見彰一展	62	43.5	56.5
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	82	47.6	52.4
経年	平成 25 年度全体		48.4	51.6
	平成 24 年度全体		36.4	63.6
平成24年度	ユベール・ロベール展	70	38.6	61.4
	江戸絵画の楽園展	44	36.4	63.6
	川村清雄展	48	33.3	66.7

単位：％





性別について〈全体〉は、平成 25 年度全体は、「男性」が 44.5%、「女性」が 55.5%と、平成 24 年度全体より「男性」が 4.5 ポイント高くなり、「女性」が 4.5 ポイント低くなっている。『富士山の絵画』『二見彰一展』『グループ「幻触」と石子順造 1966-1971』の３つの展覧会の中で「男性」が最も高いのは、『富士山の絵画』48.9%、「女性」が最も高いのは、『二見彰一展』59.8%となっている。

〈新規来館者〉は、平成 25 年度全体は、「男性」が 48.4%、「女性」が 51.6%と、平成 24 年度全体より「男性」が 12.0 ポイント高くなっている。３つの展覧会の中で「男性」が最も高いのは、『富士山の絵画』53.2%、「女性」が最も高いのは、『二見彰一展』56.5%となっている。

② 年齢層

全体

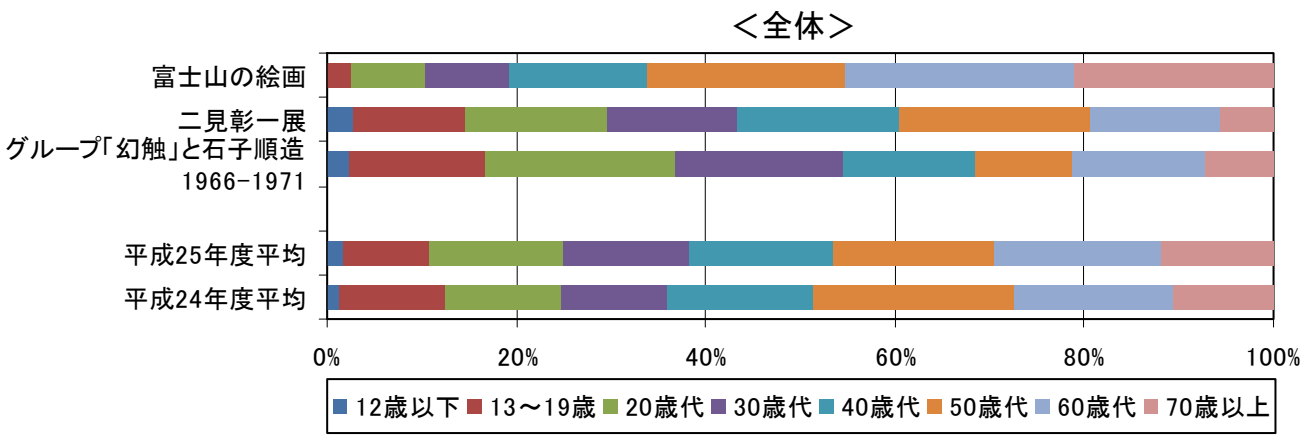
		件数（件）	12歳以下	13～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
平成25年度	富士山の絵画	321	0.0	2.5	7.8	9.0	14.6	20.9	24.0	21.2
	二見彰一展	261	2.7	11.9	14.9	13.8	17.2	19.9	13.8	5.7
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	294	2.4	14.3	20.1	17.7	13.9	10.2	14.3	7.1
経年	平成25年度全体		1.6	9.2	14.0	13.4	15.2	17.0	17.7	11.9
	平成24年度全体		1.3	11.1	12.4	11.1	15.5	21.2	16.9	10.5
平成24年度	ユベール・ロベール展	276	4.0	19.2	18.5	11.2	14.5	17.4	10.5	4.7
	江戸絵画の楽園展	278	0.0	4.7	10.4	11.9	16.5	24.1	18.3	14.0
	川村清雄展	276	0.0	9.4	8.3	10.1	15.6	22.1	21.7	12.7

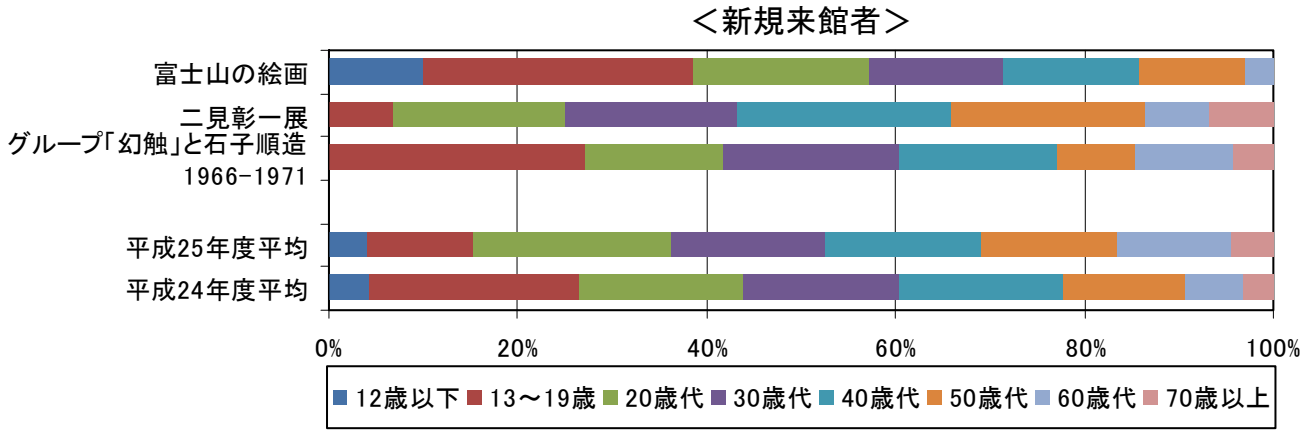
単位：％

新規来館者

		件数（件）	12歳以下	13～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
平成25年度	富士山の絵画	79	0.0	0.0	19.0	8.9	22.8	24.1	16.5	8.9
	二見彰一展	62	6.5	9.7	21.0	19.4	14.5	9.7	14.5	4.8
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	82	6.1	23.2	23.2	20.7	12.2	8.5	6.1	0.0
経年	平成25年度全体		4.0	11.2	21.1	16.1	16.6	14.3	12.1	4.5
	平成24年度全体		4.3	22.2	17.3	16.7	17.3	13.0	6.2	3.1
平成24年度	ユベール・ロベール展	70	10.0	28.6	18.6	14.3	14.3	11.4	2.9	0.0
	江戸絵画の楽園展	44	0.0	6.8	18.2	18.2	22.7	20.5	6.8	6.8
	川村清雄展	48	0.0	27.1	14.6	18.8	16.7	8.3	10.4	4.2

単位：％





年齢層について〈全体〉は、平成 25 年度で多い年代は「60 歳代」17.7%、「50 歳代」17.0%、「40 歳代」15.2%の順となっている。『富士山の絵画』は他の展覧会と比べて「60 歳代」24.0%と多く、また『グループ「幻触」と石子順造 1966-1971』は「13～19 歳」14.3%と多くなっている。

〈新規来館者〉は、平成 25 年度で多い年代は「20 歳代」21.1%、「40 歳代」16.6%、「30 歳代」16.1%の順となっている。展覧会別でみると、特に『富士山の絵画』では「50 歳代」24.1%が多く、『グループ「幻触」と石子順造 1966-1971』では「13～19 歳」「20 歳代」23.2%と新規来館者が多くなっている。

③　居住地

全体

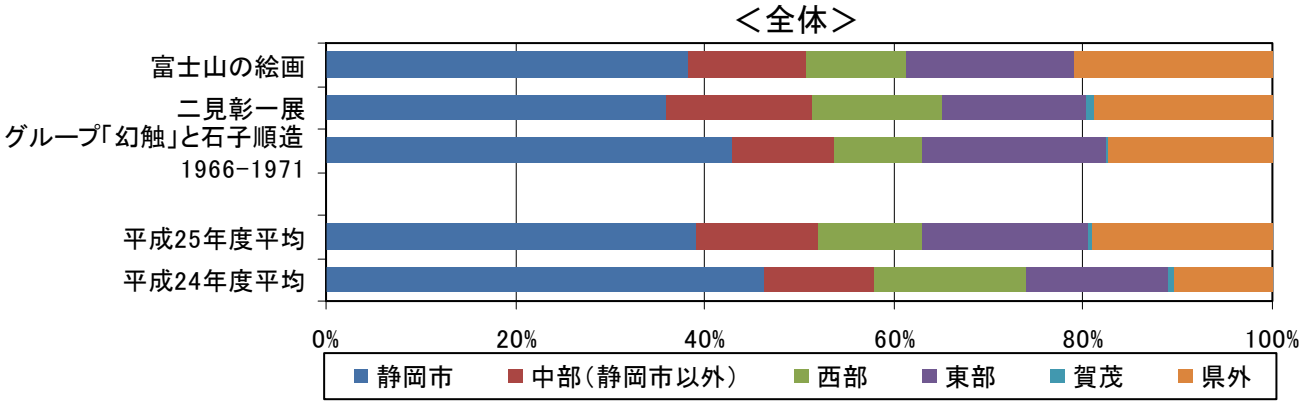
		件数（件）	静岡市	中部（静岡市以外）	西部	東部	賀茂	県外
平成25年度	富士山の絵画	321	38.3	12.5	10.6	17.8	0.0	20.9
	二見彰一展	261	36.0	15.3	13.8	15.3	0.8	18.8
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	294	42.9	10.9	9.2	19.4	0.3	17.3
経年	平成 25 年度全体		39.2	12.8	11.1	17.6	0.3	19.1
	平成 24 年度全体		46.4	11.6	16.1	15.0	0.6	10.4
平成24年度	ユベール・ロベール展	271	45.8	8.1	18.1	16.2	0.0	11.8
	江戸絵画の楽園展	274	47.4	11.7	13.9	13.9	1.1	12.0
	川村清雄展	276	46.0	14.9	16.3	14.9	0.7	7.2

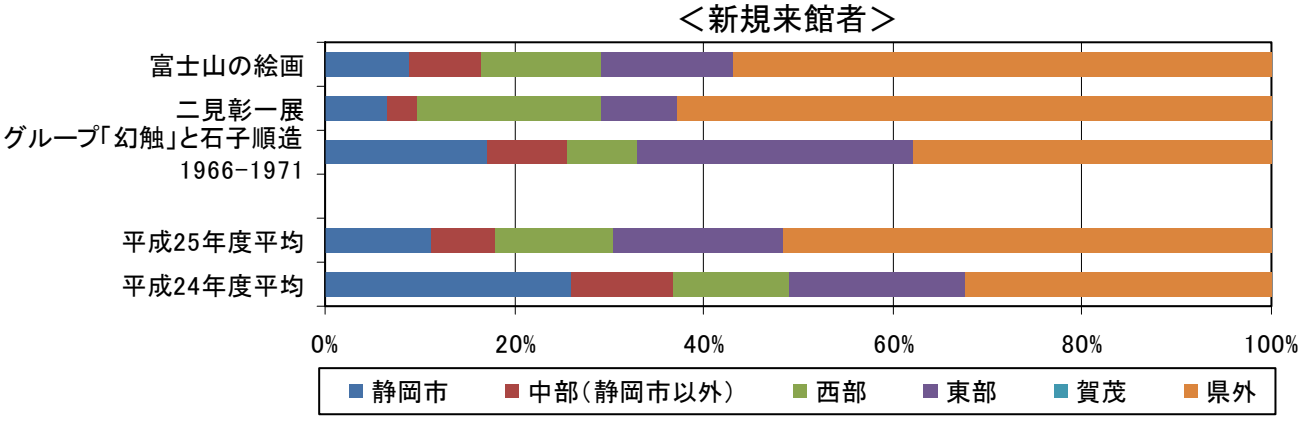
単位：%

新規来館者

		件数（件）	静岡市	中部（静岡市以外）	西部	東部	賀茂	県外
平成25年度	富士山の絵画	79	8.9	7.6	12.7	13.9	0.0	57.0
	二見彰一展	62	6.5	3.2	19.4	8.1	0.0	62.9
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	82	17.1	8.5	7.3	29.3	0.0	37.8
経年	平成 25 年度全体		11.2	6.7	12.6	17.9	0.0	51.6
	平成 24 年度全体		26.1	10.6	12.4	18.6	0.0	32.3
平成24年度	ユベール・ロベール展	69	23.2	4.3	15.9	18.8	0.0	37.7
	江戸絵画の楽園展	44	29.5	11.4	11.4	11.4	0.0	36.4
	川村清雄展	48	27.1	18.8	8.3	25.0	0.0	20.8

単位：%





居住地について〈全体〉は、「静岡市」が 39.2%と最も高く、「県外」19.1%、「東部」17.6%の順となっている。どの展覧会でも「静岡市」と「中部（静岡市以外）」を合わせた「中部」が半数を超えている。『富士山の絵画』では「県外」20.9%となっている。

〈新規来館者〉は、〈全体〉に比べて「県外」来館者が多い傾向にあり、『二見彰一展』62.9%、『富士山の絵画』57.0%となっている。「県外」は平成 25 年度全体 51.6%は、平成 24 年度全体 32.3%より 19.3 ポイント高くなっている。

美術館カルテ 53　地域別の利用者の割合

		中部	西部	東部
平成25年度	富士山の絵画	50.8	10.6	17.8
	二見彰一展	51.3	13.8	16.1
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	53.8	9.2	19.7
経年	平成 25 年度全体	52.0	11.1	17.9
	平成 24 年度全体	58.0	16.1	15.6
平成24年度	ユベール・ロベール展	53.9	18.1	16.2
	江戸絵画の楽園展	59.1	13.9	15.0
	川村清雄展	60.9	16.3	15.6

単位：%

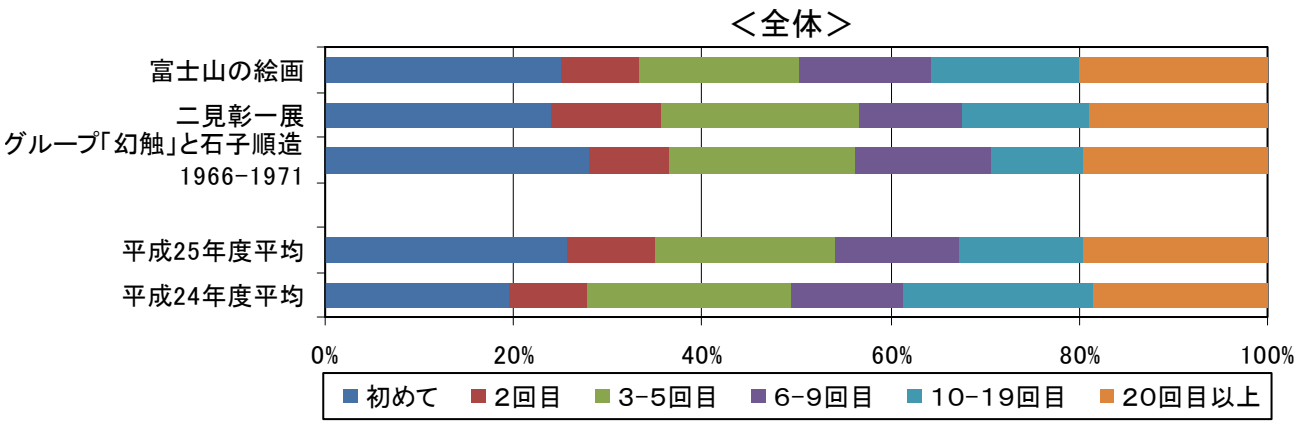
（３）　観覧者の行動

①　来館回数

全体

		件数（件）	初めて	２回目	３-５回目	６-９回目	10-19回目	20回目以上
平成25年度	富士山の絵画	316	25.0	8.2	17.1	13.9	15.8	19.9
	二見彰一展	258	24.0	11.6	20.9	10.9	13.6	19.0
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	293	28.0	8.5	19.8	14.3	9.9	19.5
経年	平成 25 年度全体		25.7	9.3	19.1	13.1	13.1	19.5
	平成 24 年度全体		19.5	8.2	21.7	11.9	20.1	18.5
平成24年度	ユベール・ロベール展	277	25.3	10.8	24.9	11.9	15.2	11.9
	江戸絵画の楽園展	276	15.9	7.2	18.8	12.3	20.7	25.0
	川村清雄展	276	17.4	6.5	21.4	11.6	24.6	18.5

単位：％



来館回数について〈全体〉は、平成 25 年度の「初めて」は 25.7%と平成 24 年度より 6.2 ポイント高くなっている。また、「20 回目以上」は 19.5%と前年度より 1.0 ポイント高くなっている。展覧会別にみると、「初めて」が最も高いのは『グループ「幻触」と石子順造 1966-1971』の 28.0%、次いで『富士山の絵画』25.0%、『二見彰一展』24.0%の順となっている。

評価指標４　新規来館者の割合

美術館カルテ２　リピート率

		新規来館者の割合	リピート率
平成25年度	富士山の絵画	25.0	75.0
	二見彰一展	24.0	76.0
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	28.0	72.0
経年	平成 25 年度全体	25.7	74.3
	平成 24 年度全体	19.5	80.4
平成24年度	ユベール・ロベール展	25.3	74.7
	江戸絵画の楽園展	15.9	84.0
	川村清雄展	17.4	82.6

単位：%

② 来館人数

全体

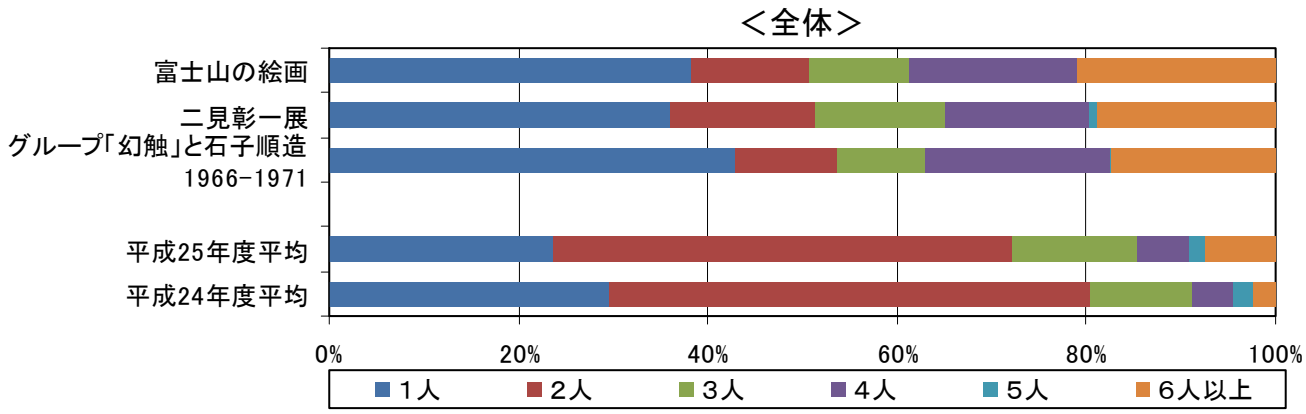
		件数（件）	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上
平成25年度	富士山の絵画	314	17.8	56.4	16.2	4.1	0.3	5.1
	二見彰一展	258	26.4	49.2	12.8	4.3	1.6	5.8
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	294	27.6	39.1	10.9	8.2	3.1	11.2
経年	平成 25 年度全体		23.7	48.4	13.4	5.5	1.6	7.4
	平成 24 年度全体		29.5	50.9	10.7	4.4	2.2	2.3
平成24年度	ユベール・ロベール展	274	25.2	46.4	15.3	6.6	3.3	3.3
	江戸絵画の楽園展	271	30.6	54.2	9.2	3.7	1.1	1.1
	川村清雄展	275	32.7	52.0	7.6	2.9	2.2	2.5

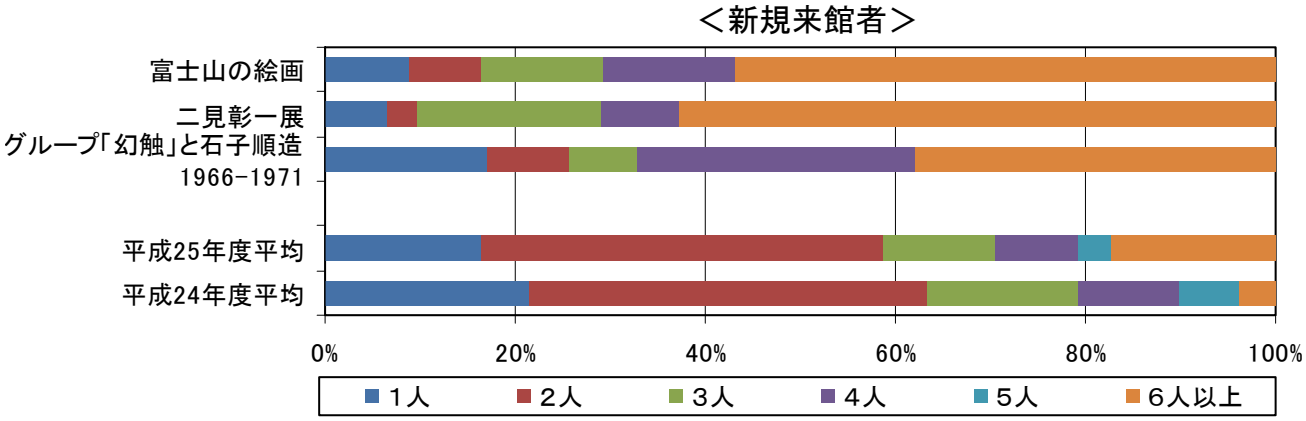
単位：%

新規来館者

		件数（件）	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上
平成25年度	富士山の絵画	78	17.9	52.6	16.7	1.3	0.0	11.5
	二見彰一展	60	13.3	48.3	10.0	10.0	3.3	15.0
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	82	17.1	28.0	8.5	14.6	7.3	24.4
経年	平成 25 年度全体		16.4	42.3	11.8	8.6	3.6	17.3
	平成 24 年度全体		21.5	41.8	15.8	10.8	6.3	3.8
平成24年度	ユベール・ロベール展	68	20.6	26.5	20.6	17.6	10.3	4.4
	江戸絵画の楽園展	43	25.6	48.8	16.3	2.3	7.0	0.0
	川村清雄展	47	19.1	57.4	8.5	8.5	0.0	6.4

単位：%





来館人数について〈全体〉は、平成 25 年度は「２人」が 48.4%と最も高くなっている。次いで「１人」23.7%、「３人」13.4%の順となっている。また、「６人以上」は 7.4%と平成 24 年度より 5.1 ポイント高くなっている。『富士山の絵画』では「２人」56.4%と高い。『グループ「幻触」と石子順造 1966-1971』では「６人以上」11.2%と高くなっている。

〈新規来館者〉でも、平成 25 年度は「２人」が 42.3%と最も高くなっている。次いで「６人以上」17.3%、「１人」16.4%の順になっている。『富士山の絵画』、『二見彰一展』では「２人」での来館が高くなっている。

③　来館時の同伴者

全体

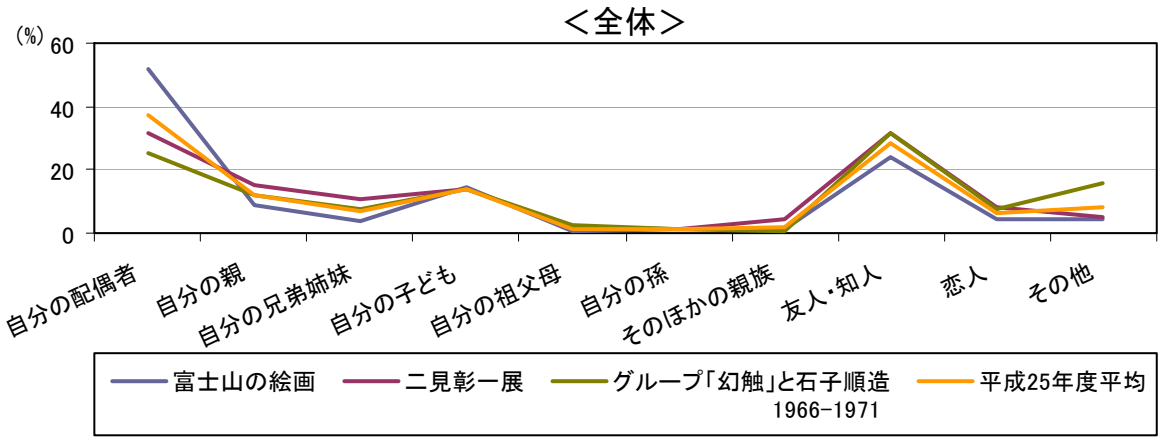
		件数（件）	自分の配偶者	自分の親	自分の兄弟姉妹	自分の子ども	自分の祖父母	自分の孫	そのほかの親族	友人・知人	恋人	その他
平成25年度	富士山の絵画	256	52.0	9.0	3.5	14.5	0.8	1.6	1.6	23.8	4.7	4.7
	二見彰一展	187	31.6	15.0	10.7	13.9	1.6	1.1	4.3	31.6	8.0	5.3
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	213	25.4	12.2	7.5	14.1	2.3	1.4	0.5	31.5	7.5	16.0
経年	平成25年度全体		37.5	11.7	6.9	14.2	1.5	1.4	2.0	28.5	6.6	8.5
	平成24年度全体		42.6	14.5	4.7	14.8	1.4	0.9	1.7	32.2		3.3
平成24年度	ユベール・ロベール展	205	29.3	20.5	6.3	21.0	2.4	1.5	2.4	35.1		2.4
	江戸絵画の楽園展	192	54.2	10.9	2.6	12.5	0.0	0.5	1.0	28.6		3.6
	川村清雄展	183	45.4	11.5	4.9	10.4	1.6	0.5	1.6	32.8		3.8

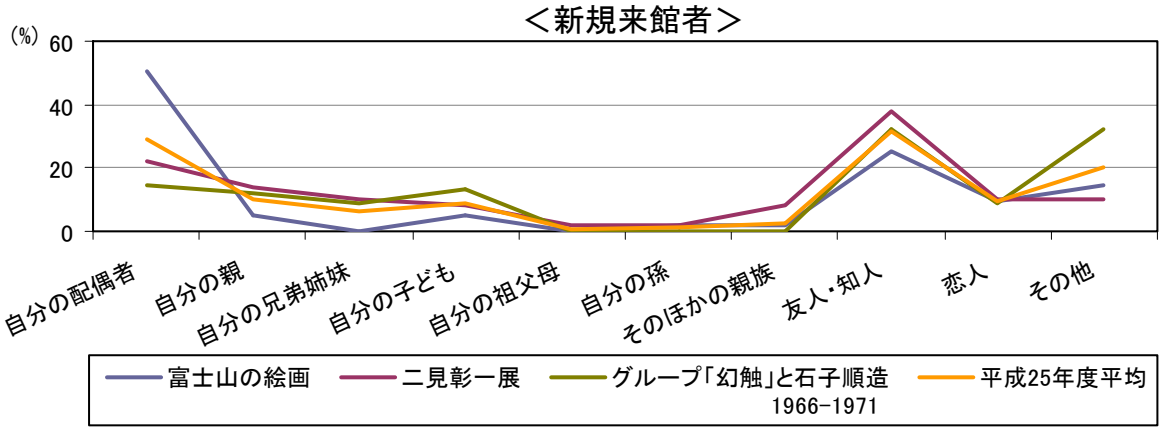
単位：％

新規来館者

		件数（件）	自分の配偶者	自分の親	自分の兄弟姉妹	自分の子ども	自分の祖父母	自分の孫	そのほかの親族	友人・知人	恋人	その他
平成25年度	富士山の絵画	63	50.8	4.8	0.0	4.8	0.0	1.6	1.6	25.4	9.5	14.3
	二見彰一展	50	22.0	14.0	10.0	8.0	2.0	2.0	8.0	38.0	10.0	10.0
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	68	14.7	11.8	8.8	13.2	0.0	0.0	0.0	32.4	8.8	32.4
経年	平成25年度全体		29.3	9.9	6.1	8.8	0.6	1.1	2.8	31.5	9.4	19.9
	平成24年度全体		33.6	21.6	10.4	18.4	3.2	2.4	4.0	32.0		6.4
平成24年度	ユベール・ロベール展	54	18.5	27.8	16.7	18.5	5.6	3.7	7.4	40.7		5.6
	江戸絵画の楽園展	33	51.5	15.2	6.1	21.2	0.0	3.0	3.0	27.3		3.0
	川村清雄展	38	39.5	18.4	5.3	15.8	2.6	0.0	0.0	23.7		10.5

単位：％





※今年度は選択肢を増やしたため、平成 24 年度はグラフ化していない。

来館時の同伴者について〈全体〉は、平成 25 年度は「自分の配偶者」37.5%、次いで「友人・知人」28.5%、「自分の子ども」14.2%の順となっている。『富士山の絵画』では、「自分の配偶者」52.0%が他の展覧会と比較して高くなっている。

〈新規来館者〉は、「友人・知人」31.5%が最も高く、次いで「自分の配偶者」29.3%、「その他」19.9%の順となっている。

美術館カルテ 54　　２・３世代で一緒に観覧に来ている割合

平成25年度	富士山の絵画	25.9
	二見彰一展	31.6
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	30.0
経年	平成 25 年度全体	28.8
	平成 24 年度全体	31.6
平成24年度	ユベール・ロベール展	45.4
	江戸絵画の楽園展	23.9
	川村清雄展	24.0

単位：%

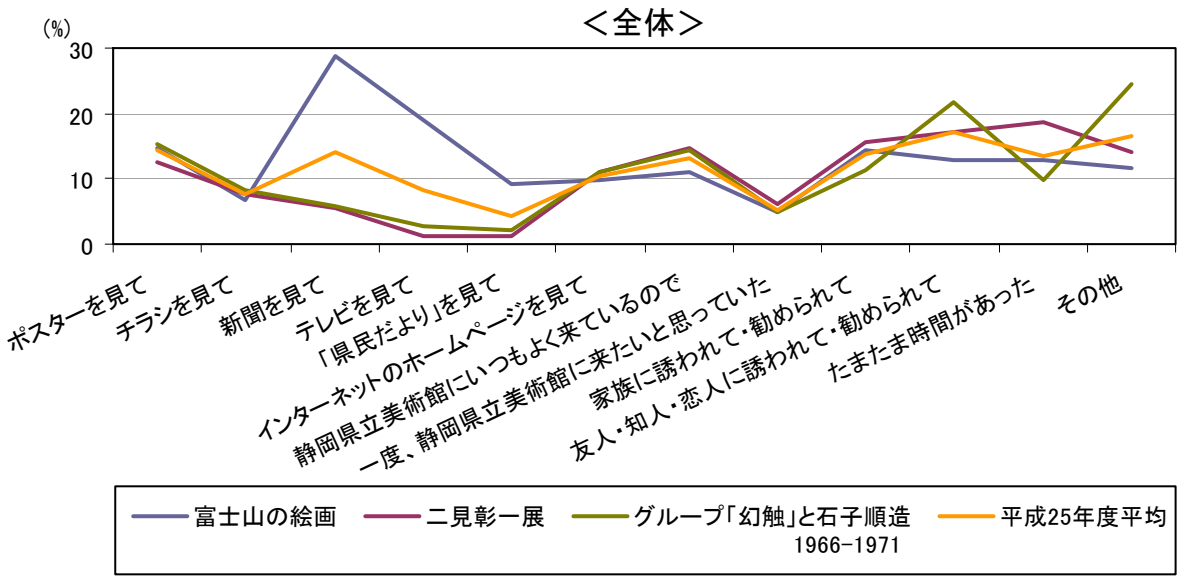
④　来館のきっかけ

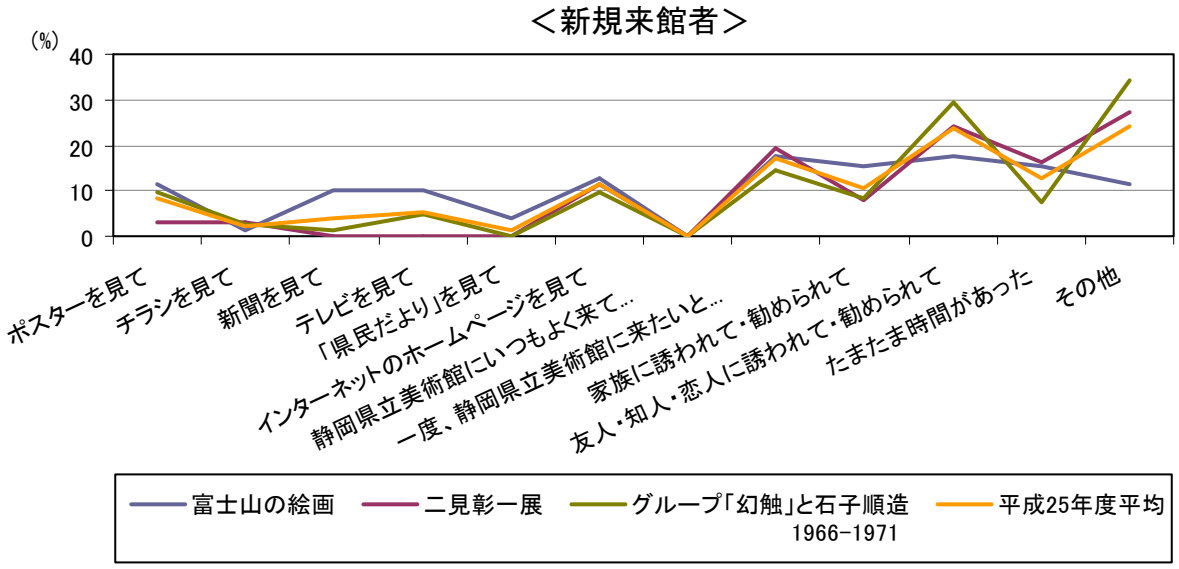
全　　体		件数（件）	ポスターを見て	チラシを見て	新聞を見て	テレビを見て	「県民だより」を見て	インターネットのホームページを見て	静岡県立美術館にいつもよく来ているので	一度、静岡県立美術館に来たいと思っていた	家族に誘われて・勧められて	友人・知人・恋人に誘われて・勧められて	たまたま時間があった	その他
平成25年度	富士山の絵画	321	14.6	6.9	28.7	19.0	9.0	9.7	10.9	5.0	14.3	12.8	12.8	11.5
	二見彰一展	261	12.6	7.7	5.4	1.1	1.1	11.1	14.6	6.1	15.7	17.2	18.8	14.2
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	294	15.3	8.2	5.8	2.7	2.0	10.9	14.3	4.8	11.2	21.8	9.9	24.5
経年	平成25年度全体		14.3	7.5	14.0	8.2	4.3	10.5	13.1	5.3	13.7	17.1	13.6	16.7
	平成24年度全体		16.2	7.3	14.2	12.8	1.5	13.9	16.1	5.1	20.1		12.3	13.2
平成24年度	ユベール・ロベール展	277	18.4	5.8	12.3	10.5	1.1	14.1	10.1	5.1	21.7		11.9	19.1
	江戸絵画の楽園展	275	14.9	9.1	15.3	4.4	1.8	14.9	21.8	4.4	21.1		10.9	11.3
	川村清雄展	274	15.3	6.9	15.0	23.7	1.5	12.8	16.4	5.8	17.5		14.2	9.1

単位：％

新規来館者		件数（件）	ポスターを見て	チラシを見て	新聞を見て	テレビを見て	「県民だより」を見て	インターネットのホームページを見て	静岡県立美術館にいつもよく来ているので	一度、静岡県立美術館に来たいと思っていた	家族に誘われて・勧められて	友人・知人・恋人に誘われて・勧められて	たまたま時間があった	その他
平成25年度	富士山の絵画	79	11.4	1.3	10.1	10.1	3.8	12.7	0.0	17.7	15.2	17.7	15.2	11.4
	二見彰一展	62	3.2	3.2	0.0	0.0	0.0	11.3	0.0	19.4	8.1	24.2	16.1	27.4
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	82	9.8	2.4	1.2	4.9	0.0	9.8	0.0	14.6	8.5	29.3	7.3	34.1
経年	平成25年度全体		8.5	2.2	4.0	5.4	1.3	11.2	0.0	17.0	10.8	23.8	12.6	24.2
	平成24年度全体		8.8	5.0	5.6	11.9	0.0	13.8	0.0	21.9	26.3		13.1	23.1
平成24年度	ユベール・ロベール展	70	7.1	4.3	2.9	7.1	0.0	14.3	0.0	15.7	28.6		12.9	30.0
	江戸絵画の楽園展	42	11.9	4.8	9.5	4.8	0.0	14.3	0.0	23.8	31.0		9.5	9.5
	川村清雄展	48	8.3	6.3	6.3	25.0	0.0	12.5	0.0	29.2	18.8		16.7	25.0

単位：％





※今年度は選択肢を増やしたため、平成 24 年度はグラフ化していない。

来館のきっかけについて〈全体〉は、平成 25 年度は「友人・知人・恋人に誘われて・勧められて」17.1%と最も高く、次いで「その他」16.7%、「ポスターを見て」14.3%、「新聞を見て」14.0%の順になっている。展覧会別にみると、『富士山の絵画』は「新聞を見て」28.7%と最も高く、『二見彰一展』は「たまたま時間があった」18.8%、『グループ「幻触」と石子順造 1966-1971』は「その他」24.5%となっている。特に、「新聞を見て」「テレビを見て」は展覧会により差が大きく、『富士山の絵画』47.7%、『二見彰一展』6.5%、『グループ「幻触」と石子順造 1966-1971』8.5%となっている。

〈新規来館者〉は、平成 25 年度は〈全体〉は、「その他」が 24.2%と最も高く、次いで「友人・知人・恋人に誘われて・勧められて」23.8%、「一度、静岡県立美術館に来たいと思っていた」17.0%の順になっている。展覧会別にみると、『富士山の絵画』は「一度、静岡県立美術館に来たいと思っていた」「友人・知人・恋人に誘われて・勧められて」17.7%と最も高く、『二見彰一展』は「その他」27.4%、『グループ「幻触」と石子順造 1966-1971』は「その他」34.1%となっている。『富士山の絵画』は、「新聞を見て」「テレビを見て」は 20.2%と他の展覧会と比較し高くなっている。

④　来館を誘われた手段

全体

		件数（件）	直接会って	電話で	ＳＮＳなど	携帯メール	eメール（パソコン）	その他
平成25年度	富士山の絵画	84	78.6	11.9	2.4	6.0	1.2	4.8
	二見彰一展	83	71.1	12.0	4.8	10.8	0.0	3.6
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	93	76.3	7.5	3.2	6.5	3.2	7.5
	平成 25 年度全体		75.4	10.4	3.5	7.7	1.5	5.4

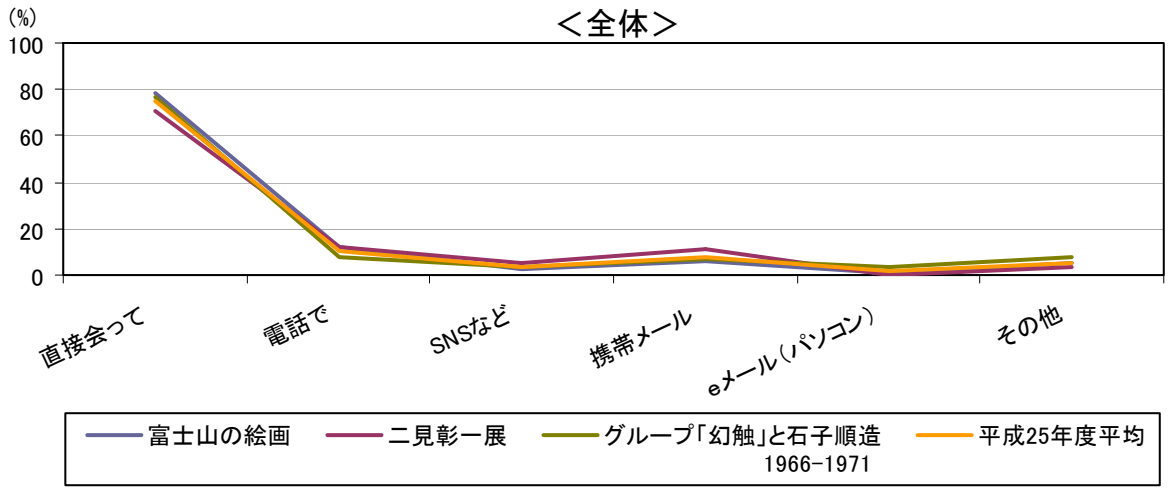
単位：％

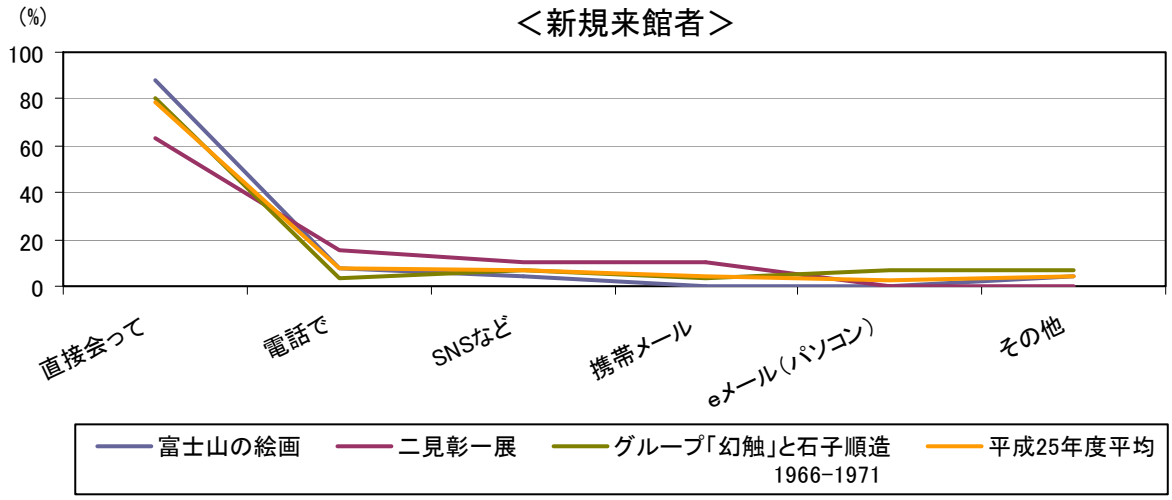
新規来館者

		件数（件）	直接会って	電話で	ＳＮＳなど	携帯メール	eメール（パソコン）	その他
平成25年度	富士山の絵画	25	88.0	8.0	4.0	0.0	0.0	4.0
	二見彰一展	19	63.2	15.8	10.5	10.5	0.0	0.0
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	30	80.0	3.3	6.7	3.3	6.7	6.7
	平成 25 年度全体		78.4	8.1	6.8	4.1	2.7	4.1

単位：％

※SNS などは SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）LINE・facebook・twitter・mixi などを示す。





※今年度に新規の設問のため、平成 24 年度はグラフ化していない。

来館を誘われた手段について〈全体〉は、平成 25 年度は「直接会って」75.4%と最も高く、次いで「電話で」10.4%、「携帯メール」7.7%の順になっている。

〈新規来館者〉は、平成 25 年度は〈全体〉同様、「直接会って」78.4%と最も高く、次いで「電話で」8.1%、「SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）LINE・facebook・twitter・mixi など」6.8%の順になっている。

（４）　展覧会の評価

①　作品やテーマについての興味・関心の深まり

全体

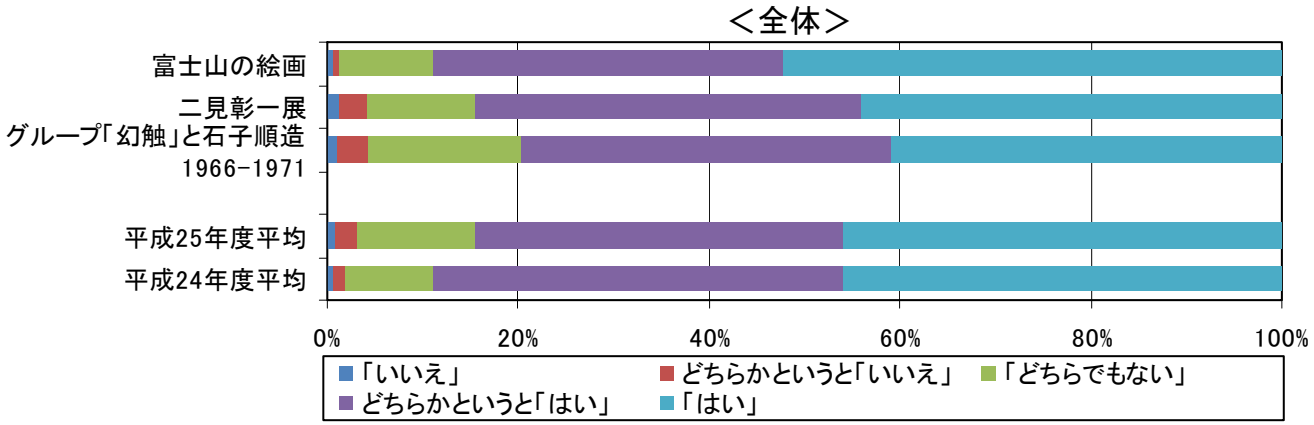
		件数（件）	「いいえ」	どちらかというと「いいえ」	「どちらでもない」	どちらかというと「はい」	「はい」
平成25年度	富士山の絵画	316	0.6	0.6	9.8	36.7	52.2
	二見彰一展	257	1.2	3.1	11.3	40.5	44.0
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	289	1.0	3.1	16.3	38.8	40.8
経年	平成 25 年度全体		0.9	2.2	12.4	38.5	45.9
	平成 24 年度全体		0.6	1.3	9.3	42.9	45.8
平成24年度	ユベール・ロベール展	276	0.4	1.4	11.2	47.1	39.9
	江戸絵画の楽園展	275	0.7	0.7	7.3	37.1	54.2
	川村清雄展	276	0.7	1.8	9.4	44.6	43.5

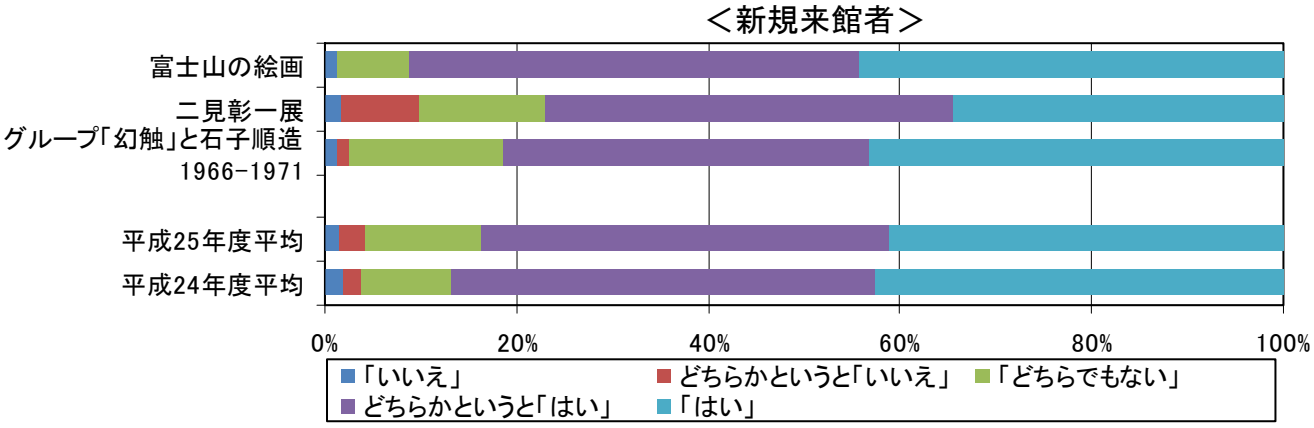
単位：％

新規来館者

		件数（件）	「いいえ」	どちらかというと「いいえ」	「どちらでもない」	どちらかというと「はい」	「はい」
平成25年度	富士山の絵画	79	1.3	0.0	7.6	46.8	44.3
	二見彰一展	61	1.6	8.2	13.1	42.6	34.4
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	81	1.2	1.2	16.0	38.3	43.2
経年	平成 25 年度全体		1.4	2.7	12.2	42.5	41.2
	平成 24 年度全体		1.9	1.9	9.3	44.4	42.6
平成24年度	ユベール・ロベール展	70	1.4	1.4	8.6	48.6	40.0
	江戸絵画の楽園展	44	0.0	2.3	11.4	38.6	47.7
	川村清雄展	48	4.2	2.1	8.3	43.8	41.7

単位：％





作品やテーマについての興味・関心の深まりについて〈全体〉は、平成 25 年度は「どちらかというと「はい」」「はい」を合わせた肯定的評価が 84.4%となっている。肯定的評価は『富士山の絵画』88.9%、『二見彰一展』84.5%、『グループ「幻触」と石子順造 1966-1971』79.6%の順になっている。一方、「いいえ」「どちらかというと「いいえ」」を合わせた否定的評価は 3.1%となっている。

〈新規来館者〉は、平成 25 年度は肯定的評価が 83.7%となっている。肯定的評価は『富士山の絵画』91.1%、『グループ「幻触」と石子順造 1966-1971』81.5%、『二見彰一展』77.0%の順になっている。否定的評価は 4.1%となっている。

評価指標３　作品やテーマに興味を持った人の割合

平成25年度	富士山の絵画	88.9
	二見彰一展	84.5
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	79.6
経年	平成 25 年度全体	84.4
	平成 24 年度全体	88.7
平成24年度	ユベール・ロベール展	87.0
	江戸絵画の楽園展	91.3
	川村清雄展	88.1

単位：%

② 展覧会の会場で心地よく観覧できたか

全体

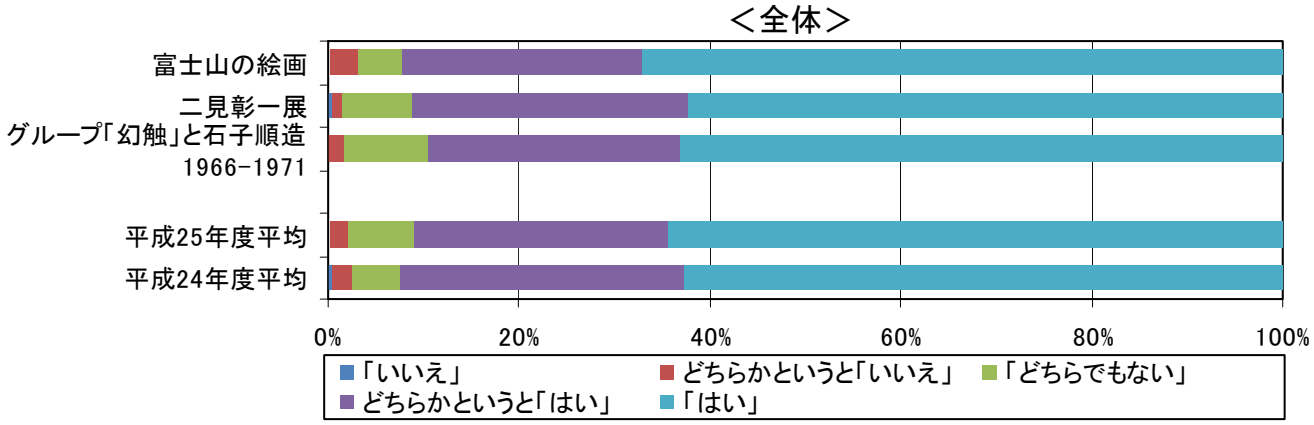
		件数（件）	「いいえ」	どちらかというと「いいえ」	「どちらでもない」	どちらかというと「はい」	「はい」
平成25年度	富士山の絵画	318	0.3	2.8	4.7	25.2	67.0
	二見彰一展	260	0.4	1.2	7.3	28.8	62.3
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	293	0.0	1.7	8.9	26.3	63.1
経年	平成 25 年度全体		0.2	2.0	6.9	26.6	64.3
	平成 24 年度全体		0.5	2.1	5.0	29.8	62.7
平成24年度	ユベール・ロベール展	276	0.4	2.9	3.6	31.2	62.0
	江戸絵画の楽園展	276	0.7	2.2	5.1	29.0	63.0
	川村清雄展	276	0.4	1.1	6.2	29.3	63.0

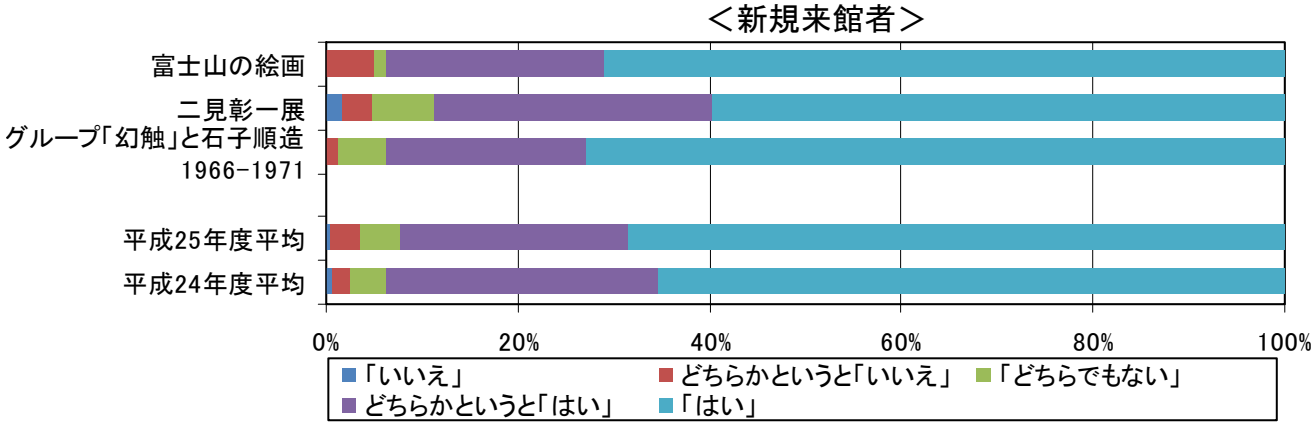
単位：%

新規来館者

		件数（件）	「いいえ」	どちらかというと「いいえ」	「どちらでもない」	どちらかというと「はい」	「はい」
平成25年度	富士山の絵画	79	0.0	5.1	1.3	22.8	70.9
	二見彰一展	62	1.6	3.2	6.5	29.0	59.7
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	81	0.0	1.2	4.9	21.0	72.8
経年	平成 25 年度全体		0.5	3.2	4.1	23.9	68.5
	平成 24 年度全体		0.6	1.9	3.7	28.4	65.4
平成24年度	ユベール・ロベール展	70	0.0	2.9	1.4	25.7	70.0
	江戸絵画の楽園展	44	0.0	2.3	4.5	38.6	54.5
	川村清雄展	48	2.1	0.0	6.3	22.9	68.8

単位：%





展覧会の会場で心地よく観覧できたかについて〈全体〉は、平成 25 年度は「どちらかというと「はい」」「はい」を合わせた肯定的評価が 90.9%となっている。肯定的評価は『富士山の絵画』92.2%、『二見彰一展』91.1%、『グループ「幻触」と石子順造 1966-1971』89.4%の順になっている。一方、「いいえ」「どちらかというと「いいえ」」を合わせた否定的評価は 2.2%となっている。

〈新規来館者〉は、平成 25 年度は肯定的評価が 92.4%となっている。肯定的評価は『グループ「幻触」と石子順造 1966-1971』93.8%、『富士山の絵画』93.7%、『二見彰一展』88.7%の順になっている。否定的評価は 3.7%となっている。

美術館カルテ 32　　鑑賞環境に対する満足度

平成25年度	富士山の絵画	92.2
	二見彰一展	91.1
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	89.4
経年	平成 25 年度全体	90.9
	平成 24 年度全体	92.5
平成24年度	ユベール・ロベール展	93.2
	江戸絵画の楽園展	92.0
	川村清雄展	92.3

単位：%

③　スタッフの対応は適切であったか

全体

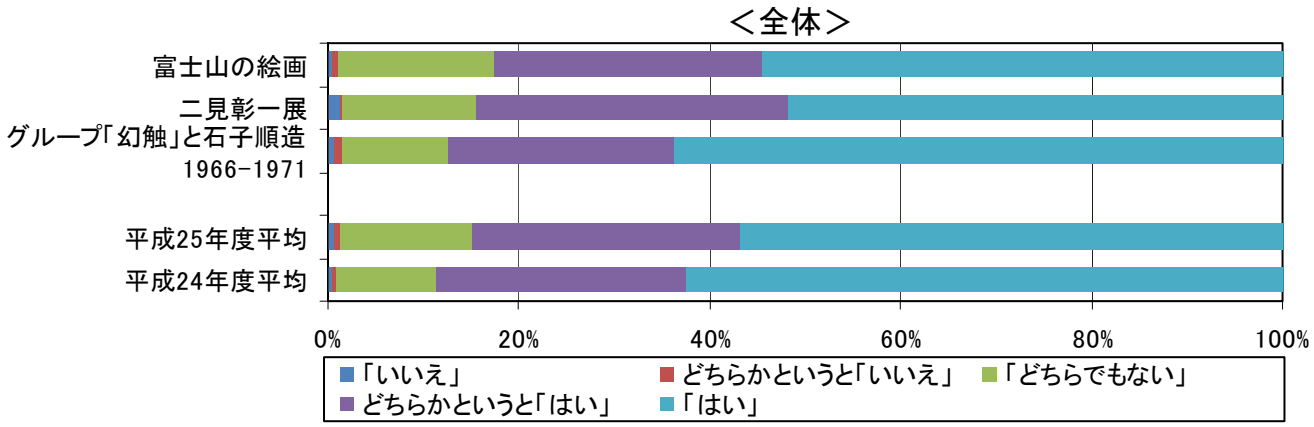
		件数（件）	「いいえ」	どちらかというと「いいえ」	「どちらでもない」	どちらかというと「はい」	「はい」
平成25年度	富士山の絵画	317	0.3	0.6	16.4	28.1	54.6
	二見彰一展	259	1.2	0.4	13.9	32.8	51.7
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	293	0.7	0.7	11.3	23.5	63.8
経年	平成 25 年度全体		0.7	0.6	13.9	28.0	56.8
	平成 24 年度全体		0.4	0.5	10.5	26.2	62.5
平成24年度	ユベール・ロベール展	274	0.7	0.7	9.9	23.7	65.0
	江戸絵画の楽園展	270	0.4	0.7	10.0	28.9	60.0
	川村清雄展	274	0.0	0.0	11.7	25.9	62.4

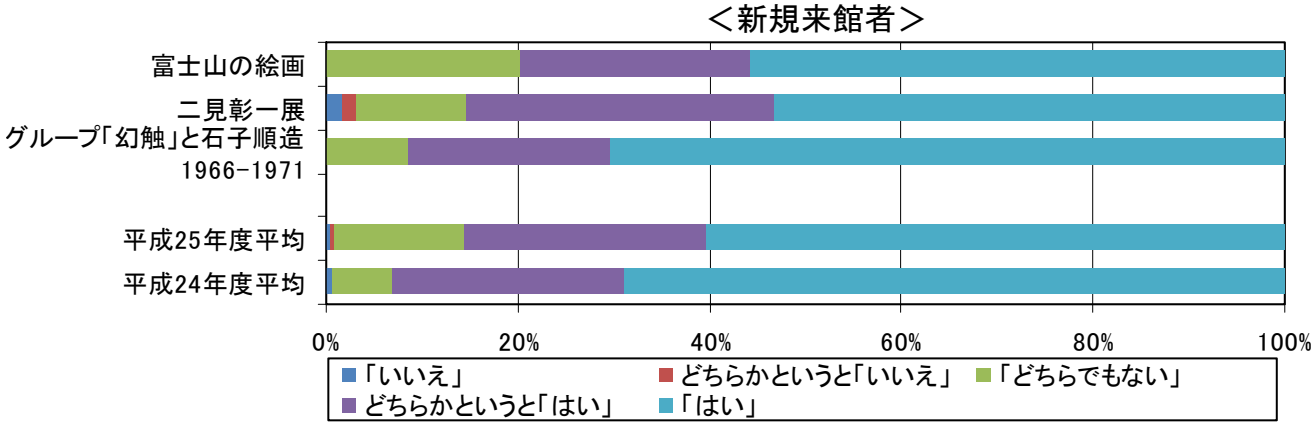
単位：%

新規来館者

		件数（件）	「いいえ」	どちらかというと「いいえ」	「どちらでもない」	どちらかというと「はい」	「はい」
平成25年度	富士山の絵画	79	0.0	0.0	20.3	24.1	55.7
	二見彰一展	62	1.6	1.6	11.3	32.3	53.2
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	81	0.0	0.0	8.6	21.0	70.4
経年	平成 25 年度全体		0.5	0.5	13.5	25.2	60.4
	平成 24 年度全体		0.6	0.0	6.2	24.2	68.9
平成24年度	ユベール・ロベール展	70	1.4	0.0	4.3	22.9	71.4
	江戸絵画の楽園展	44	0.0	0.0	6.8	27.3	65.9
	川村清雄展	47	0.0	0.0	8.5	23.4	68.1

単位：%





スタッフの対応は適切であったかについて〈全体〉は、平成 25 年度は「どちらかというと「はい」」「はい」を合わせた肯定的評価が 84.8%となっている。肯定的評価は『グループ「幻触」と石子順造 1966-1971』87.3%、『二見彰一展』84.5%、『富士山の絵画』82.3%の順になっている。一方、「いいえ」「どちらかというと「いいえ」」を合わせた否定的評価は 1.3%となっている。

〈新規来館者〉は、平成 25 年度は肯定的評価が 85.6%となっている。肯定的評価は『グループ「幻触」と石子順造 1966-1971』91.4%、『二見彰一展』85.5%、『富士山の絵画』79.8%の順になっている。否定的評価は 1.0%となっている。

美術館カルテ 29　　**美術館スタッフの対応に満足した人の割合**

平成25年度	富士山の絵画	82.7
	二見彰一展	84.5
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	87.3
経年	平成 25 年度全体	84.8
	平成 24 年度全体	88.7
平成24年度	ユベール・ロベール展	88.7
	江戸絵画の楽園展	88.9
	川村清雄展	88.3

単位：%

④　この展覧会のことを誰かに伝え、来館を勧めたいか

全体

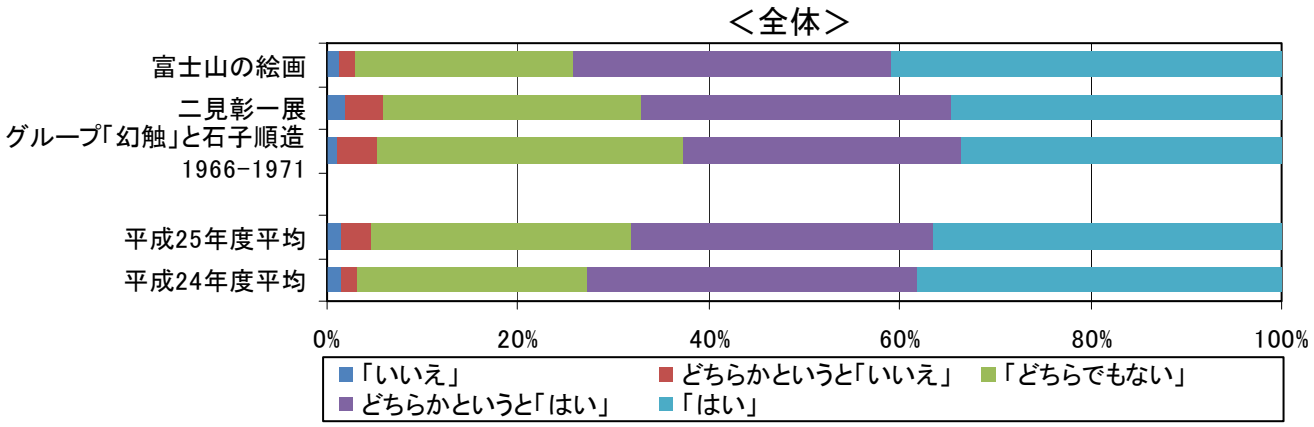
		件数（件）	「いいえ」	どちらかというと「いいえ」	「どちらでもない」	どちらかというと「はい」	「はい」
平成25年度	富士山の絵画	315	1.3	1.6	22.9	33.3	41.0
	二見彰一展	258	1.9	3.9	27.1	32.6	34.5
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	292	1.0	4.1	32.2	29.1	33.6
経年	平成 25 年度全体		1.4	3.1	27.3	31.7	36.5
	平成 24 年度全体		1.5	1.6	24.1	34.6	38.2
平成24年度	ユベール・ロベール展	273	1.1	2.6	23.4	36.3	36.6
	江戸絵画の楽園展	268	1.9	0.7	25.7	31.3	40.3
	川村清雄展	273	1.5	1.5	23.1	36.3	37.7

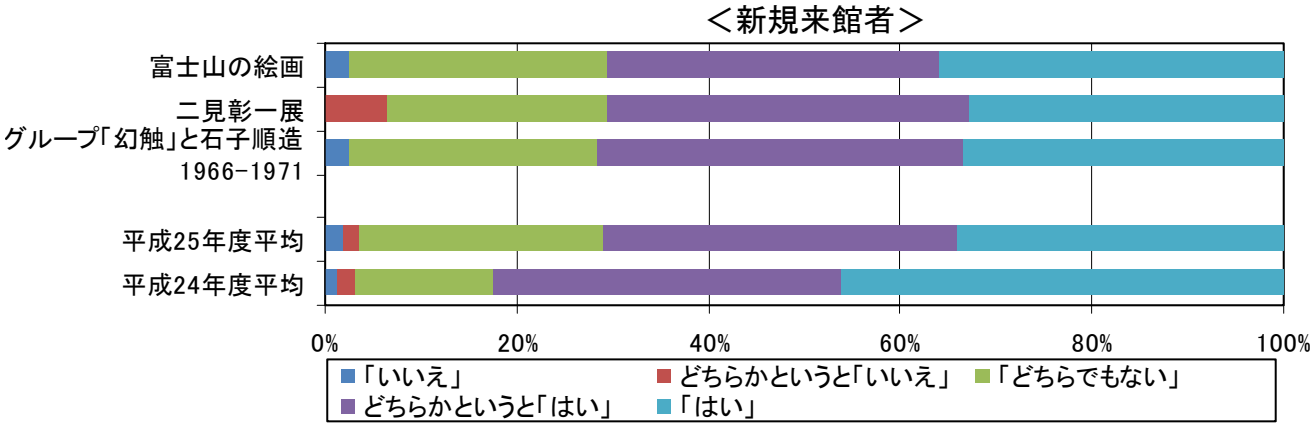
単位：%

新規来館者

		件数（件）	「いいえ」	どちらかというと「いいえ」	「どちらでもない」	どちらかというと「はい」	「はい」
平成25年度	富士山の絵画	78	2.6	0.0	26.9	34.6	35.9
	二見彰一展	61	0.0	6.6	23.0	37.7	32.8
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	81	2.5	0.0	25.9	38.3	33.3
経年	平成 25 年度全体		1.8	1.8	25.5	36.8	34.1
	平成 24 年度全体		1.3	1.9	14.4	36.3	46.3
平成24年度	ユベール・ロベール展	70	2.9	1.4	17.1	31.4	47.1
	江戸絵画の楽園展	43	0.0	0.0	14.0	41.9	44.2
	川村清雄展	47	0.0	4.3	10.6	38.3	46.8

単位：%





この展覧会のことを誰かに伝え、来館を勧めたいかについて〈全体〉は、平成 25 年度は「どちらかというと「はい」」「はい」を合わせた肯定的評価が 68.2%となっている。肯定的評価は『富士山の絵画』74.3%、『二見彰一展』67.1%、『グループ「幻触」と石子順造 1966-1971』62.7%の順になっている。一方、「いいえ」「どちらかというと「いいえ」」を合わせた否定的評価は 4.5%となっている。

〈新規来館者〉は、平成 25 年度は肯定的評価が 70.9%となっている。肯定的評価は『グループ「幻触」と石子順造 1966-1971』71.6%、『富士山の絵画』『二見彰一展』70.5%の順になっている。否定的評価は 3.6%となっている。

⑤　当美術館に関する情報は入手しやすいか

全体

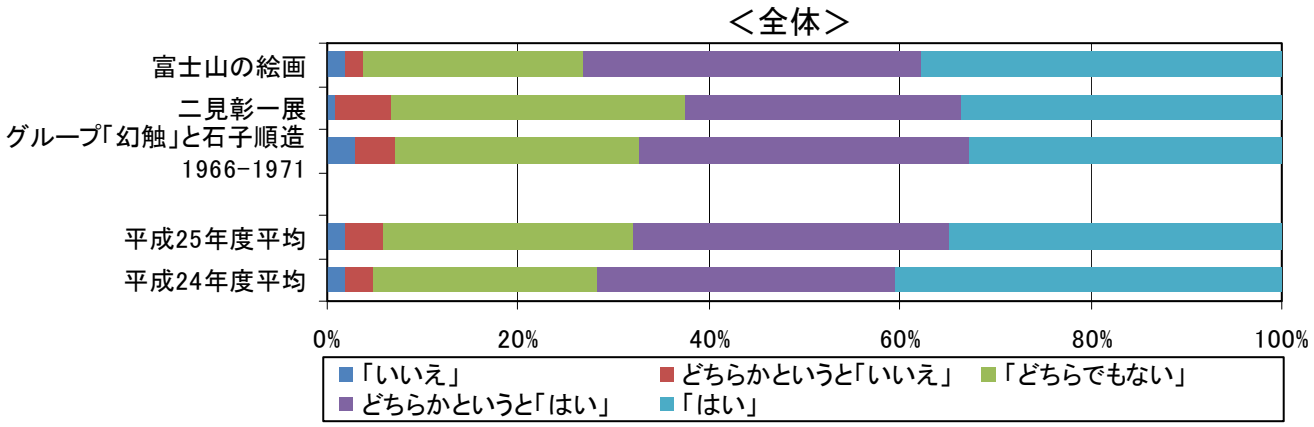
		件数（件）	「いいえ」	どちらかというと「いいえ」	「どちらでもない」	どちらかというと「はい」	「はい」
平成25年度	富士山の絵画	312	1.9	1.9	23.1	35.3	37.8
	二見彰一展	253	0.8	5.9	30.8	28.9	33.6
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	279	2.9	4.3	25.4	34.8	32.6
経年	平成 25 年度全体		1.9	3.9	26.2	33.2	34.8
	平成 24 年度全体		1.9	3.0	23.5	31.1	40.5
平成24年度	ユベール・ロベール展	269	2.6	2.6	23.4	30.5	40.9
	江戸絵画の楽園展	265	1.9	3.8	23.4	32.5	38.5
	川村清雄展	261	1.1	2.7	23.8	30.3	42.1

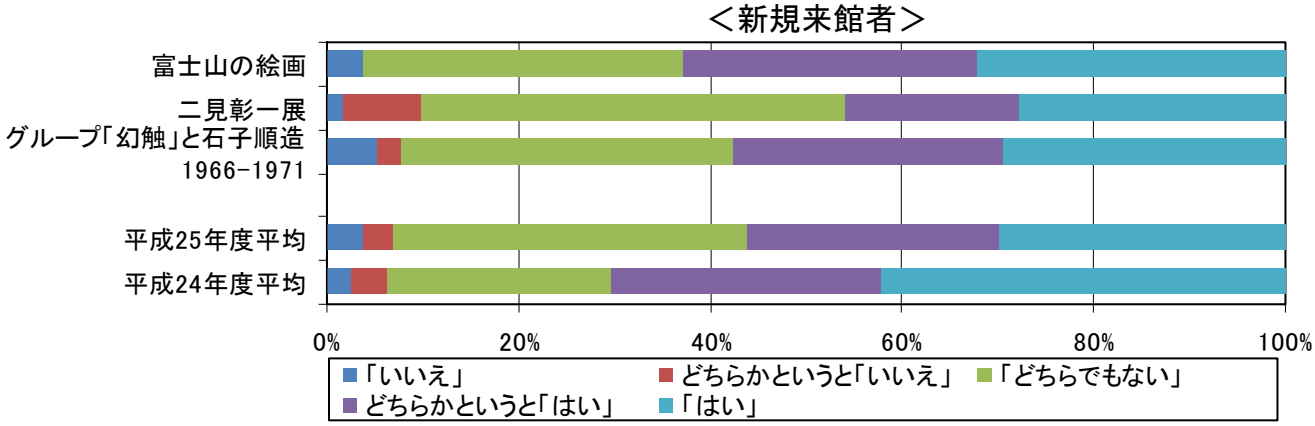
単位：%

新規来館者

		件数（件）	「いいえ」	どちらかというと「いいえ」	「どちらでもない」	どちらかというと「はい」	「はい」
平成25年度	富士山の絵画	78	3.8	0.0	33.3	30.8	32.1
	二見彰一展	61	1.6	8.2	44.3	18.0	27.9
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	78	5.1	2.6	34.6	28.2	29.5
経年	平成 25 年度全体		3.7	3.2	36.9	26.3	30.0
	平成 24 年度全体		2.5	3.8	23.3	28.3	42.1
平成24年度	ユベール・ロベール展	69	2.9	1.4	23.2	27.5	44.9
	江戸絵画の楽園展	43	4.7	7.0	27.9	27.9	32.6
	川村清雄展	47	0.0	4.3	19.1	29.8	46.8

単位：%





当美術館に関する情報は入手しやすいかについて〈全体〉は、平成 25 年度は「どちらかというと「はい」」「はい」を合わせた肯定的評価が 68.0%となっている。肯定的評価は『富士山の絵画』73.1%、『グループ「幻触」と石子順造 1966-1971』67.4%、『二見彰一展』62.5%の順になっている。一方、「いいえ」「どちらかというと「いいえ」」を合わせた否定的評価は 5.8%となっている。

〈新規来館者〉は、平成 25 年度は肯定的評価が 56.3%となっている。肯定的評価は『富士山の絵画』62.9%、『グループ「幻触」と石子順造 1966-1971』57.7%、『二見彰一展』45.9%の順になっている。否定的評価は 6.9%となっている。

評価指標 24　当館に関する情報が入手しやすいとする人の割合

平成25年度	富士山の絵画	73.1
	二見彰一展	62.5
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	67.4
経年	平成 25 年度全体	68.0
	平成 24 年度全体	71.6
平成24年度	ユベール・ロベール展	71.4
	江戸絵画の楽園展	71.0
	川村清雄展	72.4

単位：%

⑥－１　利用交通機関

全体

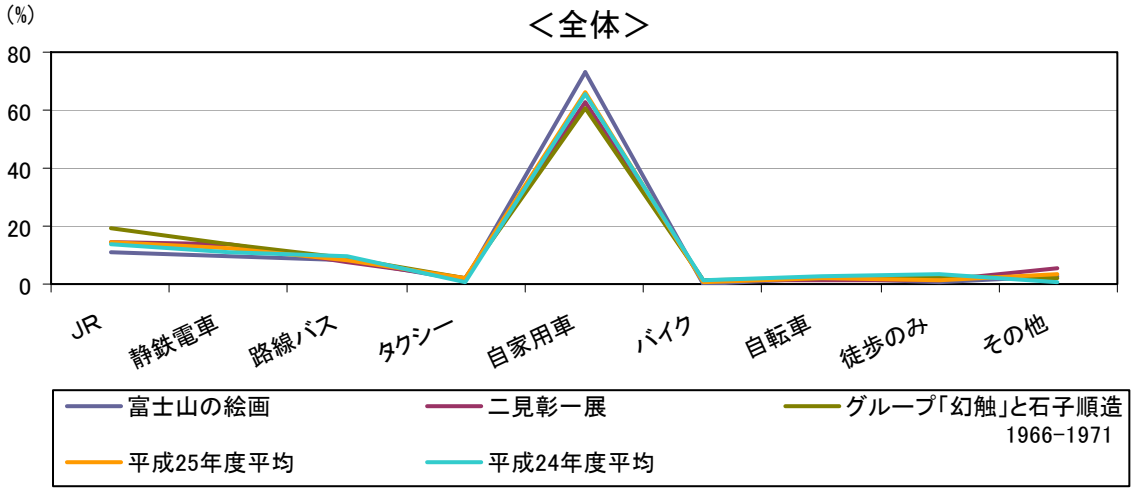
		件数（件）	ＪＲ	静鉄電車	路線バス	タクシー	自家用車	バイク	自転車	徒歩のみ	その他
平成25年度	富士山の絵画	318	10.7	9.4	8.2	1.6	73.3	0.3	2.2	0.9	2.8
	二見彰一展	260	14.2	13.5	7.7	1.9	63.1	1.2	1.2	1.5	5.8
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	294	19.4	13.9	9.2	2.0	60.5	1.4	2.0	2.7	2.0
経年	平成 25 年度全体		14.7	12.2	8.4	1.8	65.9	0.9	1.8	1.7	3.4
	平成 24 年度全体		13.5	11.1	10.0	1.0	65.4	1.2	2.7	3.4	0.9
平成24年度	ユベール・ロベール展	275	11.3	10.5	7.3	1.1	66.9	0.7	2.9	3.3	0.7
	江戸絵画の楽園展	265	13.2	12.5	10.6	1.1	62.6	1.9	3.8	4.2	1.5
	川村清雄展	273	16.1	10.3	12.1	0.7	66.7	1.1	1.5	2.9	0.4

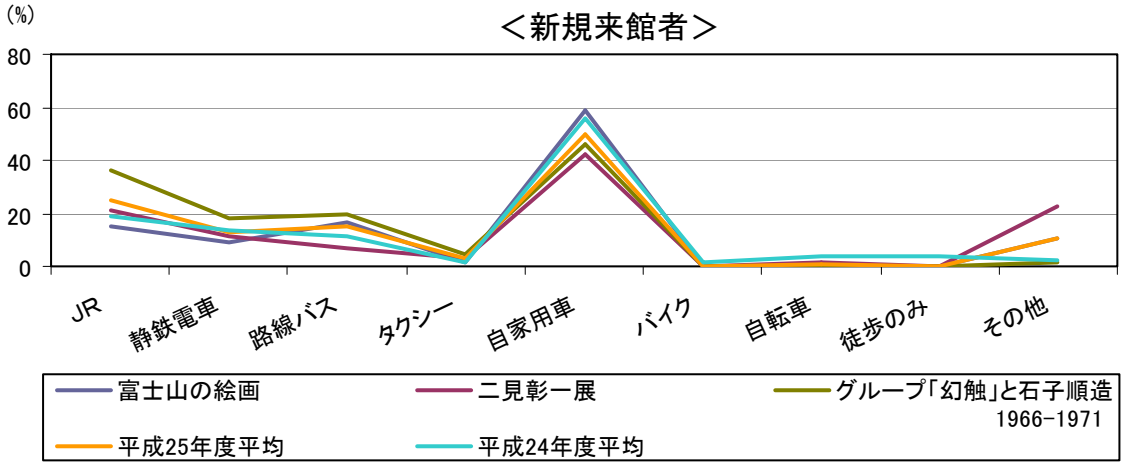
単位：％

新規来館者

		件数（件）	ＪＲ	静鉄電車	路線バス	タクシー	自家用車	バイク	自転車	徒歩のみ	その他
平成25年度	富士山の絵画	78	15.4	9.0	16.7	1.3	59.0	0.0	0.0	0.0	10.3
	二見彰一展	61	21.3	11.5	6.6	3.3	42.6	0.0	1.6	0.0	23.0
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	82	36.6	18.3	19.5	4.9	46.3	0.0	0.0	0.0	1.2
経年	平成 25 年度全体		24.9	13.1	14.9	3.2	49.8	0.0	0.5	0.0	10.4
	平成 24 年度全体		19.1	13.4	11.5	1.3	56.1	1.3	3.8	3.8	1.9
平成24年度	ユベール・ロベール展	70	12.9	10.0	5.7	1.4	62.9	1.4	2.9	2.9	2.9
	江戸絵画の楽園展	41	14.6	19.5	12.2	0.0	58.5	0.0	7.3	2.4	2.4
	川村清雄展	46	32.6	13.0	19.6	2.2	43.5	2.2	2.2	6.5	0.0

単位：％





利用交通機関について〈全体〉は、平成 25 年度は「自家用車」が 65.9%と最も高く、次いで「ＪＲ」14.7%、「静鉄電車」12.2%の順になっている。

〈新規来館者〉は、平成 24 年度は「自家用車」が 49.8%と最も高く、次いで「ＪＲ」24.9%、「路線バス」14.9%の順になっている。

⑥－２　公共交通機関の利用はスムーズであったか

全体

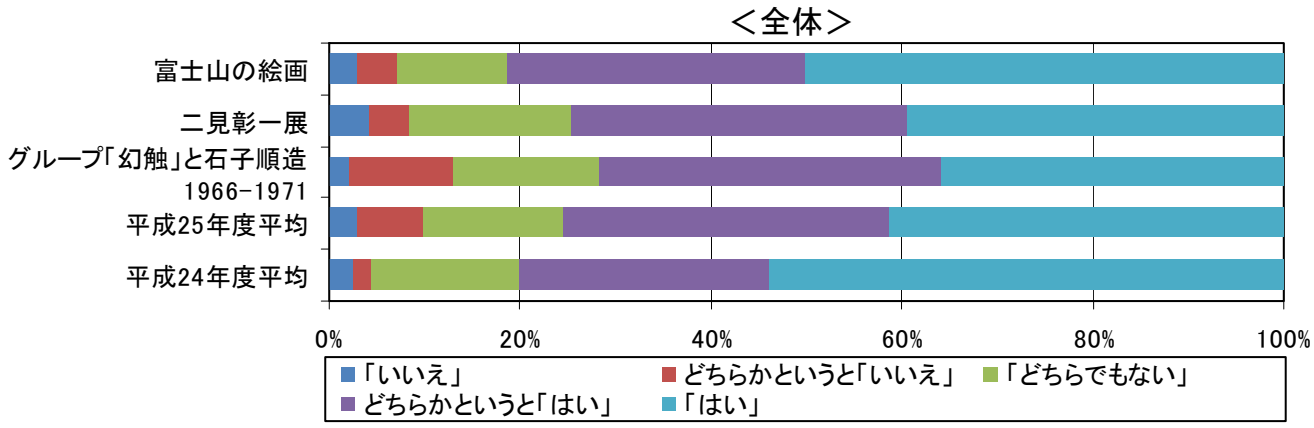
		件数（件）	「いいえ」	どちらかというと「いいえ」	「どちらでもない」	どちらかというと「はい」	「はい」
平成25年度	富士山の絵画	70	2.9	4.3	11.4	31.4	50.0
	二見彰一展	71	4.2	4.2	16.9	35.2	39.4
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	92	2.2	10.9	15.2	35.9	35.9
経年	平成 25 年度全体		3.0	6.9	14.6	34.3	41.2
	平成 24 年度全体		2.5	1.9	15.5	26.2	53.8
平成24年度	ユベール・ロベール展	227	2.6	1.8	18.9	25.1	51.5
	江戸絵画の楽園展	219	3.2	1.8	14.2	26.0	54.8
	川村清雄展	225	1.8	2.2	13.3	27.6	55.1

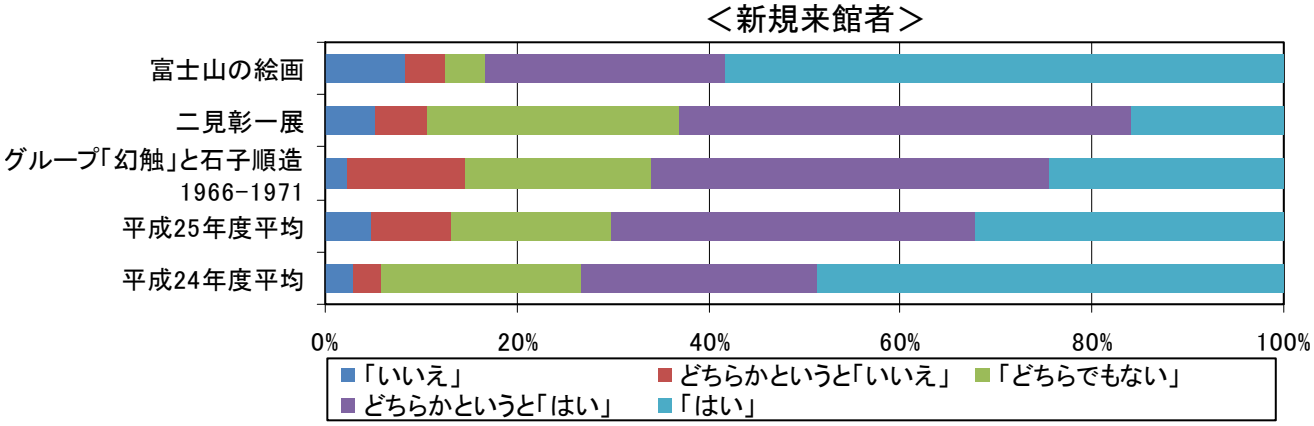
単位：%

新規来館者

		件数（件）	「いいえ」	どちらかというと「いいえ」	「どちらでもない」	どちらかというと「はい」	「はい」
平成25年度	富士山の絵画	24	8.3	4.2	4.2	25.0	58.3
	二見彰一展	19	5.3	5.3	26.3	47.4	15.8
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	41	2.4	12.2	19.5	41.5	24.4
経年	平成 25 年度全体		4.8	8.3	16.7	38.1	32.1
	平成 24 年度全体		2.9	2.9	21.0	24.6	48.6
平成24年度	ユベール・ロベール展	61	1.6	1.6	21.3	24.6	50.8
	江戸絵画の楽園展	36	5.6	0.0	19.4	30.6	44.4
	川村清雄展	41	2.4	7.3	22.0	19.5	48.8

単位：%





公共交通機関の利用はスムーズであったかについて〈全体〉は、平成 25 年度は「どちらかというと「はい」」「はい」を合わせた肯定的評価が 75.5%となっている。肯定的評価は『富士山の絵画』81.4%、『二見彰一展』74.6%、『グループ「幻触」と石子順造 1966-1971』71.8%の順になっている。一方、「いいえ」「どちらかというと「いいえ」」を合わせた否定的評価は 9.9%となっている。

〈新規来館者〉は、平成 25 年度は肯定的評価が 70.2%となっている。肯定的評価は『富士山の絵画』83.3%、『グループ「幻触」と石子順造 1966-1971』65.9%、『二見彰一展』63.2%の順になっている。否定的評価は 13.1%となっている。

評価指標 35　公共交通機関で来館した人のアクセス満足度

美術館カルテ 26　公共交通機関で来館した人のアクセス満足度

平成25年度	富士山の絵画	81.4
	二見彰一展	74.6
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	71.8
経年	平成 25 年度全体	75.5
	平成 24 年度全体	80.0
平成24年度	ユベール・ロベール展	76.6
	江戸絵画の楽園展	80.8
	川村清雄展	82.7

単位：%

⑥－３　自家用車の利用はスムーズであったか

全体

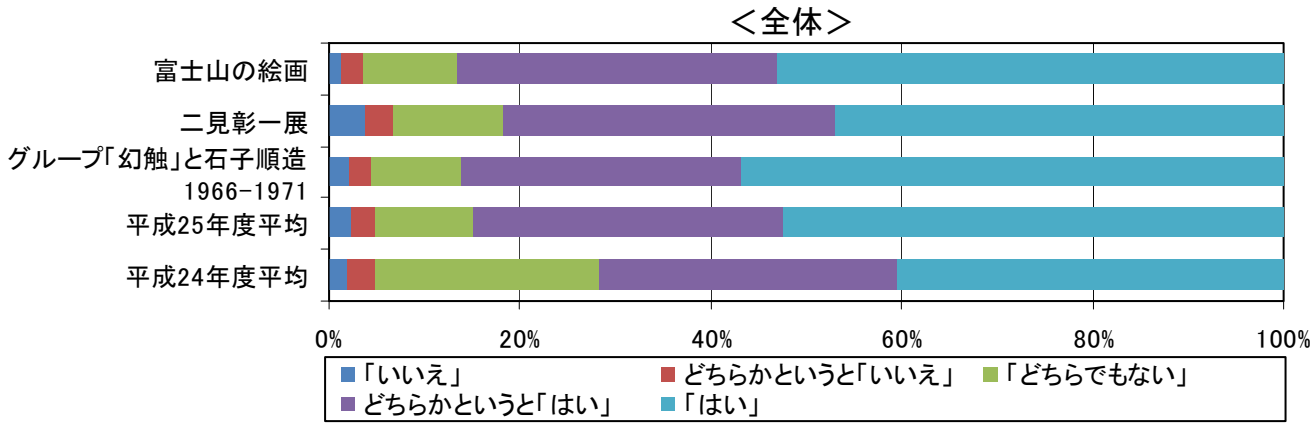
		件数（件）	「いいえ」	どちらかというと「いいえ」	「どちらでもない」	どちらかというと「はい」	「はい」
平成25年度	富士山の絵画	164	1.2	2.4	9.8	33.5	53.0
	二見彰一展	132	3.8	3.0	11.4	34.8	47.0
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	137	2.2	2.2	9.5	29.2	56.9
経年	平成 25 年度全体		2.3	2.5	10.2	32.6	52.4
	平成 24 年度全体		1.2	1.4	14.3	26.1	57.0
平成24年度	ユベール・ロベール展	147	2.7	2.0	20.4	21.1	53.7
	江戸絵画の楽園展	131	0.8	1.5	12.2	29.0	56.5
	川村清雄展	143	0.0	0.7	9.8	28.7	60.8

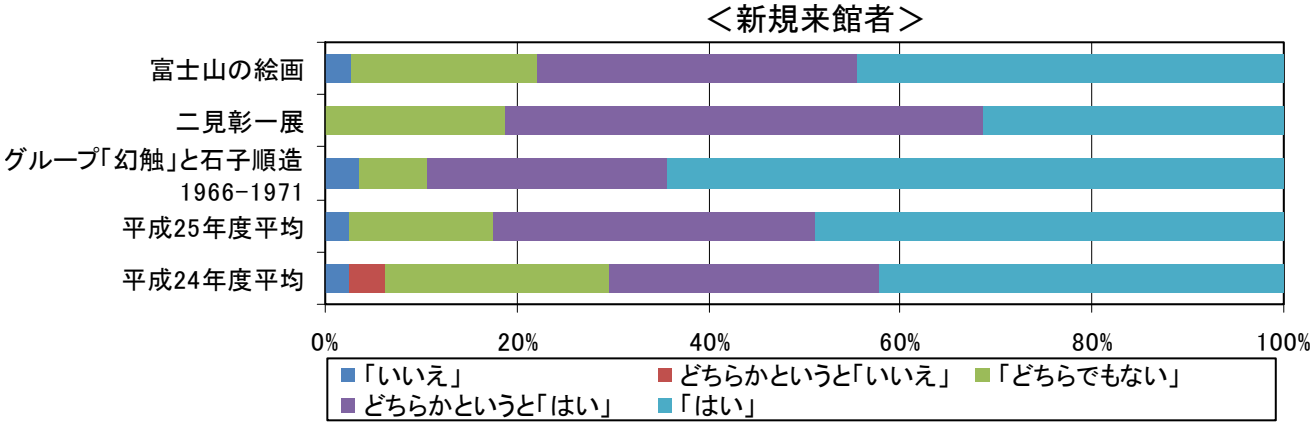
単位：%

新規来館者

		件数（件）	「いいえ」	どちらかというと「いいえ」	「どちらでもない」	どちらかというと「はい」	「はい」
平成25年度	富士山の絵画	36	2.8	0.0	19.4	33.3	44.4
	二見彰一展	16	0.0	0.0	18.8	50.0	31.3
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	28	3.6	0.0	7.1	25.0	64.3
経年	平成 25 年度全体		2.5	0.0	15.0	33.8	48.8
	平成 24 年度全体		0.0	1.3	19.2	25.6	53.8
平成24年度	ユベール・ロベール展	39	0.0	2.6	23.1	20.5	53.8
	江戸絵画の楽園展	20	0.0	0.0	10.0	35.0	55.0
	川村清雄展	19	0.0	0.0	21.1	26.3	52.6

単位：%





自家用車の利用はスムーズであったかについて〈全体〉は、平成 25 年度は「どちらかというと「はい」」「はい」を合わせた肯定的評価が 85.0%となっている。肯定的評価は『富士山の絵画』86.5%、『グループ「幻触」と石子順造 1966-1971』86.1%、『二見彰一展』81.8%の順になっている。一方、「いいえ」「どちらかというと「いいえ」」を合わせた否定的評価は 4.8%となっている。

〈新規来館者〉は、平成 25 年度は肯定的評価が 82.6%となっている。肯定的評価は『グループ「幻触」と石子順造 1966-1971』89.3%、『二見彰一展』81.3%、『富士山の絵画』77.7%の順になっている。否定的評価は 2.5%となっている。

評価指標 35　自家用車で来館した人のアクセス満足度

美術館カルテ 27　自家用車で来館した人のアクセス満足度

平成25年度	富士山の絵画	86.5
	二見彰一展	81.8
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	86.1
経年	平成 25 年度全体	85.0
	平成 24 年度全体	83.1
平成24年度	ユベール・ロベール展	74.8
	江戸絵画の楽園展	85.5
	川村清雄展	89.5

単位：%

⑦　全体的に見て、今回の来館は満足いただけたか（総合満足度）

全体

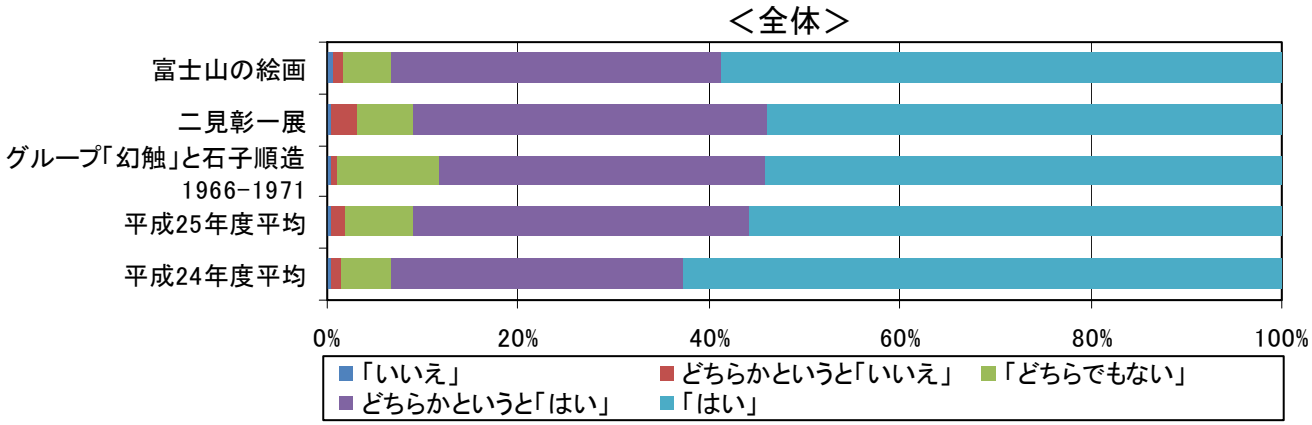
		件数（件）	「いいえ」	どちらかというと「いいえ」	「どちらでもない」	どちらかというと「はい」	「はい」
平成25年度	富士山の絵画	315	0.6	1.0	5.1	34.6	58.7
	二見彰一展	256	0.4	2.7	5.9	37.1	53.9
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	288	0.3	0.7	10.8	34.0	54.2
経年	平成 25 年度全体		0.5	1.4	7.2	35.2	55.8
	平成 24 年度全体		0.4	1.1	5.2	30.6	62.7
平成24年度	ユベール・ロベール展	272	0.0	1.8	4.8	27.6	65.8
	江戸絵画の楽園展	268	0.7	1.1	6.0	30.6	61.6
	川村清雄展	264	0.4	0.4	4.9	33.7	60.6

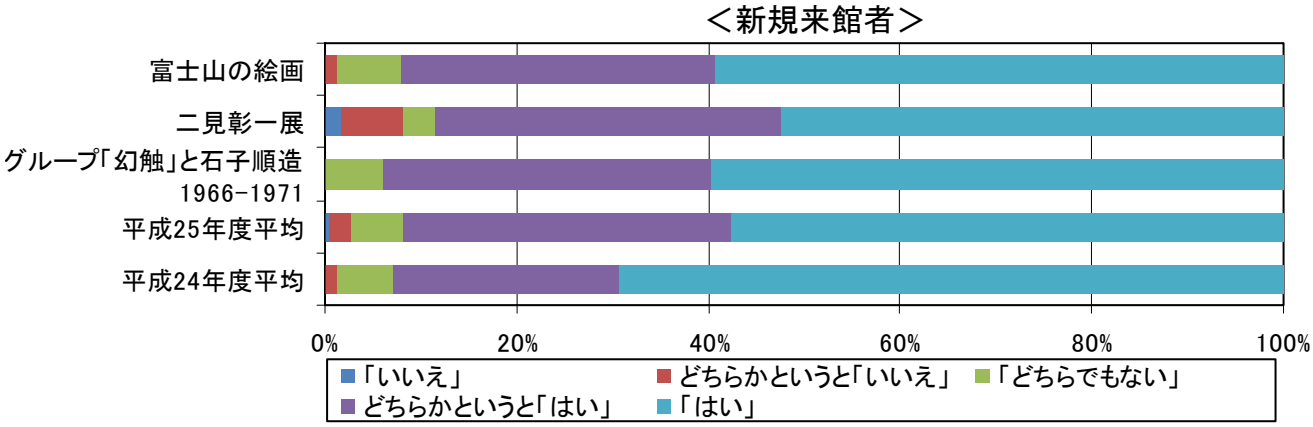
単位：%

新規来館者

		件数（件）	「いいえ」	どちらかというと「いいえ」	「どちらでもない」	どちらかというと「はい」	「はい」
平成25年度	富士山の絵画	76	0.0	1.3	6.6	32.9	59.2
	二見彰一展	61	1.6	6.6	3.3	36.1	52.5
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	82	0.0	0.0	6.1	34.1	59.8
経年	平成 25 年度全体		0.5	2.3	5.5	34.2	57.5
	平成 24 年度全体		0.0	1.3	5.7	23.6	69.4
平成24年度	ユベール・ロベール展	69	0.0	1.4	5.8	24.6	68.1
	江戸絵画の楽園展	42	0.0	0.0	9.5	21.4	69.0
	川村清雄展	46	0.0	2.2	2.2	23.9	71.7

単位：%





総合満足度について〈全体〉は、平成 25 年度は「どちらかというと「はい」」「はい」を合わせた肯定的評価が 91.0%となっている。肯定的評価は『富士山の絵画』93.3%、『二見彰一展』91.0%、『グループ「幻触」と石子順造 1966-1971』88.2%の順になっている。一方、「いいえ」「どちらかというと「いいえ」」を合わせた否定的評価は 1.9%となっている。

〈新規来館者〉は、平成 25 年度は肯定的評価が 91.7%となっている。肯定的評価は『グループ「幻触」と石子順造 1966-1971』93.9%、『富士山の絵画』92.1%、『二見彰一展』88.6%の順になっている。否定的評価は 2.8%となっている。

美術館カルテ５　展覧会の満足度

美術館カルテ 52　展覧会における新規観覧者の満足度

		展覧会の満足度	展覧会の満足度（新規来館者）
平成25年度	富士山の絵画	93.3	92.1
	二見彰一展	91.0	88.6
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	88.2	93.9
経年	平成 25 年度全体	91.0	91.7
	平成 24 年度全体	93.3	93.0
平成24年度	ユベール・ロベール展	93.4	92.7
	江戸絵画の楽園展	92.2	90.4
	川村清雄展	94.3	95.6

単位：%

⑧　「風景の美術館」であることを知っているか

全体

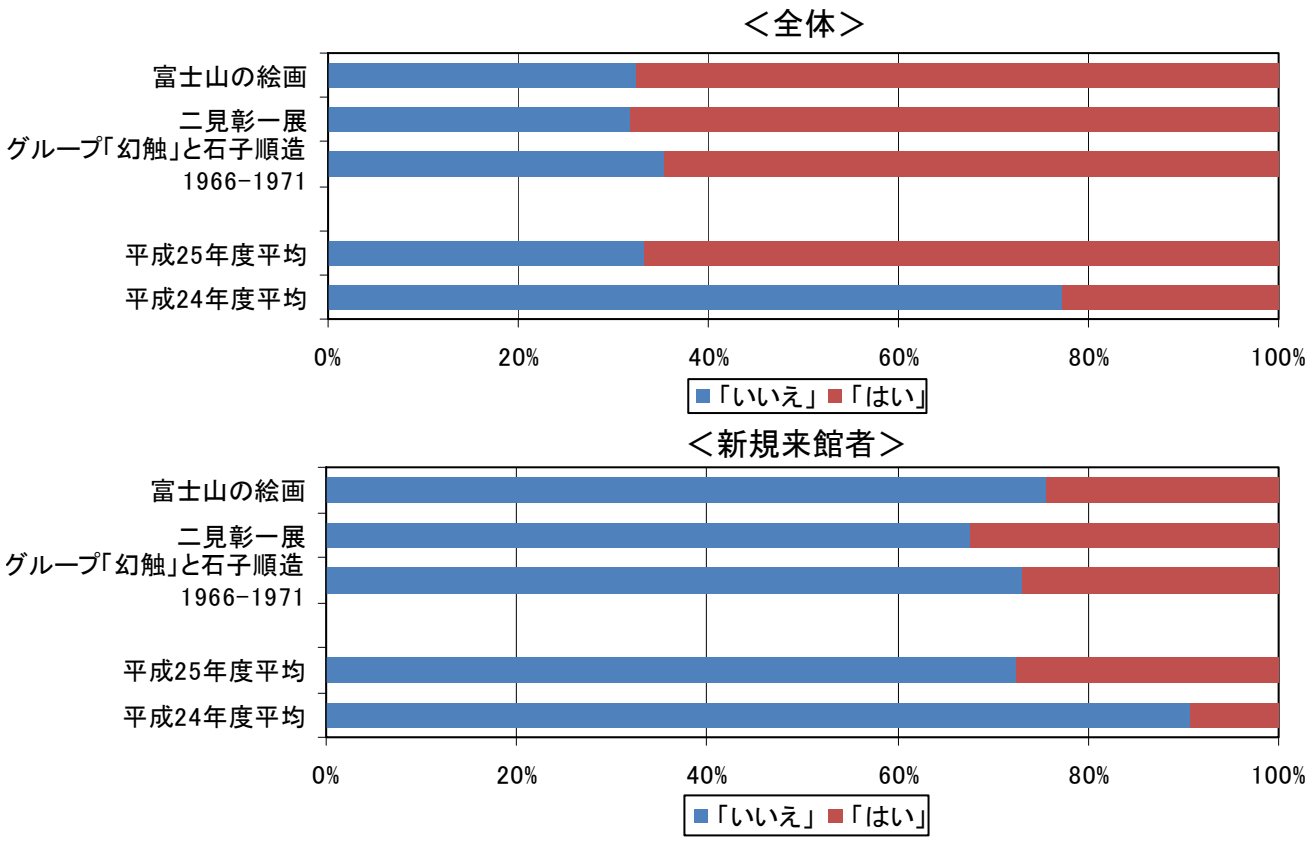
		件数（件）	「いいえ」	「はい」
平成25年度	富士山の絵画	318	32.4	67.6
	二見彰一展	261	31.8	68.2
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	292	35.3	64.7
経年	平成 25 年度全体		33.2	66.8
	平成 24 年度全体		77.3	22.7
平成24年度	ユベール・ロベール展	265	81.5	18.5
	江戸絵画の楽園展	260	70.8	29.2
	川村清雄展	258	79.5	20.5

単位：%

新規来館者

		件数（件）	「いいえ」	「はい」
平成25年度	富士山の絵画	78	75.6	24.4
	二見彰一展	62	67.7	32.3
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	82	73.2	26.8
経年	平成 25 年度全体		72.5	27.5
	平成 24 年度全体		90.7	9.3
平成24年度	ユベール・ロベール展	66	90.9	9.1
	江戸絵画の楽園展	43	86.0	14.0
	川村清雄展	42	95.2	4.8

単位：%



「風景とロダンの美術館」の認知について〈全体〉は、平成 25 年度は「はい」66.8%、「いいえ」33.2%となっている。

〈新規来館者〉は、平成 25 年度は「はい」27.5%、「いいえ」72.5%となっている。

美術館カルテ 23　風景の美術館としての認知度

平成25年度	富士山の絵画	67.6
	二見彰一展	68.2
	グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	64.7
経年	平成 25 年度全体	66.8
	平成 24 年度全体	22.7
平成24年度	ユベール・ロベール展	18.5
	江戸絵画の楽園展	29.2
	川村清雄展	20.5

単位：%

５　レストランアンケート結果

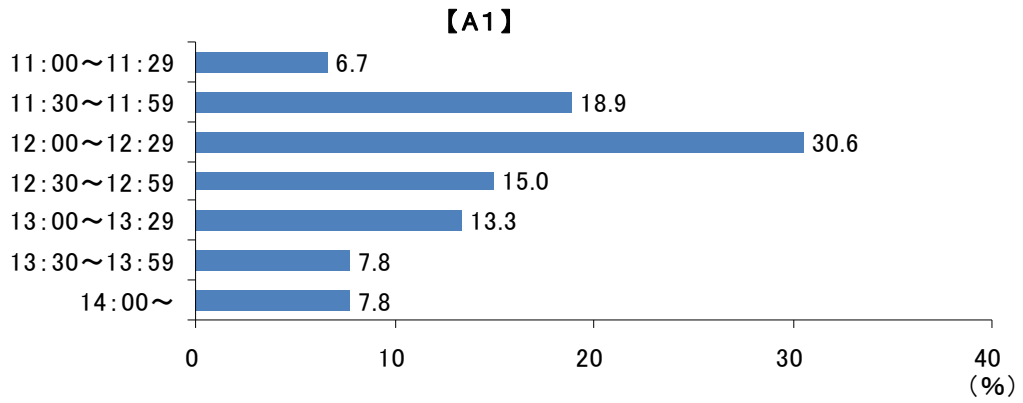
（１）　実施数（回答数）

富士山の絵画	79 件
二見彰一展	48 件
グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	53 件
合計	180 件

（２）　アンケート結果

Ａ１　入店時刻

		全　体	11：00 ～11:29	11：30 ～11:59	12：00 ～12:29	12：30 ～12:59	13：00 ～13:29	13：30 ～13:59	14：00 ～
平成 25 年度	回答数（件）	180	12	34	55	27	24	14	14
	割合（%）	100.0	6.7	18.9	30.6	15.0	13.3	7.8	7.8
平成 24 年度	回答数（件）	158	19	34	51	28	11	9	6
	割合（%）	100.0	12.0	21.5	32.3	17.7	7.0	5.7	3.8



Ａ２　注文内容

注文した料理	回答数（件）	注文した料理	回答数（件）
エスタセット	101 件	ランチセット	3 件
ロダンセット	18 件	ケーキ	2 件
本日のパスタ	18 件	デザートセット	2 件
県産ビーフとポークのハンバーグステーキ	10 件	本日の鮮魚のアクアパッツァ	1 件
コーヒー	9 件	アイス	1 件
エスタ特製海老・カニクリームコロッケとオムライス	7 件	サラダ	1 件
ミュゼスペシャリテ	7 件	スープ	1 件
ケーキセット	6 件	ポタージュ	1 件
静岡牛ランプ肉のグリル	6 件	カフェオレ	1 件
お子様オムライス	4 件	ビール	1 件
オードブル盛り合わせ	4 件	ワイン	1 件

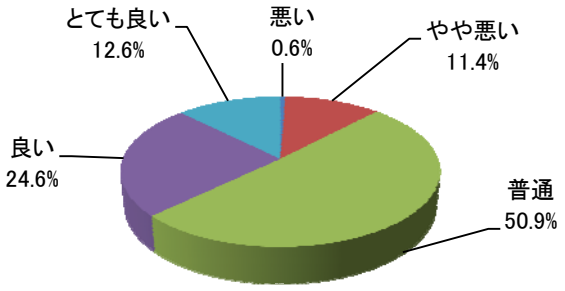
Ａ３　案内表示のわかりやすさ

		全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い
平成25年度	回答数（件）	175	1	20	89	43	22
	割合（%）	100.0	0.6	11.4	50.9	24.6	12.6
平成24年度	回答数（件）	154	5	7	59	57	26
	割合（%）	100.0	3.2	4.5	38.3	37.0	16.9

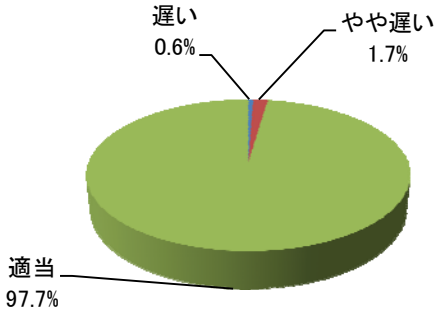
Ａ４　席に案内するまでの時間

		全体	遅い	やや遅い	適当
平成25年度	回答数（件）	175	1	3	171
	割合（%）	100.0	0.6	1.7	97.7
平成24年度	回答数（件）	152	3	1	148
	割合（%）	100.0	2.0	0.7	97.4

【A3】



【A4】



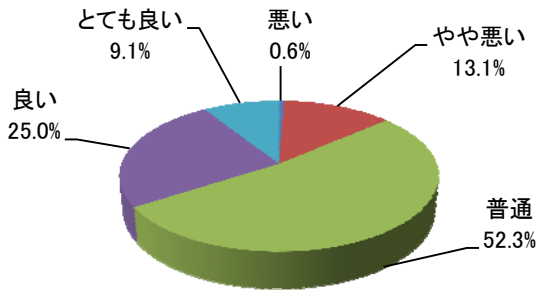
Ａ５　メニューの種類

		全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い
平成25年度	回答数（件）	176	1	23	92	44	16
	割合（%）	100.0	0.6	13.1	52.3	25.0	9.1
平成24年度	回答数（件）	157	0	6	61	66	24
	割合（%）	100.0	0.0	3.8	38.9	42.0	15.3

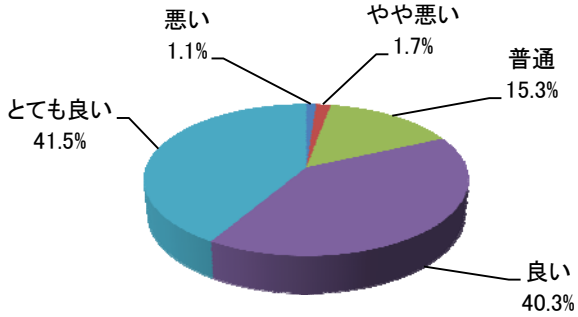
Ａ６　味

		全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い
平成25年度	回答数（件）	176	2	3	27	71	73
	割合（%）	100.0	1.1	1.7	15.3	40.3	41.5
平成24年度	回答数（件）	157	0	4	28	75	50
	割合（%）	100.0	0.0	2.5	17.8	47.8	31.8

【A5】



【A6】



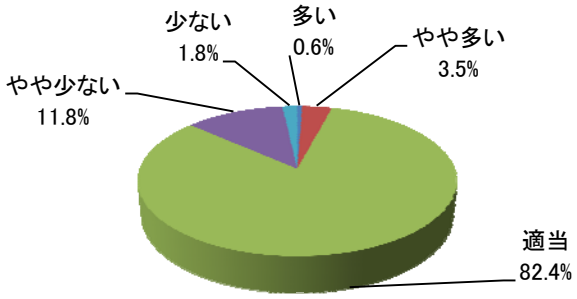
Ａ７　量

		全体	多い	やや多い	適当	やや少ない	少ない
平成25年度	回答数（件）	170	1	6	140	20	3
	割合（%）	100.0	0.6	3.5	82.4	11.8	1.8
平成24年度	回答数（件）	155	2	14	128	10	1
	割合（%）	100.0	1.3	9.0	82.6	6.5	0.6

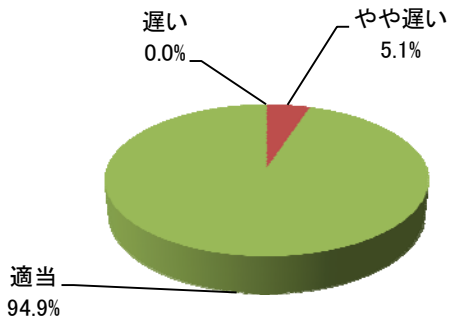
Ａ８　料理が出るまでの時間

		全体	遅い	やや遅い	適当
平成25年度	回答数（件）	178	0	9	169
	割合（%）	100.0	0.0	5.1	94.9
平成24年度	回答数（件）	157	0	8	149
	割合（%）	100.0	0.0	5.1	94.9

【A7】



【A8】



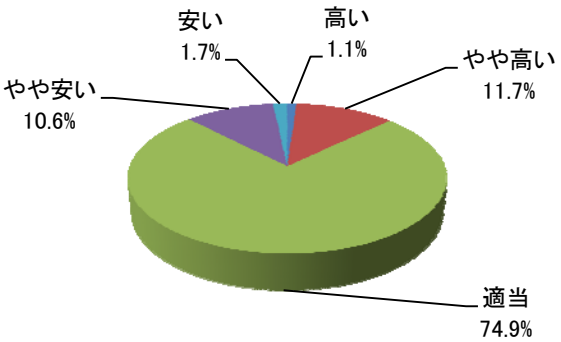
Ａ９　値　段

		全体	高い	やや高い	適当	やや安い	安い
平成25年度	回答数（件）	179	2	21	134	19	3
	割合（%）	100.0	1.1	11.7	74.9	10.6	1.7
平成24年度	回答数（件）	158	2	17	123	6	10
	割合（%）	100.0	1.3	10.8	77.8	3.8	6.3

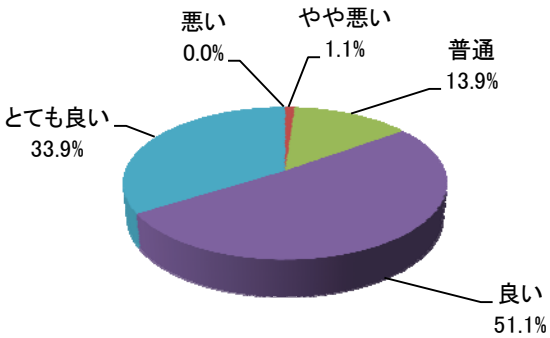
A10　店の雰囲気、清潔さ

		全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い
平成25年度	回答数（件）	180	0	2	25	92	61
	割合（%）	100.0	0.0	1.1	13.9	51.1	33.9
平成24年度	回答数（件）	156	0	2	25	62	67
	割合（%）	100.0	0.0	1.3	16.0	39.7	42.9

【A9】



【A10】



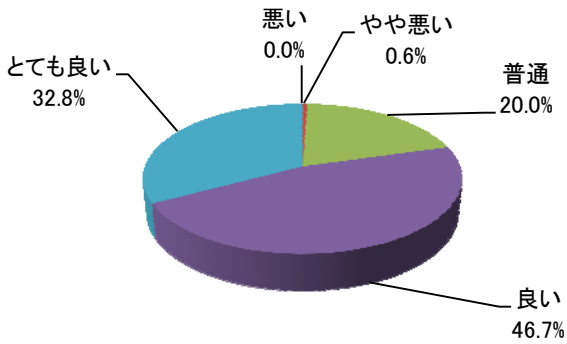
A11　従業員の言葉遣いや態度

		全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い
平成25年度	回答数（件）	180	0	1	36	84	59
	割合（%）	100.0	0.0	0.6	20.0	46.7	32.8
平成24年度	回答数（件）	157	3	3	25	73	53
	割合（%）	100.0	1.9	1.9	15.9	46.5	33.8

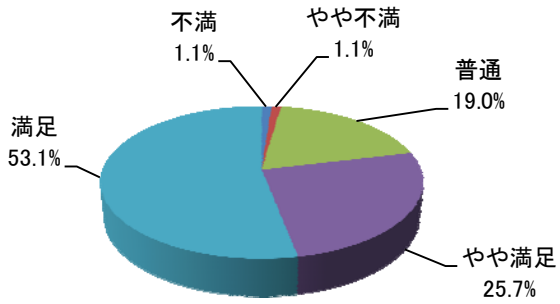
A12　満足度

		全体	不満	やや不満	普通	やや満足	満足
平成25年度	回答数（件）	179	2	2	34	46	95
	割合（%）	100.0	1.1	1.1	19.0	25.7	53.1
平成24年度	回答数（件）	156	0	5	25	39	87
	割合（%）	100.0	0.0	3.2	16.0	25.0	55.8

【A11】



【A12】



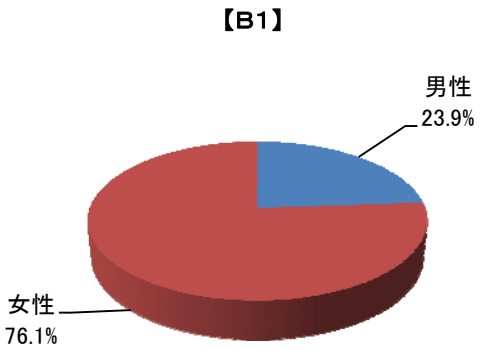
Ａ13　不満や改善点（略）

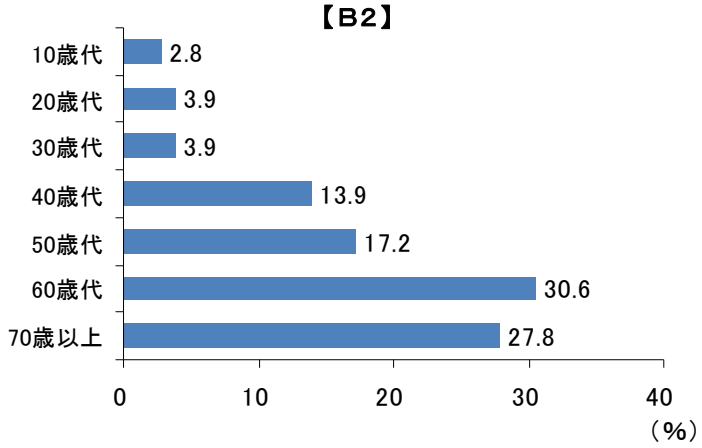
Ｂ１　性　別

		全体	男性	女性
平成25年度	回答数（件）	180	43	137
	割合（%）	100.0	23.9	76.1
平成24年度	回答数（件）	158	57	101
	割合（%）	100.0	36.1	63.9

Ｂ２　年　齢

		全体	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
平成25年度	回答数（件）	180	5	7	7	25	31	55	50
	割合（%）	100.0	2.8	3.9	3.9	13.9	17.2	30.6	27.8
平成24年度	回答数（件）	158	9	5	14	27	30	46	27
	割合（%）	100.0	5.7	3.2	8.9	17.1	19.0	29.1	17.1



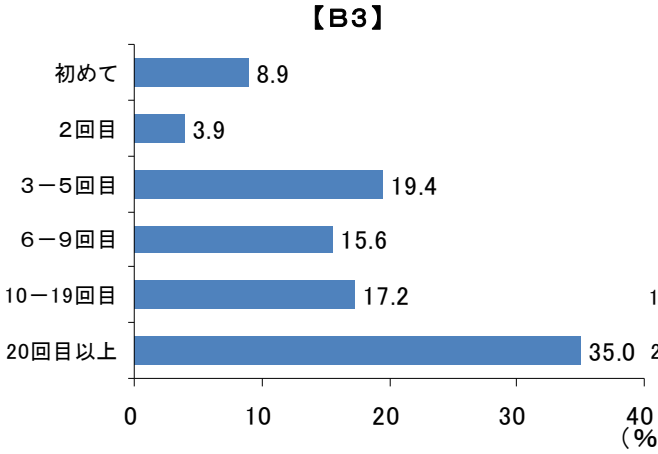


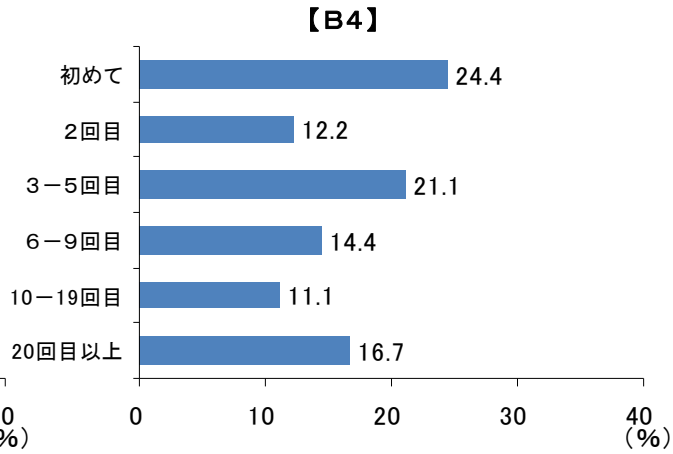
Ｂ３　来館回数

		全体	初めて	２回目	３－５回目	６－９回目	10－19回目	20回目以上
平成25年度	回答数（件）	180	16	7	35	28	31	63
	割合（%）	100.0	8.9	3.9	19.4	15.6	17.2	35.0
平成24年度	回答数（件）	158	19	13	21	28	31	46
	割合（%）	100.0	12.0	8.2	13.3	17.7	19.7	29.1

Ｂ４　レストランの利用回数

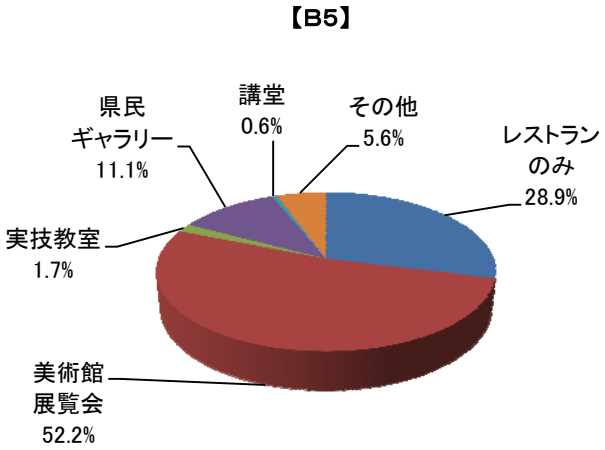
		全体	初めて	２回目	３－５回目	６－９回目	10－19回目	20回目以上
平成25年度	回答数（件）	180	44	22	38	26	20	30
	割合（%）	100.0	24.4	12.2	21.1	14.4	11.1	16.7
平成24年度	回答数（件）	157	50	15	35	17	17	23
	割合（%）	100.0	31.8	9.6	22.3	10.8	10.8	14.6





Ｂ５　主な来館目的

		全体	レストランのみ	美術館展覧会	実技教室	県民ギャラリー	講堂	その他
平成25年度	回答数（件）	180	52	94	3	20	1	10
	割合（%）	100.0	28.9	52.2	1.7	11.1	0.6	5.6
平成24年度	回答数（件）	156	31	107	1	8	0	9
	割合（%）	100.0	19.9	68.6	0.6	5.1	0.0	5.8



６　カフェアンケート結果

（１）　実施数（回答数）

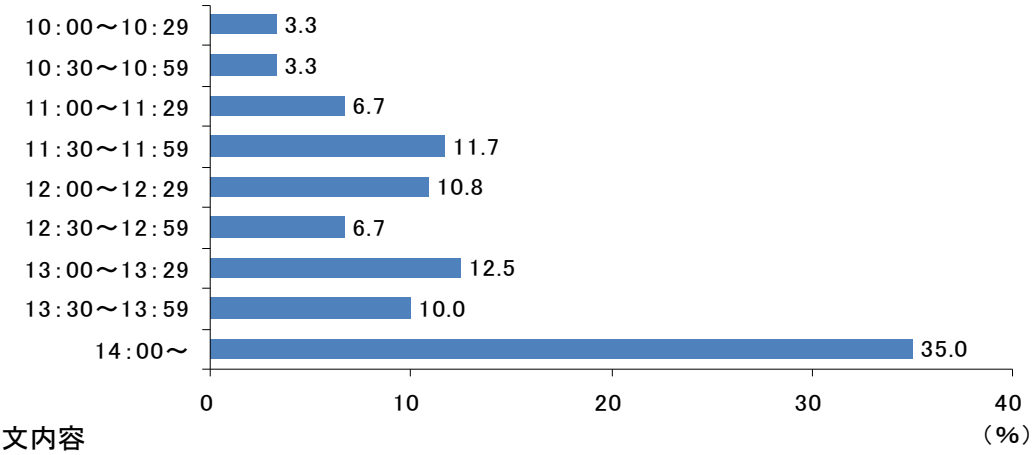
富士山の絵画	49 件
二見彰一展	34 件
グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	37 件
合計	120 件

（２）　アンケート結果

Ａ１　入店時刻

		全体	10：00～10：29	10：30～10：59	11：00～11：29	11：30～11：59	12：00～12：29	12：30～12：59	13：00～13：29	13：30～13：59	14：00～
平成25年度	回答数（件）	120	4	4	8	14	13	8	15	12	42
	割合（%）	100.0	3.3	3.3	6.7	11.7	10.8	6.7	12.5	10.0	35.0
平成24年度	回答数（件）	108	0	10	6	16	19	11	11	9	26
	割合（%）	100.0	0.0	9.3	5.6	14.8	17.6	10.2	10.2	8.3	24.1

【A1】



Ａ２　注文内容

注文した料理	回答数（件）	注文した料理	回答数（件）
コーヒー	57 件	チーズハンバーグサンド	4 件
ケーキ	17 件	シフォンケーキ	4 件
サンドイッチ	15 件	アイスティー	3 件
ホットサンド	13 件	グレープフルーツジュース	3 件
パン	10 件	ツナホットサンド	3 件
アイスコーヒー	9 件	クロワッサン	2 件
ドリンクセット	9 件	日替わりサンド	2 件
オレンジジュース	8 件	シナモンロール	1 件
紅茶	8 件	スモークサーモンとポテトサラダのクロワッサンサンド	1 件
カフェラテ	7 件	ペッパーポークとポテトサラダのベーグルサンド	1 件
ミックスチーズサンド	7 件	ペッパーポークホットサンド	1 件
プリン	6 件	ポークデニッシュ	1 件
県産豚のリエット	5 件	ミルクティー	1 件
ジュース	4 件	レモンティー	1 件

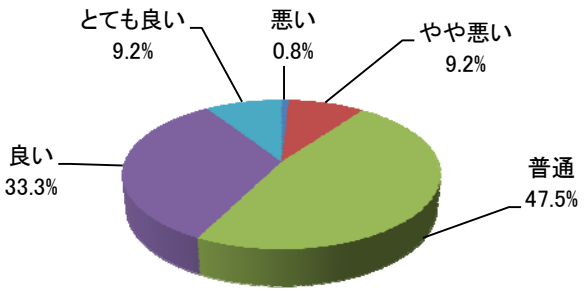
Ａ３　案内表示のわかりやすさ

		全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い
平成25年度	回答数（件）	120	1	11	57	40	11
	割合（%）	100.0	0.8	9.2	47.5	33.3	9.2
平成24年度	回答数（件）	107	0	4	50	37	16
	割合（%）	100.0	0.0	3.7	46.7	34.6	15.0

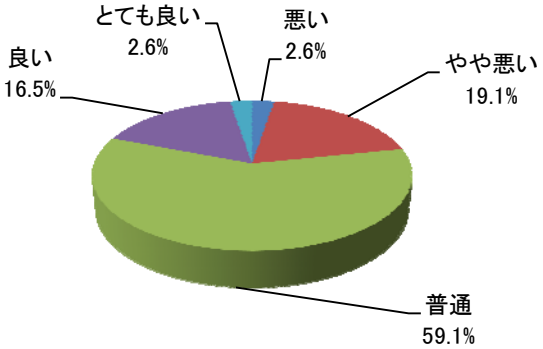
Ａ４　メニューの種類

		全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い
平成25年度	回答数（件）	115	3	22	68	19	3
	割合（%）	100.0	2.6	19.1	59.1	16.5	2.6
平成24年度	回答数（件）	107	0	9	64	26	8
	割合（%）	100.0	0.0	8.4	59.8	24.3	7.5

【A3】



【A4】



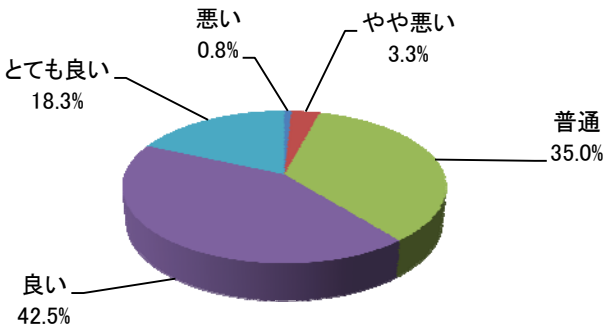
Ａ５　味

		全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い
平成25年度	回答数（件）	120	1	4	42	51	22
	割合（%）	100.0	0.8	3.3	35.0	42.5	18.3
平成24年度	回答数（件）	107	0	3	30	49	25
	割合（%）	100.0	0.0	2.8	28.0	45.8	23.4

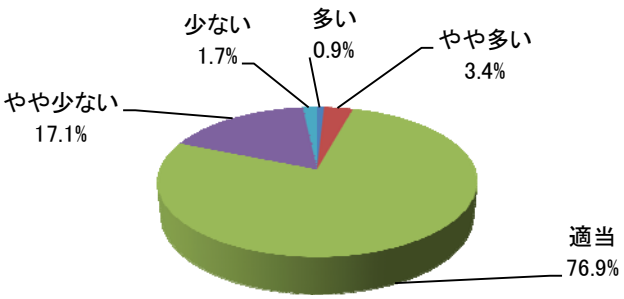
Ａ６　量

		全体	多い	やや多い	適当	やや少ない	少ない
平成25年度	回答数（件）	117	1	4	90	20	2
	割合（%）	100.0	0.9	3.4	76.9	17.1	1.7
平成24年度	回答数（件）	107	0	0	90	16	1
	割合（%）	100.0	0.0	0.0	84.1	15.0	0.9

【A5】



【A6】



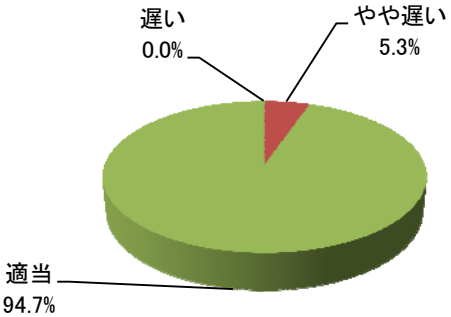
Ａ７　料理が出るまでの時間

		全体	遅い	やや遅い	適当
平成25年度	回答数（件）	113	0	6	107
	割合（%）	100.0	0.0	5.3	94.7
平成24年度	回答数（件）	107	1	2	104
	割合（%）	100.0	0.9	1.9	97.2

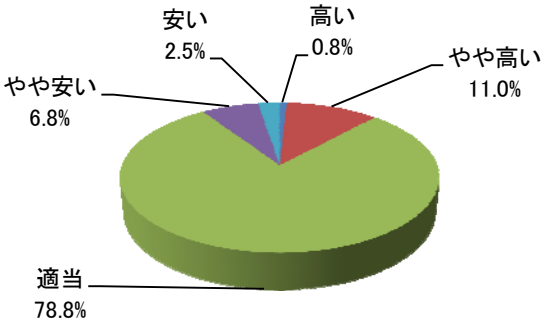
Ａ８　値　段

		全体	高い	やや高い	適当	やや安い	安い
平成25年度	回答数（件）	118	1	13	93	8	3
	割合（%）	100.0	0.8	11.0	78.8	6.8	2.5
平成24年度	回答数（件）	107	0	10	83	9	5
	割合（%）	100.0	0.0	9.3	77.6	8.4	4.7

【A7】



【A8】



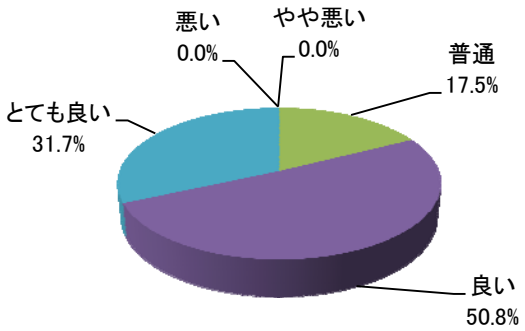
Ａ９　店の雰囲気、清潔さ

		全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い
平成25年度	回答数（件）	120	0	0	21	61	38
	割合（%）	100.0	0.0	0.0	17.5	50.8	31.7
平成24年度	回答数（件）	108	0	0	17	54	37
	割合（%）	100.0	0.0	0.0	15.7	50.0	34.3

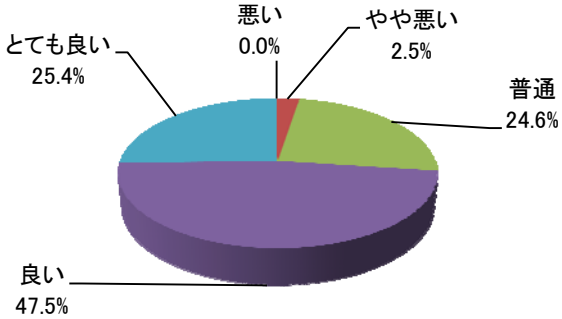
Ａ10　従業員の言葉遣いや態度

		全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い
平成25年度	回答数（件）	118	0	3	29	56	30
	割合（%）	100.0	0.0	2.5	24.6	47.5	25.4
平成24年度	回答数（件）	107	0	0	22	51	34
	割合（%）	100.0	0.0	0.0	20.6	47.7	31.8

【A9】



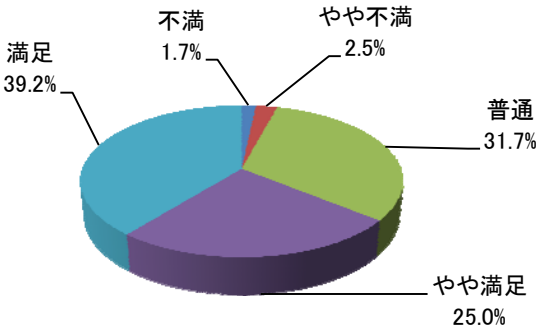
【A10】



Ａ11　満足度

		全体	不満	やや不満	普通	やや満足	満足
平成25年度	回答数（件）	120	2	3	38	30	47
	割合（%）	100.0	1.7	2.5	31.7	25.0	39.2
平成24年度	回答数（件）	107	0	1	18	32	56
	割合（%）	100.0	0.0	0.9	16.8	29.9	52.3

【A11】



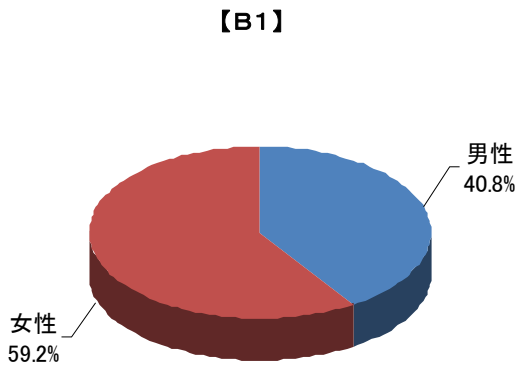
Ａ12　不満や改善点（略）

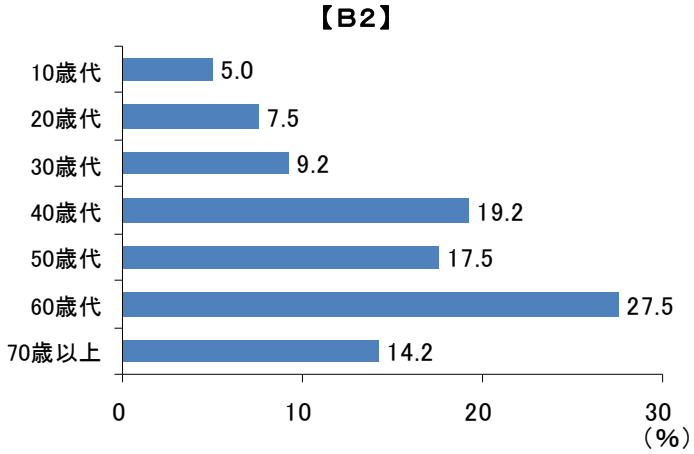
Ｂ１　性　別

		全体	男性	女性
平成25年度	回答数（件）	120	49	71
	割合（%）	100.0	40.8	59.2
平成24年度	回答数（件）	108	43	65
	割合（%）	100.0	39.8	60.2

Ｂ２　年　齢

		全体	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上
平成25 年度	回答数（件）	120	6	9	11	23	21	33	17
	割合（%）	100.0	5.0	7.5	9.2	19.2	17.5	27.5	14.2
平成24 年度	回答数（件）	108	3	10	12	11	25	28	19
	割合（%）	100.0	2.8	9.3	11.1	10.2	23.1	25.9	17.6



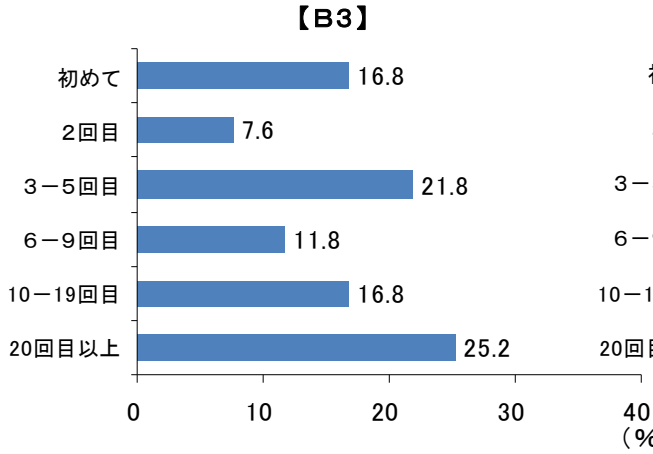


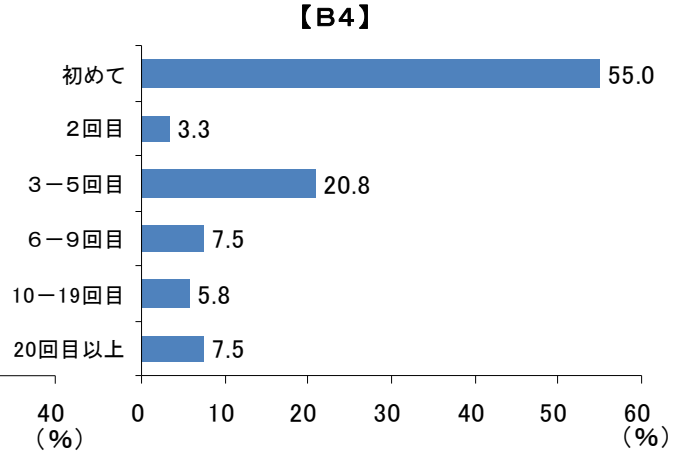
Ｂ３　来館回数

		全体	初めて	２回目	３－５回目	６－９回目	10－19回目	20 回目以上
平成25 年度	回答数（件）	119	20	9	26	14	20	30
	割合（%）	100.0	16.8	7.6	21.8	11.8	16.8	25.2
平成24 年度	回答数（件）	108	15	12	13	18	29	21
	割合（%）	100.0	13.9	11.1	12.0	16.7	26.9	19.4

Ｂ４　カフェの利用回数

		全体	初めて	２回目	３－５回目	６－９回目	10－19回目	20 回目以上
平成25 年度	回答数（件）	120	66	4	25	9	7	9
	割合（%）	100.0	55.0	3.3	20.8	7.5	5.8	7.5
平成24 年度	回答数（件）	107	42	22	31	2	5	5
	割合（%）	100.0	39.3	20.6	29.0	1.9	4.7	4.7

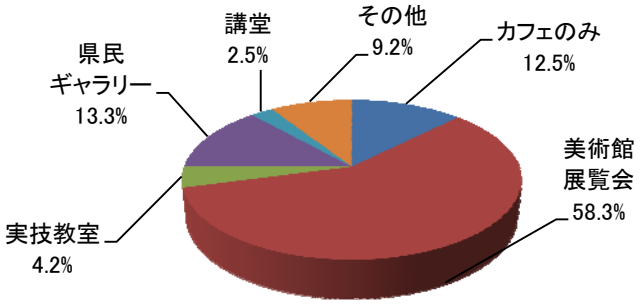




Ｂ５　主な来館目的

		全体	カフェのみ	美術館展覧会	実技教室	県民ギャラリー	講堂	その他
平成25年度	回答数（件）	120	15	70	5	16	3	11
	割合（%）	100.0	12.5	58.3	4.2	13.3	2.5	9.2
平成24年度	回答数（件）	108	4	78	4	11	5	6
	割合（%）	100.0	3.7	72.2	3.7	10.2	4.6	5.6

【B5】



７　ミュージアム・ショップアンケート結果

（１）　実施数（回答数）

富士山の絵画	77 件
二見彰一展	42 件
グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	50 件
合計	169 件

（２）　アンケート結果

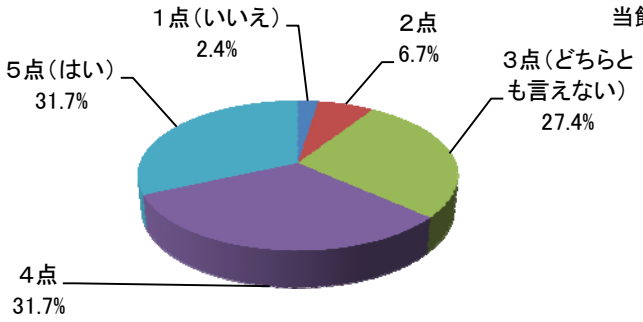
Ａ１　品揃えの充実

		全体	１点（いいえ）	２点	３点（どちらとも言えない）	４点	５点（はい）
平成25年度	回答数（件）	164	4	11	45	52	52
	割合（%）	100.0	2.4	6.7	27.4	31.7	31.7
平成24年度	回答数（件）	151	2	6	38	61	44
	割合（%）	100.0	1.3	4.0	25.2	40.4	29.1

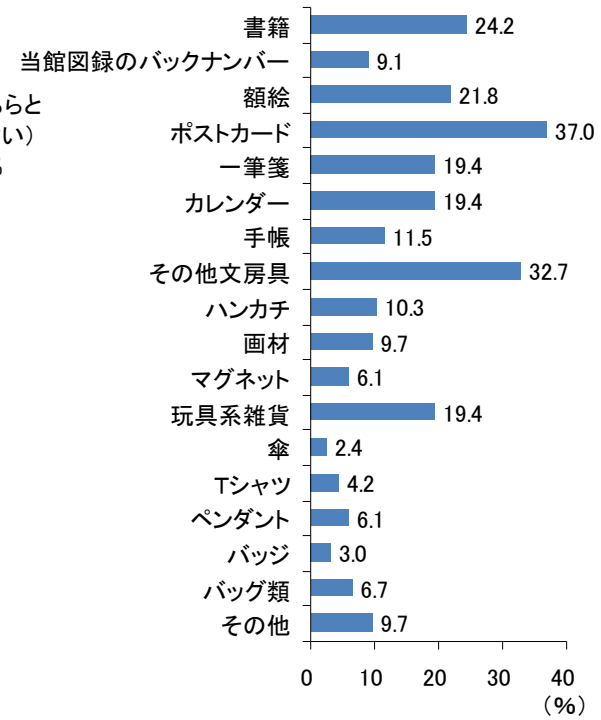
Ａ２　充実してほしい商品（複数回答）

		全体	書籍	当館図録のバックナンバー	額絵	ポストカード	一筆箋	カレンダー	手帳	その他文房具	ハンカチ
平成25年度	回答数（件）	165	40	15	36	61	32	32	19	54	17
	割合（%）	100.0	24.2	9.1	21.8	37.0	19.4	19.4	11.5	32.7	10.3
平成24年度	回答数（件）	155	50	19	13	68	24	23		23	10
	割合（%）	100.0	32.3	12.3	8.4	43.9	15.5	14.8		14.8	6.5
			画材	マグネット	玩具系雑貨	傘	Ｔシャツ	ペンダント	バッジ	バッグ類	その他
平成25年度	回答数（件）		16	10	32	4	7	10	5	11	16
	割合（%）		9.7	6.1	19.4	2.4	4.2	6.1	3.0	6.7	9.7
平成24年度	回答数（件）		13	14	27	3	8	11	5		13
	割合（%）		8.4	9.0	17.4	1.9	5.2	7.1	3.2		8.4

【A1】



【A2】



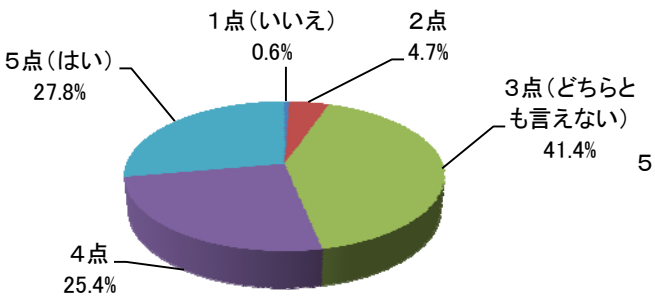
Ａ３　価格は適当か

		全体	１点（いいえ）	２点	３点（どちらとも言えない）	４点	５点（はい）
平成25年度	回答数（件）	169	1	8	70	43	47
	割合（%）	100.0	0.6	4.7	41.4	25.4	27.8
平成24年度	回答数（件）	160	0	4	59	60	37
	割合（%）	100.0	0.0	2.5	36.9	37.5	23.1

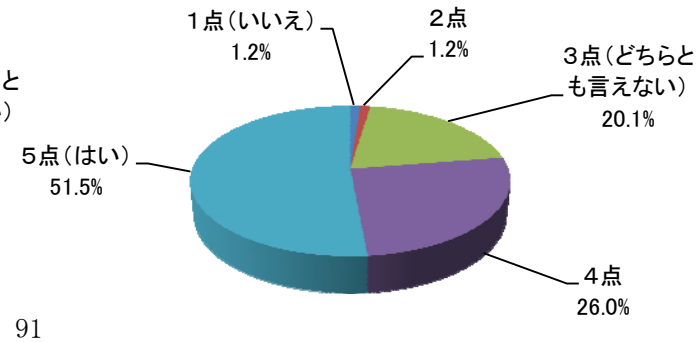
Ａ４　従業員の対応

		全体	１点（いいえ）	２点	３点（どちらとも言えない）	４点	５点（はい）
平成25年度	回答数（件）	169	2	2	34	44	87
	割合（%）	100.0	1.2	1.2	20.1	26.0	51.5
平成24年度	回答数（件）	158	0	6	36	39	77
	割合（%）	100.0	0.0	3.8	22.8	24.7	48.7

【A3】



【A4】



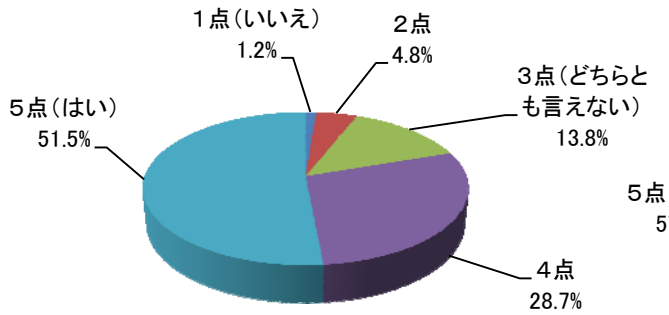
Ａ５　静岡美術館にふさわしい雰囲気か

		全体	１点（いいえ）	２点	３点（どちらとも言えない）	４点	５点（はい）
平成25年度	回答数（件）	167	2	8	23	48	86
	割合（%）	100.0	1.2	4.8	13.8	28.7	51.5
平成24年度	回答数（件）	160	1	2	26	53	78
	割合（%）	100.0	0.6	1.3	16.3	33.1	48.8

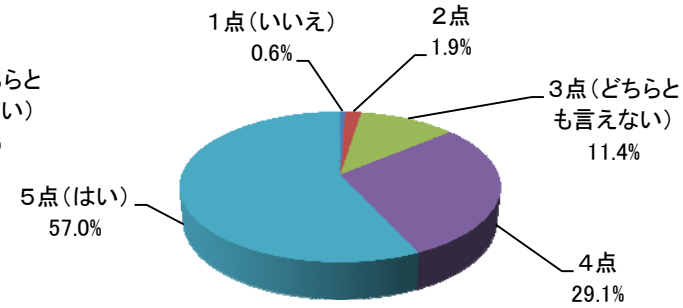
Ａ６　次回も来店したいか（満足度）

		全体	１点（いいえ）	２点	３点（どちらとも言えない）	４点	５点（はい）
平成25年度	回答数（件）	158	1	3	18	46	90
	割合（%）	100.0	0.6	1.9	11.4	29.1	57.0
平成24年度	回答数（件）	152	1	2	23	44	82
	割合（%）	100.0	0.7	1.3	15.1	28.9	53.9

【A5】



【A6】



Ａ７　ご意見・ご感想（略）

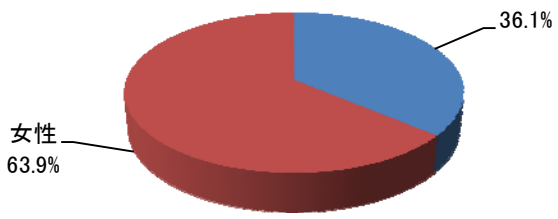
Ｂ１　性　別

		全体	男性	女性
平成25年度	回答数（件）	169	61	108
	割合（%）	100.0	36.1	63.9
平成24年度	回答数（件）	160	51	109
	割合（%）	100.0	31.9	68.1

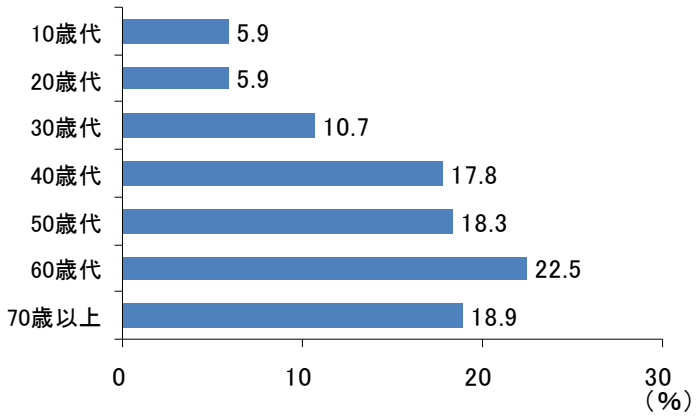
Ｂ２　年　齢

		全体	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
平成25年度	回答数（件）	169	10	10	18	30	31	38	32
	割合（%）	100.0	5.9	5.9	10.7	17.8	18.3	22.5	18.9
平成24年度	回答数（件）	160	15	9	28	37	29	24	18
	割合（%）	100.0	9.4	5.6	17.5	23.1	18.1	15.0	11.3

【B1】



【B2】



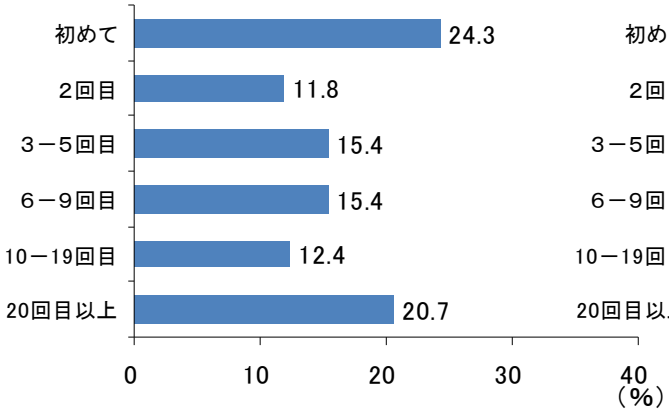
Ｂ３　来館回数

		全体	初めて	２回目	３－５回目	６－９回目	10－19回目	20回目以上
平成25年度	回答数（件）	169	41	20	26	26	21	35
	割合（%）	100.0	24.3	11.8	15.4	15.4	12.4	20.7
平成24年度	回答数（件）	160	19	10	34	25	35	37
	割合（%）	100.0	11.9	6.3	21.3	15.6	21.9	23.1

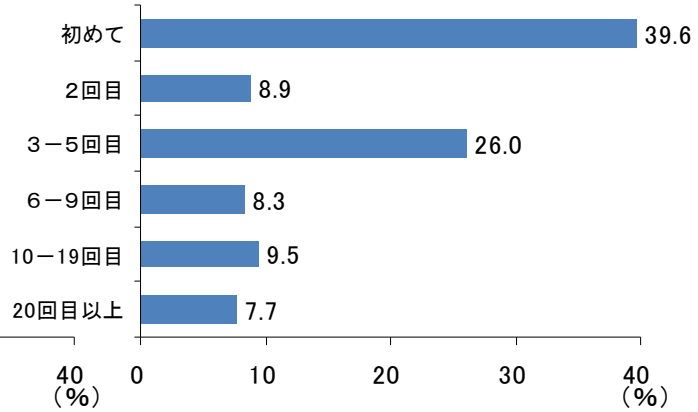
Ｂ４　ミュージアム・ショップの利用回数

		全体	初めて	２回目	３－５回目	６－９回目	10－19回目	20回目以上
平成25年度	回答数（件）	169	67	15	44	14	16	13
	割合（%）	100.0	39.6	8.9	26.0	8.3	9.5	7.7
平成24年度	回答数（件）	158	31	17	41	22	27	20
	割合（%）	100.0	19.6	10.8	25.9	13.9	17.1	12.7

【B3】



【B4】



８　美術館ホームページアンケート結果

（１）　実施数（回答数）

188 件

（２）　アンケート結果

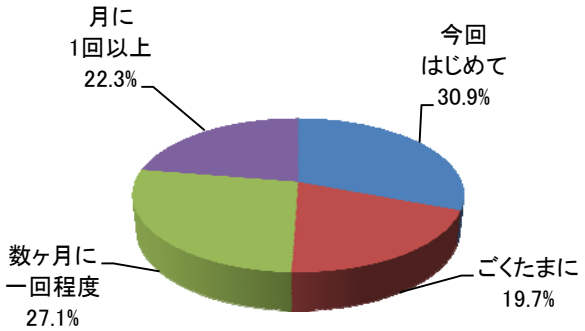
問１．当ホームページをどのくらいの頻度でご覧になりますか？

		全体	今回はじめて	ごくたまに	数ヶ月に１回程度	月に１回以上	無回答
平成25年度	回答数（件）	188	58	37	51	42	0
	割合（%）	100.0	30.9	19.7	27.1	22.3	0.0
平成24年度	回答数（件）	197	55	29	65	45	3
	割合（%）	100.0	27.9	14.7	33.0	22.8	1.5

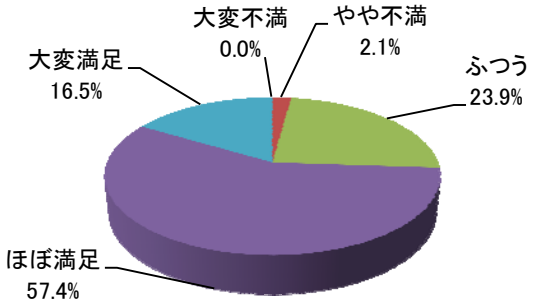
問２．当ホームページの情報内容について

		全体	大変不満	やや不満	ふつう	ほぼ満足	大変満足	無回答
平成25年度	回答数（件）	188	0	4	45	108	31	0
	割合（%）	100.0	0.0	2.1	23.9	57.4	16.5	0.0
平成24年度	回答数（件）	197	0	13	40	119	22	3
	割合（%）	100.0	0.0	6.6	20.3	60.4	11.2	1.5

【問1】



【問2】



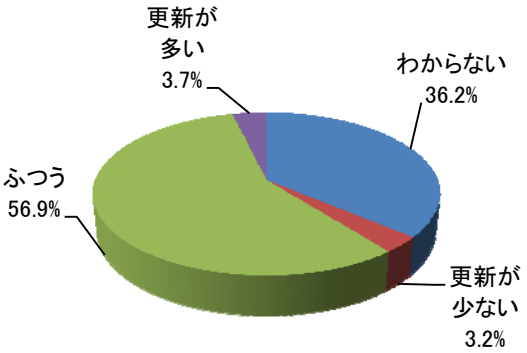
問３．当ホームページの更新頻度について

		全体	わからない	更新が少ない	ふつう	更新が多い	無回答
平成25年度	回答数（件）	188	68	6	107	7	0
	割合（%）	100.0	36.2	3.2	56.9	3.7	0.0
平成24年度	回答数（件）	197	64	8	112	7	6
	割合（%）	100.0	32.5	4.1	56.9	3.6	3.0

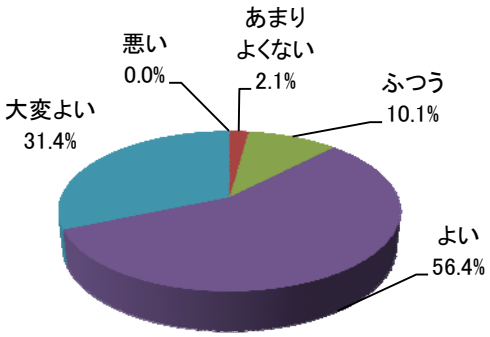
問４．当ホームページのデザインについて

		全体	悪い	あまりよくない	ふつう	よい	大変よい	無回答
平成25年度	回答数（件）	188	0	4	19	106	59	0
	割合（%）	100.0	0.0	2.1	10.1	56.4	31.4	0.0
平成24年度	回答数（件）	197	0	0	38	106	50	3
	割合（%）	100.0	0.0	0.0	19.3	53.8	25.4	1.5

【問3】



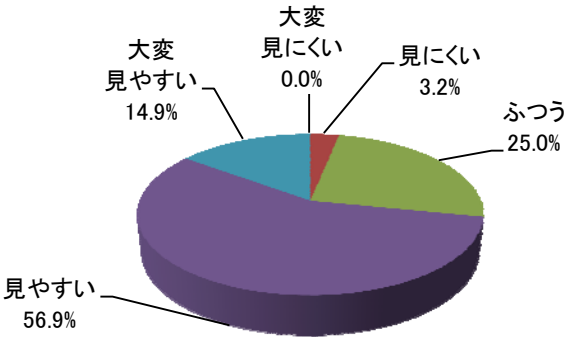
【問4】



問５．当ホームページの見やすさについて

		全体	大変見にくい	見にくい	ふつう	見やすい	大変見やすい	無回答
平成25年度	回答数（件）	188	0	6	47	107	28	0
	割合（%）	100.0	0.0	3.2	25.0	56.9	14.9	0.0
平成24年度	回答数（件）	197	0	7	46	112	29	3
	割合（%）	100.0	0.0	3.6	23.4	56.9	14.7	1.5

【問5】



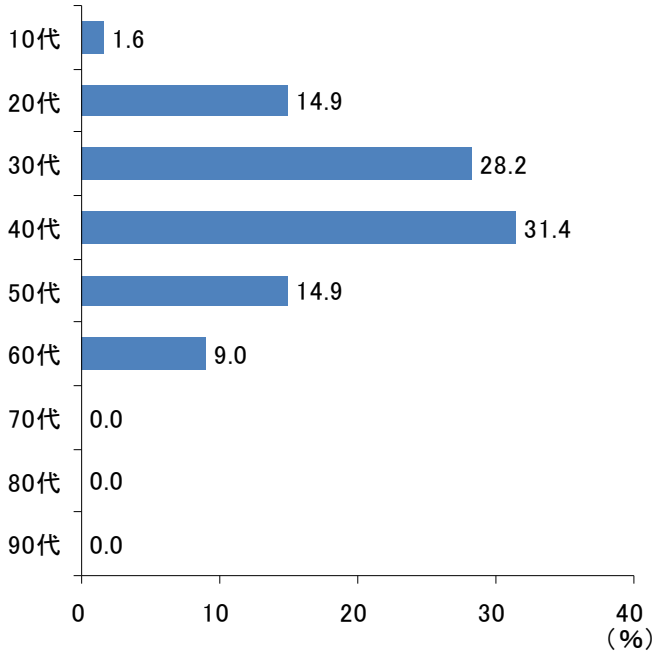
※１　年　齢

		全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	無回答
平成25年度	回答数（件）	188	3	28	53	59	28	17	0	0	0	0
	割合（%）	100.0	1.6	14.9	28.2	31.4	14.9	9.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平成24年度	回答数（件）	197	2	18	45	53	54	17	4	1	0	3
	割合（%）	100.0	1.0	9.1	22.8	26.9	27.4	8.6	2.0	0.5	0.0	1.5

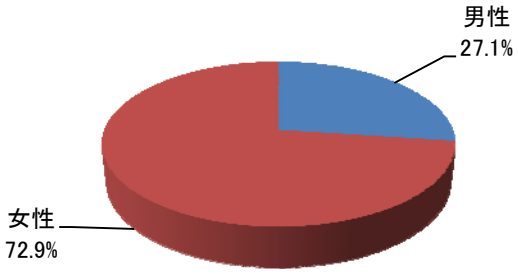
※２　性　別

		全体	男性	女性	無回答
平成25年度	回答数（件）	188	51	137	0
	割合（%）	100.0	27.1	72.9	0.0
平成24年度	回答数（件）	197	66	127	4
	割合（%）	100.0	33.5	64.5	2.0

【※1】
（回答者数=188）



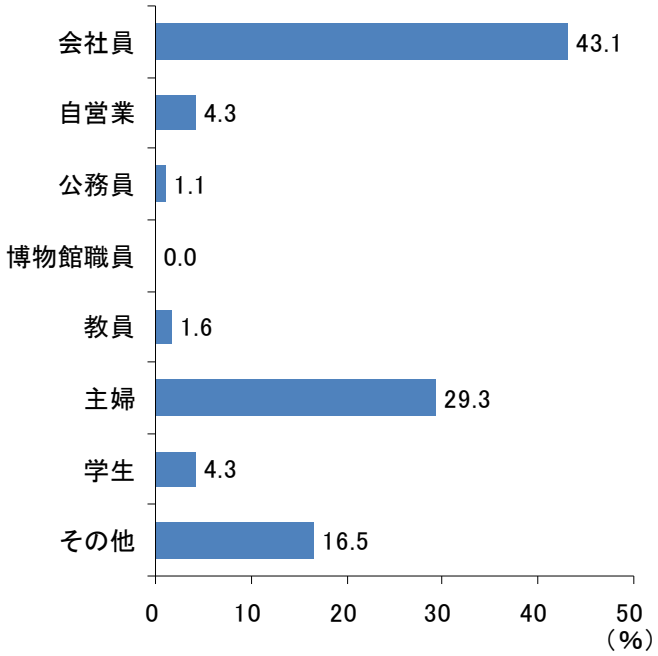
【※2】



※３　職業

		全体	会社員	自営業	公務員	博物館職員	教員	主婦	学生	その他	無回答
平成25年度	回答数（件）	188	81	8	2	0	3	55	8	31	0
	割合（%）	100.0	43.1	4.3	1.1	0.0	1.6	29.3	4.3	16.5	0.0
平成24年度	回答数（件）	197	88	9	8	0	7	51	3	27	4
	割合（%）	100.0	44.7	4.6	4.1	0.0	3.6	25.9	1.5	13.7	2.0

【※3】
（回答者数=188）



９　自由意見

（１）　生活において「美術館」の存在・位置付け

あなたの生活において「美術館」はどのような存在・位置付けですか。とたずねたところ、599 件の自由意見があり掲載する。（重複を割愛）

●心の癒し。（女性/50 歳代）
●生活での時間の切り替え。（女性/60 歳代）
●考えを豊かにするもの。（女性/30 歳代）
●生活の中の楽しみ。（男性/60 歳代）
●彩りをそえるもの。（男性/30 歳代）
●心を洗う場所。（女性/30 歳代）
●リフレッシュする場。新しく発見をする場。（女性/20 歳代）
●現実とは異なった知らない世界を知ることができる場所。（女性/50 歳代）
●散歩道。（男性/40 歳代）
●余暇時間の一部。（男性/70 歳以上）
●美術作品は好きで、折に触れ見たい。（女性/70 歳以上）
●一人になれる。（男性/70 歳以上）
●子どもに少しでも興味を持ってもらいたい。また、自分の知識としても役に立てたい。（女性/30 歳代）
●何となく遠い場所。いろいろな世界を見せてくれる。（女性/13～19 歳）
●日常生活より離れた別世界の中に身を置ける場所です。（男性/70 歳以上）
●少しでも情想を豊かに、老後の糧と思い楽しみにしています。（女性/70 歳以上）
●定期的に訪れるもの。インスピレーションをもらえる場所。日常では気付かない、考えないようなことに出会える場所。居心地の良い場所。（女性/20 歳代）
●見ていると心が和みます。（男性/50 歳代）
●日常から精神を飛翔させてくれる所。（男性/70 歳以上）
●絵を見て勉強する場。（女性/13～19 歳）
●部活の一環で自分が描く絵がいろいろと広がる場所。（女性/13～19 歳）
●時々心の掃除に来てみたい。（女性/70 歳以上）
●あまり身近には感じられない特別なもの。（女性/70 歳以上）
●時々来て良いものに触れて気分転換をしたいが、忙しくてなかなか来られない。（女性/40 歳代）
●精神的な楽しみ。（女性/70 歳以上）
●心を磨く所。（女性/50 歳代）
●栃木の美術館を散歩コースにしています。（女性/60 歳代）
●たまに行くとおもしろい。（男性/30 歳代）
●名古屋に住んでいますが、興味深い作品を近くの美術館に見に行ったり、名古屋市ボストン美術館の会員となってよく見に行っています。（女性/50 歳代）
●頻繁に足が向くものであってほしい。ロダン館スペースを活用したミニコンサート、オペラアリアなど多く開催されると嬉しい。ロダン館は常設で変化がないだけに、交流スペースとなるのが良いのでは。（男性/50 歳代）

●様々な文化に身近に触れられる場所です。（男性/20 歳代）
●自分との対話空間。小学校教員なので教材開発の場。心のエネルギーを得る場。（男性/40 歳代）
●知的な娯楽を提供してくれる所。（女性/20 歳代）
●良い作品、企画があれば、足を向けるようにしています。（女性/50 歳代）
●静岡で良い催し物があれば必ず行きます。（女性/60 歳代）
●時間があれば来てみたい所。（女性/50 歳代）
●手軽に見れて、良いものを企画してくれる。生活の楽しみ、アクセントになる。（女性/60 歳代）
●気持ちが晴れる。元気になる。（男性/50 歳代）
●一時の心の安らぎ。（男性/40 歳代）
●心に栄養を与えてくださる場所。（女性/40 歳代）
●企画展をチェックしておいて、天気の悪い日に都合が良ければ行く。（女性/50 歳代）
●ちょっと特別な時間を過ごせる場所。（女性/40 歳代）
●休日の楽しみ。（男性/40 歳代）
●静かな空間で頭の中をクリアにできるので、時々来て癒されたい。（女性/30 歳代）
●作品自体の細かい内容まではわからないが、それらから受ける印象を大切にしたいといつも感じます。（男性/30 歳代）
●少し遠い。楽しい。（男性/13～19 歳）
●普段の生活の中のスケジュールに必ず入っています。（女性/50 歳代）
●毎回、原画展を楽しみにしています。（男性/60 歳代）
●芸術には特に興味がある訳ではないので、題材によりけりです。（女性/50 歳代）
●時々気軽に日常的に楽しめる場所。（男性/50 歳代）
●本物が近くにあり見ることができる機会は参加したい。（女性/70 歳以上）
●月曜が休みの仕事なので、なかなか来れなくて残念です。（女性/60 歳代）
●重要な施設。国内外に出かけた時は時間の許す限り立ち寄るよう心がけている。（男性/70 歳以上）
●知識・教養を深める場。（男性/20 歳代）
●知識の探求、知的時間の楽しみ。（女性/70 歳以上）
●身近な存在。毎日の生活で忘れかけたものを思い出させてくれる場所。（女性/30 歳代）
●心のゆとりを得る。（女性/50 歳代）
●レポートを書ける所。作品のきっかけになる所。（男性/13～19 歳）
●自分の感性を広げる存在。（男性/20 歳代）
●良い意味で刺激をもらえる場所。また、心を落ち着かせてゆっくりと思考を深める事のできる場所。（女性/20 歳代）
●知らないことを知ることができる。（男性/60 歳代）
●旅行先での心の安らぎを得る。（男性/60 歳代）
●心洗われる所。時々無性に来たくなる。（女性/40 歳代）
●気分をかえたりする時に気軽に訪れることができる喫茶店のような所。（男性/40 歳代）
●彫刻を趣味にしているから大いに興味がある。（男性/70 歳以上）
●心身が落ち着いて、リフレッシュできる所です。（女性/30 歳代）
●生活を豊かにして心なごむ場所。見聞を広めることができる。（男性/70 歳以上）
●美術鑑賞をしていると時間を忘れられる。リフレッシュできる存在。（男性/30 歳代）

●心の平安。（女性/50 歳代）
●若い頃はよく通っていましたが、忙しくて今はなかなか行けなくなってしまいました。一度行くとパンフレットなどがあり続けて通うが、一度行かなくなると再開に時間かかる。（女性/30 歳代）
●暇つぶし。（男性/70 歳以上）
●時間があった時の楽しみ。（女性/70 歳以上）
●通常の生活からほっと一息入れるようなもの。（男性/60 歳代）
●気分転換。周囲の環境も好き。（女性/60 歳代）
●自分を高める。心の洗濯。（女性/40 歳代）
●その時代を思いながら美術品を見る。（女性/40 歳代）
●自分の好きな絵画に出会える場。（男性/70 歳以上）
●時々来たい場所。美術、特に絵画を見て心豊かになります。（女性/70 歳以上）
●常に頭の中に入っていて、訪ねてみたいと思う。（女性/70 歳以上）
●絵を描く立場から、非常に勉強になります。（男性/70 歳以上）
●憩いのひととき。（男性/50 歳代）
●主人と出かけるコース。（女性/40 歳代）
●心が穏やかになる場所。富士山に感謝したい気持ちになりました。（女性/60 歳代）
●趣味として美術観賞の一環。（男性/70 歳以上）
●日常生活の中で一服する所。（女性/60 歳代）
●美や歴史の感性が満足できるので、日常生活からの気分転換。（男性/60 歳代）
●休日の娯楽。（女性/60 歳代）
●のんびりできる。元気が出る。（女性/40 歳代）
●良い作品を見て、気分を変える場所。同じ市内でも遠いので、ちょっと遠出した気持ちになる。（女性/30 歳代）
●心の栄養源になること。美に対して強く感じられる心を培うため。（女性/70 歳以上）
●日常から離れた心地よい場所。（女性/60 歳代）
●平凡な日常に時々夢を与えてくれます。（女性/60 歳代）
●心の潤い。未知への興味。（男性/70 歳以上）
●過去との出会い。心のオアシス。（女性/60 歳代）
●生活の源。ストレス解消。（男性/60 歳代）
●2009 年にルーヴル美術館に行き、興味がわき、それ以降 BS テレビ等で絵画を放送していると見るようになり、今回も世界遺産になった富士山、三保の松原の絵画が見たくなり、とてもよい目の保養になりました。（女性/50 歳代）
●趣味。日常味わえない様々なことを味わえる場所。（女性/50 歳代）
●静かで落ち着ける場所。（男性/30 歳代）
●たまに、また来たい所。（男性/20 歳代）
●自分だけのビューポイントを模索する旅。（女性/20 歳代）
●リフレッシュする場。適度な緊張感を楽しむ。（女性/20 歳代）
●知識が豊かになるので満足している。（男性/60 歳代）
●向上心、興味の刺激。（女性/60 歳代）
●あちこちの美術館に出かけていますので、生活の一部といった感じ。（男性/50 歳代）

●近くにあって、心を豊かに時折刺激をもらう所。（女性/60 歳代）
●リセット。（男性/40 歳代）
●マンネリの生活に気分転換。来館した日は 1 日中さわやかです。（女性/70 歳以上）
●良いイベントが開催された時に見に行く。（女性/50 歳代）
●たまには文化を感じたい。（男性/60 歳代）
●心のリフレッシュ。（男性/50 歳代）
●感性を磨く所。（男性/20 歳代）
●ゆとりある生活をしたいと思うのですが、機会を作ってなるべく足をのばしたいと思っています。（女性/60 歳代）
●日々の雑事から離れて、美しいものに出会い、心を休ませる場所です。（男性/30 歳代）
●日常的な楽しみ、趣味を満喫できる場所。（男性/50 歳代）
●息抜きと充電。（女性/50 歳代）
●普段なかなか行けない所。（女性/20 歳代）
●急に思い出したように来たくなる場所。（女性/60 歳代）
●年に数回訪れる気分転換の場。空間全体が良い。（男性/50 歳代）
●美しいもの、美しい美術品を見て、心豊かな安らいだ気持ちを取り戻し、パワースポットのような存在。（女性/50 歳代）
●異空間でリフレッシュできる存在。（女性/20 歳代）
●たまには訪れて、有名・無名を問わず、いろいろな作品に触れることで少し日常の生活から離れて、様々な物、国などに思いをめぐらせることができるので、年に数回は行きたいと思っていますが、現実はなかなかそうもいかず残念です。（女性/40 歳代）
●母と過ごすひととき。（女性/40 歳代）
●少し近寄りがたいイメージです。（女性/13～19 歳）
●日常生活から離れてゆっくりする所。（男性/40 歳代）
●興味の対象。（女性/13～19 歳）
●気持ち良く過ごすことができる場所。（男性/50 歳代）
●いろいろな美術館に行っている。（男性/40 歳代）
●生活の潤い。（女性/40 歳代）
●家の次に落ち着く場所。（女性/20 歳代）
●見ることに集中する場所。（女性/20 歳代）
●すばらしかったです。空間がゆっくり安心できました。美術館デザインが良かったです。（女性/60 歳代）
●旅先ではほとんど美術館に行くようにしている。（男性/60 歳代）
●リラックスしたい時に訪れたくなる存在。（女性/40 歳代）
●自分の美的センスを磨く所。（女性/13～19 歳）
●自分のセンスを高めてくれる所。（女性/13～19 歳）
●たまに来る場所。リラックスして、いろいろなことを感じる心をよみがえらせる場所。（女性/40 歳代）
●私自身美術が好きで、絵を描いているので、自分の好きな絵をじっくり鑑賞したり、絵の勉強ができる所。（女性/13～19 歳）

●いろいろな人の考えやセンス、技術などを見ることのできる場所。世界の芸術作品を生で間近で見れる。（女性/13～19 歳）
●自分の制作に刺激を与えてくれたり、勉強になる場。（女性/13～19 歳）
●好きな作家、画家の作品を見に行く所。自分にとって落ち着く所。（女性/13～19 歳）
●くつろぐ場所。（女性/40 歳代）
●目に見えない部分を 50 代になって感じるようになりました。絵はその部分を考え、教えられます。（男性/50 歳代）
●自分を見つめる場所。（男性/60 歳代）
●生活に必要な文化施設。（男性/70 歳以上）
●作品に触れて楽しむ所です。教科書や画集で見ていた作品を直接見ることができるのは、新たな発見もあり自分の生活にも刺激を与えてくれます。（女性/30 歳代）
●自分の世界を拡げてくれるかな。老後にはまっています。（男性/60 歳代）
●時々足を運んで日常とは異なる空間に身を置くのが好きです。日常生活を送る上に必要な活力剤です。（女性/50 歳代）
●興味のある作家や話題の展覧会に行ってみるようにしている。話題の共有の場。（女性/60 歳代）
●時間をつくって出かけたい所。（女性/60 歳代）
●心に余裕を与えてくれる物。（女性/40 歳代）
●なかなか見れない物が来た時に見る。（女性/40 歳代）
●美にふれて明日への希望を得る場所。（女性/60 歳代）
●頭と気持ちの整理をつけるために必須です。（男性/40 歳代）
●実生活を離れて、自分の心や創作意欲を開放する時間となります。作者の人と歴史または展示の意図などを知り、社会や人間の生命の移り方や自分の身を離れて高い位置から見つめることができます。デッサンや水彩画に取り組んでいるので、良いヒントも具体的に得ることもできます。“人が表現するもの”とは美術だけでなく、自己肯定感、自分の存在を励ましてくれるものであり、私にとって本当に大切なもの、時間です。（女性/50 歳代）
●色を楽しむ場所。頭の体操。（女性/50 歳代）
●日常生活で汚れたり疲れた心を洗い流してくれる。（女性/50 歳代）
●教育の青少年の健全のため。（男性/60 歳代）
●本物に触れ、感性を磨く。（男性/50 歳代）
●休息と楽しみ。好奇心。（女性/20 歳代）
●見聞、趣味を広げられる場。心に落ち着き、深みを与えてくれる存在。（男性/50 歳代）
●デート。（女性/30 歳代）
●家が近いため、時間がある時など気軽に訪れることができ、一人で見ている時間や自分の想像をふくらませる時がとても好きです。（女性/13～19 歳）
●気軽に来ることができて、心を落ち着かせられる。（女性/13～19 歳）
●年に 1～2 回訪れたくなる場所。（男性/50 歳代）
●美術館はとても奥深く感じる作品がたくさんある所。（男性/13～19 歳）
●自分とはかけ離れた存在でもあり、行ってみたいと思う存在。（男性/13～19 歳）
●自分とはあまり関わりがなく、今までにない感じのする所。（男性/13～19 歳）
●今まで一度も来たことがなかったけれど、興味を持ちました。（男性/13～19 歳）

●脳が休まる、心は解放される。（女性/30 歳代）
●気に入った画家さんの展示があれば足を運んでいます。（女性/50 歳代）
●心と頭がクリアになる場所。インスピレーションが生まれる場所。（女性/30 歳代）
●日常を忘れさせてくれる存在。（男性/20 歳代）
●別世界。連れていかれたら行く程度。（女性/40 歳代）
●日常生活に潤いを与えてくれる場所。（女性/60 歳代）
●ほっとできる場所。今、夫の介護をしていて気晴しのできる場所となっている。周りの風景も素敵です。今日は紅葉もきれいでした。（女性/60 歳代）
●気分転換したい時やのんびりした時間を過ごしたい時に最適。　（女性/60 歳代）
●公園。散歩。（女性/20 歳代）
●おもしろい作品がたくさんある。（女性/13～19 歳）
●インスピレーションを得るため。調べている事柄の実物を見るため。（男性/40 歳代）
●とても楽しく、いろいろな技法を学べる所。これからもたくさん来たいと思う。（女性/13～19 歳）
●絵を描く上で技法や考え方を学び参考にしてます。（男性/30 歳代）
●心のオアシス。エネルギーのもと。（女性/60 歳代）
●特に県立美術館は、坂道を上がってくる所からワクワクさせられ気持ちが良いので好きです。（女性/60 歳代）
●時間ができた時に妻と二人で心を再生する場。（男性/60 歳代）
●日常を忘れて、心穏やかにのんびりできる場所。（女性/40 歳代）
●水と大気。（男性/50 歳代）
●気持ちのゆとり、安らぎ。（女性/40 歳代）
●生活の一部。近くでいつもすばらしいものが見られるので大好きです。２ヶ月に一度は来て癒されています。（女性/20 歳代）
●日常からの開放のような感じです。定期的に行きます。（女性/20 歳代）
●リラックスする場所。（女性/30 歳代）
●「静」の時間なのでとても大切。（女性/50 歳代）
●休日にはできるだけアートに触れたいと思っています。（男性/50 歳代）
●休日のひとやすみをする場所。（女性/20 歳代）
●特別な時間。（女性/30 歳代）
●ヒーリング。（男性/40 歳代）
●たまに来ると楽しい所。（女性/20 歳代）
●心の休日。（男性/50 歳代）
●生涯学習。（女性/20 歳代）
●ひらめきをほしい時に来る場所。（男性/60 歳代）
●日常から離れ、美に接する機会。（男性/50 歳代）
●経験する場所です。（女性/20 歳代）
●県立美術館開館当時より友の会会員となり、展覧会のほとんどを見ています。美術の知識は乏しくよくわかりませんが、美術館に来ると気分が安らぎます。私の癒しの場所です。（男性/70 歳以上）
●新たな興味のわく場所。普段使っていない脳の部分を活性化させる所。（女性/20 歳代）
●普段の生活からは離れているため、興味があっても足を運ぶ機会がなかなかない。（男性/20 歳代）

●良くも悪くもハレの場。それがそのまま存在意義となっているように思います。（男性/50 歳代）
●インスピレーションがうまれる場所。（女性/20 歳代）
●美術作品を鑑賞して、癒しをもらったり、のんびり見てストレスを解消できるような場所。いろいろと勉強になり、たくさんの美術の知識を得られる場所。（女性/20 歳代）
●文化的な場所。（女性/13～19 歳）
●自分の心の中にある言葉では表現できないものを具現化したものが“美術”であり、それを探すもの。（女性/13～19 歳）
●時々、静かに自分自身や世界と向きあう場。（女性/30 歳代）
●日常で忘れている“感性”を思い出せる場所。リラックスして過ごせる場所。（女性/20 歳代）
●芸術に触れることができる場所。自分とは異なるイメージ、発想を感じられる機会。（女性/20 歳代）
●感性を豊かにしてくれる。一人で来て落ち着ける場所。（女性/20 歳代）
●知的に自由になれる。（女性/70 歳以上）
●興味のある企画展が開催されている時は、時間の許す限り通いたい場所。忙しい毎日の中で心を落ち着かせたい時に来る場所。（女性/40 歳代）
●自分は写真を撮影するので、ジャンルが片寄らないように注意している。（男性/50 歳代）
●人生に必要不可欠な物。（女性/50 歳代）
●心にプラスになる、今後の生き方の糧となると信じて美術館に訪れています。（男性/60 歳代）
●心安らぐ場所。大切にしたい場所です。こちらの美術館はプロムナードも美しく、地元民の財産。（女性/50 歳代）
●新しい刺激。本物との触れ合い。（男性/40 歳代）
●未知への興味。（男性/70 歳以上）
●心をリラックスさせる。新たな刺激がある。自分と対話できる。（男性/30 歳代）
●どこでどんな展示会をしているのか気になっています。あちらこちらに行けないため、TV や新聞で行った気分にひたっています。（女性/40 歳代）
●生活の中でテレビを観たり作品の紹介があると実物に接したいと思い、時間がとれる時は出かけて行きます。（女性/70 歳以上）
●非日常感を楽しむ場所。（女性/20 歳代）
●私の最も好きなことは、日常の生活以外で大切な読書と本物の絵を見ること、これからも続けていきたい。（女性/70 歳以上）
●絵などを見るのは好きなのでよく来ます。書はあまり興味ないです。刃物やエジプト、ナスカも好きです。見たもの全てを覚えていないので位置付けはよくわかりません。（女性/30 歳代）
●ゆらゆらしたくなる時に来る所。他の人の世界を覗ける場所。ほっと一息つける場所。（男性/30 歳代）
●時間を忘れる、感じる、考えることのできる場所。（女性/40 歳代）
●発想の根源。（男性/60 歳代）
●世の中を捉える場所であり、自分を見直す場所。想像力を駆使する場所。（男性/20 歳代）
●静かに自分の時間を楽しめる場所。アイデアやイメージのきっかけをもらえる所。（女性/40 歳代）
●美術の仕事をしていますので関心があります。（女性/70 歳以上）
●身近な物であるようで遠い感覚があります。身近なアーティストもしくはアーティストを目指す者、子どもへのアプローチが大変弱いと思います。（男性/40 歳代）

●生活に潤いを与えてもらう。自分の作品作りの参考。（男性/60 歳代）
●気持ちの切替え。（男性/60 歳代）
●芸術の世界を味わうことができて、心が落ち着くようになる。（女性/20 歳代）
●芸術を感じられる所です。自分の生活と違うものを見られる所です。（女性/20 歳代）
●美を体験できる、とても重要な所です。（女性/20 歳代）
●若い頃美術史を勉強したいと思っていましたが、諸般の事情でできませんでした。これから実現させたいと思っているので、欠くことのできない存在です。（女性/60 歳代）
●めったに行けない遠い存在といった印象でしたが、今回の来場でイメージが少し近く感じました。また来たいと思いました。（男性/40 歳代）
●行ってみたいけれど敷居が高い。（女性/30 歳代）
●知的な空間。（女性/40 歳代）
●大切にし続けたい。（男性/30 歳代）
●休みの日に出かける先の一つ。（男性/30 歳代）
●自分にない物を見つけられる。（女性/30 歳代）
●静かに何かと向き合う場所。（男性/30 歳代）
●趣味の世界。（男性/60 歳代）
●日常から少し離れてリラックスできる場所。（女性/30 歳代）
●新しい出会い。（男性/30 歳代）
●日常とは違う時間を過ごせる心にゆとりのできる時間を与えてくれる場所。（女性/20 歳代）
●美術を見て感じる所。（男性/20 歳代）
●自分の感性を高める存在。（男性/13～19 歳）
●人間の作る世界が見られる所。（男性/13～19 歳）
●昔の人が作った作品が集まった所。（女性/13～19 歳）
●普段の生活では体験できないことがたくさんある所。新鮮で楽しい。（女性/13～19 歳）
●偉い人がいる所。（女性/13～19 歳）
●穏やかで静かな所。（女性/13～19 歳）
●ポスターで見た時に、自分が気になる作品や興味を持てる作品があれば行きたいと思う。また、静かで落ち着き、来て良かったと心から思うことのできる場所。（女性/13～19 歳）
●近いので心地良い場所。美術館のまわりも良い。（女性/60 歳代）
●毎日の生活の一部。（男性/70 歳以上）
●見た後、自分も描きたいなと思う。（男性/12 歳以下）
●癒しと同時に向上のため。（女性/50 歳代）
●内省する場所。（男性/20 歳代）
●特別な存在。よそゆきという感じ。（女性/40 歳代）
●仕事で忙しい中での時々与えられる癒しの時。（女性/60 歳代）
●何気なく行こうと思って行く所。時々思い立って来る所。（女性/50 歳代）
●気持ちが安らぎ何となく落ち着く時間です。（女性/60 歳代）
●あるプロジェクトの再現。（男性/30 歳代）
●崇高な場。（女性/40 歳代）
●静かにいろいろ向き合う場所。（男性/20 歳代）

●精神的な糧。（女性/50 歳代）
●気分を変える場所。（男性/13～19 歳）
●感性を広げられる重要な場所。（男性/30 歳代）
●習慣。（女性/30 歳代）
●くつろぎの場所。（男性/50 歳代）
●絵が飾ってあって、技法を学べる場所。（女性/13～19 歳）
●ゆっくりした時間を過ごせる所。（女性/30 歳代）
●人にとって身近な場所であってほしい場所。（女性/13～19 歳）
●心が和やかになる場所。（女性/40 歳代）
●自分の中に何か新しく目覚める物、見れていなかった物を見る場所。（男性/20 歳代）
●心の保養。目の保養。アートの流れを知る。（男性/30 歳代）
●心の潤いを補充するために来る場所。（女性/40 歳代）
●美術館に行くのは好きではあるが、県立美術館の企画は窮屈な印象がある。一般的すぎてつまらない。一般に媚びない展示も美術館の役目なのではないでしょうか。（女性/50 歳代）
●なくてはならない場所。（女性/30 歳代）
●時間のゆっくり流れる所。（男性/20 歳代）
●興味を持ったことについて深める所。（女性/20 歳代）
●絵を見る所。静かな所。（女性/20 歳代）
●芸術に親しみやすい場。（女性/13～19 歳）
●振り返る場所。考える場所。（男性/13～19 歳）
●視野を広めるきっかけ作りになる場所。美術を学んでいるため身近である。図版では感じられない本物との出会いがでいる場所。（女性/20 歳代）
●時々訪れて、視野を広げたり自分の制作への意欲を高める物。（女性/20 歳代）
●自分の人生の別の世界が見えて心が豊かになります。（男性/70 歳以上）
●気軽に立ち寄れ精神的にも落ち着きます。（女性/70 歳以上）
●時々ではありますが、生活を離れて目を養う所。心の保養地。（女性/50 歳代）
●新しい価値観を発見する場所。（男性/20 歳代）
●想像力を豊かにさせてくれる所。（男性/13～19 歳）
●空間と内容を想像しながら楽しめる刺激的な場所。（男性/20 歳代）
●ないと淋しい。（男性/20 歳代）
●頭の中の普段使わない部分を刺激してくれる楽しみな場所。（女性/40 歳代）
●日常においてなくてはならない存在。本物を観て心の栄養的存在。（女性/70 歳以上）
●人生のヒント。感性アップ。（男性/50 歳代）
●これからは気にして見たいと思います。（男性/60 歳代）
●なくてはならない、創造力の源。（男性/20 歳代）
●好きな場所の一つです。（女性/30 歳代）
●日常と離れた世界を楽しむ存在。絵を描く趣味があるので、その勉強として。（女性/20 歳代）
●パラダイス。（男性/40 歳代）
●図版や映像でしか見たことのない作品を見ることができる場所。今まで関心のなかった作家の作品に出会える所。（女性/20 歳代）

●県民ギャラリーを毎年定期的に借用することもあり、様々な企画展にも進んで参加している一人です。いつも良い雰囲気で満足しております。（男性/70 歳以上）
●美術鑑賞の目が広がる。（女性/70 歳以上）
●庭。（女性/60 歳代）
●最近のお気に入りの場所。（女性/30 歳代）
●精神的な癒し。（男性/60 歳代）
●日常から離れ気分転換になる大好きな空間。（男性/50 歳代）
●生活に潤いを与えてくれる所。（男性/60 歳代）
●日常の生活から離れ、気分が落ち着く、私には一番の場です。（女性/60 歳代）
●現在何が美術に求められているのかの指標になり、企画サイドの現況がわかる。（男性/60 歳代）
●いつも使いにくい脳の部分を刺激する所です。視野が広がります。（女性/30 歳代）
●文化に触れることができる場所だと思う。芸術家の作品に触れることが心の耕しになると思っている。（男性/30 歳代）
●ホームタウン。心の家。（男性/60 歳代）
●思考のきっかけ。作品はもちろん作者やその思想に触れることは貴重な体験。（男性/20 歳代）
●主にインスピレーション、きっかけをもらう所。固定概念をぶっ壊すヒントをもらう。息抜き。（男性/20 歳代）
●作者や作品からのメッセージ・意図を受け、心を豊かにする。（男性/40 歳代）
●不思議な物がたくさんあった。（女性/12 歳以下）
●貴重な展示や世界の美術を見る場所。（男性/40 歳代）
●絵画や彫刻作品を見る最適な場。（女性/30 歳代）
●自由をすごく楽しめる所。（男性/13～19 歳）
●好きなので身近なものになっている。（女性/70 歳以上）
●感動。反省。触発。（女性/70 歳以上）
●精神的安らぎの場。（男性/60 歳代）
●いろいろな時代や物、なかなか見ることのできない物を見られる所。（女性/13～19 歳）
●芸術を観て、お気に入りを見つけようとしたりするが、よくわからないことの方が多い。嫌いではない。（女性/40 歳代）
●普段見ることができない作品や絵を味わう場所。異空間。（女性/30 歳代）
●精神生活の重要な一部。（男性/40 歳代）
●仕事から解放されてリフレッシュする所。（女性/40 歳代）
●今まであまり縁がなかった物。もっと来たいと思うようになった物。（男性/30 歳代）
●新しい発見のある場所。落ち着く空間。（女性/20 歳代）
●自分を触発する。（女性/50 歳代）
●見て知識を得られる所、または見たことのない物を見られる所。どちらにしても時代や世界観にのめり込みに行く所です。（女性/30 歳代）
●あまり身近ではないが、ふと来てみたいと思う存在。（女性/20 歳代）
●子どもとの共通の話題。（男性/50 歳代）
●様々な絵画に触れて自分の美術に対する気持ちを高めることができる場所。（男性/13～19 歳）
●食事と同じで、美術や音楽は自分にとってなくてはならない物となっている。（男性/60 歳代）

●美術への関心が深まる。勉強になる。（女性/13～19 歳）
●感性を育む場。いろいろな価値観を吸収する場。（男性/30 歳代）
●新しい作品や画家と出会える所。（女性/13～19 歳）
●歴史を振り返られる場所。（女性/13～19 歳）
●いろいろな美術品等を鑑賞する所。（女性/13～19 歳）
●公私ともに知的好奇心を満たしてくれる場所。（女性/30 歳代）
●自分の美術の勉強になる場所だと思います。また、たくさんのいろいろな絵があるので、いろいろな気持ちになれる場所だと思います。（女性/13～19 歳）
●有名な人の作品が見られるすばらしい存在。（女性/13～19 歳）
●想像を楽しむ。（女性/13～19 歳）
●どこでもいいけれど気になる展示があればふらっと行く感じ。おもしろい発見があったりした。（女性/13～19 歳）
●時間さえあれば行きたい場所。（女性/13～19 歳）
●感性を豊かにしたり心を落ち着かせたりするために訪れる物。（女性/13～19 歳）
●目標。（女性/13～19 歳）
●落ち着いて鑑賞できる存在。（女性/13～19 歳）
●いろいろな空想や自分の知らないことを知ることができる場所。（女性/13～19 歳）
●部活で作品を作ったり描いたりする時に参考になる。自分にはない価値観を持った人の作品が見られる、わくわくする場所。（女性/13～19 歳）
●美術作品が私たちに大切なことを教えてくれる。人生にとってとても大切な物。（女性/12 歳以下）

（２）　展覧会または当美術館についてのご指摘やご意見

この展覧会または当美術館についてのご指摘やご意見等がありましたら、ご自由に記入ください。とたずねたところ、256 件の自由意見があり、分類・性質別に整理をし掲載する。（重複を割愛）

自由意見の分類・性質別件数

	1			2			3			4			5		
	今回の展覧会			企画全般			展示方法			施設・環境			運営・スタッフ		
	A 感想	B 要望	C 苦情	A 感想	B 要望	C 苦情	A 感想	B 要望	C 苦情	A 感想	B 要望	C 苦情	A 感想	B 要望	C 苦情
富士山の絵画	20	5	0	13	12	0	8	4	0	7	8	12	3	4	0
二見彰一展	24	3	2	7	8	0	1	5	1	11	4	6	1	1	2
グループ「幻触」と石子順造 1966-1971	21	1	3	6	13	0	0	10	1	6	5	7	4	6	1
全　体	65	9	5	26	33	0	9	19	2	24	17	25	8	11	3

単位：件

【今回の展覧会】　Ａ感想

●大変楽しく過ごせました。ありがとうございました。（女性/13～19 歳）

●今日は休日ですが、子ども連れの姿がなくて寂しい。名画を子ども時代から見られる良い機会だと思います。（男性/70 歳以上）

●また来たいのですが、静岡から引越しをしますので残念ながら最後です。（男性/60 歳代）

●富士山の企画もよかったです。（女性/50 歳代）

●テーマに興味があり、とても良かったです。（男性/30 歳代）

●こんなにも富士山を描いたものが多くあるとは思わなかった。山頂の様子や途中の石の茶屋など、行かなければわからないものもあり、とても興味深かった。（男性/30 歳代）

●絵の案内をしてくださった方が説明をしてくださり、とても分かりやすく楽しく拝見できました。ありがとうございます。（女性/50 歳代）

●ずっと観たかった作品に会えてよかった。（女性/30 歳代）

●大変感動しました。勉強になりました。また来たいと思います。（男性/70 歳以上）

●以前から拝見したいと思っていた作品を数多く観ることができ大変感謝いたします。（男性/60 歳代）

●今回、明治以降の作品が 1 点のみで残念でした。（男性/70 歳以上）

●とても良い展覧会でした。（男性/30 歳代）

●大観以外の日本画家で昭和の前後の日本画家の富士山があってもいいと思った。（女性/40 歳代）

●日本文化の再発見の機会にしています。（女性/60 歳代）

●とてもきれいでした。（男性/50 歳代）

●静かに見られて良かったです。（男性/50 歳代）

●初めて訪れましたが、すばらしい展示でした。（男性/30 歳代）
●富士山世界文化遺産との関連の説明がもう少しあっても良いかと思った。（男性/50 歳代）
●二見彰一さんは今まで存じませんでしたが、独特の色合い抽象的な図案など興味深く拝見しました。版画にも少し興味が出まして、将来的にですが、もし時間があったら挑戦してみたいと思いました。（女性/40 歳代）
●音楽がかかっているのがとても良かったです。今日は二見先生のお話も聞くことができて良かったです。（女性/40 歳代）
●今日は画伯自らの音声ガイドで予定通りかどうか不安でしたが、間に合って、運が良かった。世界が広がった。絵画の鑑賞が深まった気がした。（女性/50 歳代）
●会場でかかっていた音楽がとても雰囲気に合っていました。音を聴きながら見るのも良いなと思いました。（女性/30 歳代）
●チャンスがあったらまた来たい。（女性/60 歳代）
●技巧がすばらしい。（男性/50 歳代）
●今回の展覧会は予想以上に良かった。（女性/30 歳代）
●二見さんの良い作品がたくさんあり嬉しかった。版も展示されていて分かりやすかった。作品が多過ぎてちょっと疲れたかな。ありがとうございました。（女性/60 歳代）
●がんばって下さい。（女性/13～19 歳）
●言うことなしです。結構な雰囲気です。（男性/70 歳以上）
●ギャラリートークに参加したのですが、人それぞれちがう見方があり関心が深まりました。（女性/20 歳代）
●二見彰一さんという方について、今まで名前を聞いたことがありませんでしたが、銅版画という 1 つのジャンルについてこれほどまでに自分の世界をもって作品を制作しているという熱意が伝わり、来てみてとても良かったです。（女性/20 歳代）
●音楽が作品と良く合っていたと思います。またこういった演出があると嬉しいです。（女性/20 歳代）
●とても良い展覧会だった。来館前に思っていたより満足した。（女性/60 歳代）
●二見彰一先生については知識ありませんでした。とても素敵でした。ありがとうございます。（女性/50 歳代）
●作者の事は何も知らない状態でしたので、初めて仕事のむずかしさが判りました。すばらしい色使いでした。（女性/70 歳以上）
●二見彰一さんはあまり知られていない方ですが、全体的に捉えられていてとても良い展示でした。（女性/70 歳以上）
●幻触とロダンともに強烈なために具合が悪くなってしまった。（男性/20 歳代）
●近現代のテーマに取り組んでいて、また来たいと思った。（男性/30 歳代）
●幻触おもしろかったです。（男性/13～19 歳）
●ゆっくり観られて良かったです。（男性/20 歳代）
●偶然来て、懐かしい浅川マキの音楽が聴けた。（女性/60 歳代）
●幻触展、まだ中間報告の生煮え感の強い展示と思いました。まだまだ次の展開がありそうで期待しています。（男性/40 歳代）
●刺激された。良かった。（男性/20 歳代）
●グループの時代を追いながら作品を見ることができ、表現が変わっていく様子を楽しみながら鑑賞

することができた。見たことのない作者の作品ばかりで、また新鮮な表現方法にとても刺激をもらうことができた。ありがとうございました。（女性/20 歳代）
●今回の展示とてもおもしろかったです。（女性/20 歳代）
●今日がたまたま空いていたからか、マイペースで見られてすごく良かったです。（女性/50 歳代）
●グループ「幻触」の展示は友人とまた見に来たいと思う内容でした。（女性/20 歳代）
●トリックアートと間違えて来てしまいました。小学生にはあまり理解できない。（女性/60 歳代）
●時々来ると満たされます。ありがとうございます。（女性/30 歳代）
●寺山、横尾、瀧口、赤瀬川を知っていただけに、石子の存在に気付くのが自分としては遅すぎた。すごく感化されました。興味がまた一つ拡がったように思います。自宅からは遠いのですが来られて良かったです。（男性/20 歳代）
●とても楽しく見ることができました。美術であんなことしていいんだと思ったり、なんでもやった者勝ちだなと思ったりしました。とても驚きましたが、楽な感じでゆったり見られました。ありがとうございました。（女性/13～19 歳）

【企画全般】　Ａ感想

●ロダンのすばらしい作品がたくさんあるのには驚きました。（女性/50 歳代）
●館長のセミナーなど開催され、大変良いですね。（男性/50 歳代）
●ロダン体操がおもしろかったです。シュールでした。（男性/20 歳代）
●いつも楽しく鑑賞しています。学校との連携をこれからもよろしくお願いします。（男性/40 歳代）
●挿絵展がおもしろかったです。（女性/20 歳代）
●ロダン美術館のためにパリに行ったほどのロダン好きなのに知りませんでした。もっと東京などに富士山世界登録きっかけとして、あわせて見てもらいたい。（女性/40 歳代）
●東京の展示の巡回。NHK 日曜美術館に取り上げられる作品展を実際に見たい。（女性/70 歳以上）
●展示品が多く満足しています。（男性/70 歳以上）
●ロダン体操がすごくおもしろくて良かった。ロダンの部屋で文章があったり広く開放的で見やすかった。（女性/30 歳代）
●また、美しいすばらしい物を見せてください。（女性/50 歳代）
●毎回、すてきな企画をされていると思います。（男性/50 歳代）
●ロダン館が予想以上に良かったです。他県の者ですが、PR を知らなかっただけでしょうか。（女性/40 歳代）
●内容がよいので、もう少し広告をすればよいのでは。（男性/40 歳代）
●気になる展示が特集されている。（男性/60 歳代）
●美術に興味がないと楽しめないと思う。（女性/40 歳代）
●配置、企画などとても満足しています。毎日楽しみにしています。（女性/60 歳代）
●企画展、収蔵品展ともいつも気に入っている。（女性/60 歳代）
●挑戦的な展覧会をまたやって下さい。楽しみにしています。（男性/40 歳代）
●展示物によって人気の高い時とそうでない時がありますが、地味でも良い物を見せていただけて感謝しております。（女性/50 歳代）
●ロダン館がほっとしました。（女性/30 歳代）

【展示方法】　Ａ感想

●ガイドの説明があって良かった。（女性/70 歳以上）

●スペースが広いので展示の仕方がいつも良い。（女性/70 歳以上）

●室温も配置も良く、すみずみまで良い環境だなと感じる部分が多かったです。（女性/20 歳代）

●とても楽しく拝見させて頂けました。作品に添えられているコメントが楽しめ、よく解説されていました。（女性/50 歳代）

●学芸員さんの作品へのコメントがとっても興味深い。どなたが書いているのか記名にしてもらったらファンになります。（女性/50 歳代）

●昨年、ボストン美術館展で曾我蕭白の絵にドギモをぬかれ、蕭白の絵を比べてみたい気持ちもあって来館。その意味では蕭白コーナーのような形で蕭白の作品を続けてみられたら、また別の角度から見ることができて良かったかもしれない。（男性/50 歳代）

●コメントが読みやすい。物語テイストだと興味のない人でも興味をひかれることがあるかもしれない。（男性/40 歳代）

●それぞれの作品に付されている解説の文章（タイトル、本文）がとても良いと思いました。（女性/30 歳代）

●パリのロダン美術館より展示の仕方は良いと思いました。もっともっと幼稚園から大学生まで学校単位で来るようにしたら良いと思います。ヨーロッパの来訪に比べると少なすぎます。（女性/50 歳代）

【施設・環境】　Ａ感想

●首都圏の美術館に比べ、広々としていて見やすかった。また清潔感があった。（女性/40 歳代）

●建築はどなたの設計か知りたいです。すばらしい。静かできれい。（男性/70 歳以上）

●インターネットで「県立美術館」で検索すると、数多くある「県立美術館」の中で静岡県立美術館が常に最上位に来ます。ちょっと嬉しくなります。（男性/30 歳代）

●現状で満足。（男性/60 歳代）

●時折、私語の多い方もいて少し気にかかった。（女性/60 歳代）

●いつも心地よく鑑賞させていただいています。（男性/50 歳代）

●建物もきれいでゆっくりできました。（男性/40 歳代）

●2 階へ上がる階段が大好きです。（女性/50 歳代）

●立派な美術館でよかったです。ロダン館でデッサン会が開催されるのはすばらしいことだと思います。（女性/50 歳代）

●初めて訪れましたが、自然の中で気持ちの良い所です。（女性/60 歳代）

●自然の中ゆったりとした美術館で、中で写している方もいたりとても良い雰囲気でした。（女性/60 歳代）

●イタリアでロダンの考える人に時間の問題で直接出会えなかったのでとても嬉しかったです。（女性/30 歳代）

●美しい環境と落ち着いて見られる館内でいつも楽しく見ています。（男性/60 歳代）

●特に県立美術館は、坂道を上がってくるところからワクワクさせられ気持ちが良いので好きです。（女性/60 歳代）

●まだ 2 回目ですので、これから頻回に来られるように願っています。5 回程来たら意見がでると思います。(男性/60 歳代)
●築 27 年の建物にしてはすばらしい。(男性/70 歳以上)
●空調音なのか BGM なのかわからないのですが、低い音がしていて、それが二見さんの作品と合っていて観てまわるのが楽しかったです。(女性/20 歳代)
●このおちついた空間をこれからも続けていってほしいと思います。(女性/13～19 歳)
●どの椅子も座り心地がとても良い。特にロダンの横が良い。(男性/60 歳代)
●美術館自体が清潔感があって好き。(女性/70 歳以上)
●もう少し家が近かったらコンサートなども来たいです。(女性/50 歳代)

【運営・スタッフ】　Ａ感想

●裾野にいるのですが、市にも呼び掛け、多くの方に来るようにしてほしいと今回に限らず思っています。(女性/70 歳以上)
●係の女性がとても感じが良かった。(女性/40 歳代)
●質問に快く答えて下さったので、気持ち良く過ごせました。(女性/60 歳代)
●CM してみては。(女性/20 歳代)
●ボランティアの説明があると一段と興味がわきました。(男性/50 歳代)
●学生無料には驚かされました。ありがとうございました。(男性/20 歳代)

【今回の展覧会】　Ｂ要望

●自分が三保の近くに住むようになって松原を何度も見てから、三保松原図を見るととても不思議な気持ちになりました。親近感がよりわいてきたようです。とても良い展示でした。ありがとうございました。できれば和田英作などの洋画の富士もまとめて見たかったです。(女性/20 歳代)
●赤富士の絵が少しほしかった。(男性/70 歳以上)
●現代的絵画の富士山を観たかった。(女性/70 歳以上)
●多数の富士山の絵画に満足。欲を言えば和田英作の三保の富士の展示がほしい。(男性/70 歳以上)
●歳を経てからの版画以外の作品は少し残念な感じがしました。版画だけでの構成の方が良かった感じがします。(男性/30 歳代)
●版画について全くといっていいほど知識がなかったので、どのような工程で作品が作られていくのか知りたくて仕方ありませんでした。「アクアチントって何？」という疑問から始まり、ずっと消化不良のままで出口までついてしまいました。(女性/40 歳代)
●作家のストーリーが気になります。どんな生い立ちだからこのような作品が生まれたというのがはっきり見えたらいいなあと思いました。(男性/30 歳代)
●今回の展示はかなり異例な特色ある物だったので短時間のビデオ紹介などがあったら嬉しかった。(男性/60 歳代)

【企画全般】　Ｂ要望

●エジプト展などお願いしたい。(男性/60 歳代)

●これからも高水準の展示を続けていって下さい。（男性/40 歳代）
●都会に負けない企画を。（男性/50 歳代）
●いろいろな作品が楽しみです。和田英作展をやってほしいです。（女性/60 歳代）
●若い芸術家、アジアの芸術家の作品展をやってほしい。（男性/50 歳代）
●富士山の世界遺産登録にともない、富士山展をもっとしてほしい。個人的には北斎や広重の浮世絵の富士の特集を組んでもらいたい。（男性/30 歳代）
●江戸絵画やそれ以前の絵画も扱った展覧会をこれからもやってほしい。（男性/20 歳代）
●これからも現代を含め富士山の絵を充実してほしい。（男性/70 歳以上）
●地元静岡の歴史や地域をテーマ、モチーフにした展覧会も時々してほしい。（男性/60 歳代）
●静岡県らしい美術館でいてほしい。県の特徴的なものがあると良いと思います。（女性/50 歳代）
●静岡市美術館のようにもっとなじみ深い品も展示してほしいと思っています。（女性/60 歳代）
●林武展をやってほしい。富士山展の中に林武の作品を入れてほしい。（男性/60 歳代）
●風景画の企画を多くほしい。（男性/70 歳以上）
●西洋絵画の展示を多くしてほしい。（男性/60 歳代）
●近代日本画展を開催してほしい。（男性/60 歳代）
●現代アート展を多くしてほしい。（女性/13～19 歳）
●古代ギリシャなどエジプトの物を見てみたいです。（女性/40 歳代）
●明治→昭和の芸術の変革期がみたい。日本が誇るカルチャー的な展示など。（女性/13～19 歳）
●立体物の展示があると楽しいので、たまにお願いします。（女性/20 歳代）
●著名な芸術家展ももちろん大切ですが、静岡のアート活動や芸術、デザインの価値を広げる企画があると良いです。（男性/40 歳代）
●器、写真などの展示を希望する。（男性/20 歳代）
●できるなら美しい花・華・海・波・山・空などのテーマで、普通にきれいと思える展覧会をしてくれると嬉しい。（女性/50 歳代）
●地元の作家さんの作品も展示してほしい。（女性/60 歳代）
●今後も様々なアートを紹介してほしい。（男性/50 歳代）
●日本刀や鎧などの展示があったらぜひ見たい。（男性/30 歳代）
●立体や数字などの数学的な絵を見たい。（男性/13～19 歳）
●視野を広く多角的な展示企画を期待しています。（男性/60 歳代）
●写真展などもぜひ実施してほしい。（男性/30 歳代）
●毎回企画展を楽しみにしています。ワークショップももっとやってほしいです。（女性/13～19 歳）

【展示方法】　Ｂ要望

●解説をしてくださる人がいるともっと楽しい。（女性/50 歳代）
●イヤホンで案内や説明があれば、展示品の理解が深まるのでは。特に年配者は説明文を読むのが苦労するので、有償でイヤホン貸出を。（男性/70 歳以上）
●音声ガイドがないのが残念。無知なので説明があると嬉しい。説明書きには難しい言葉があり分からないことも多い。もっと簡単に楽しめたら子どもと一緒に来たいが、子どもが来たがらないのが残念。小学生にも楽しめる美術館であると嬉しい。（女性/40 歳代）
●版画の作り方、工程などがよく分かるようにしてほしい。（女性/30 歳代）

●全体的な雰囲気や展示方法は良いと思いましたが、音楽（BGM）のかかっていない状態でも作品を見てみたいと思いました。作者の方の意図なのかもしれませんが、音楽が作品の見方を限定してしまうような気も少ししました。（女性/30 歳代）
●解説をわかりやすくしてもらいたい。本人の顔写真はどこかに展示してあったのでしょうか、気がつきませんでした。（女性/20 歳代）
●何度かロダン館に足を運んでいますが、地獄の門の製作過程を見たのは初めてでした。もっと目立つ場所で紹介したらいいと思います。（女性/40 歳代）
●今回は空間が多かったけど、うまく使えてるかと言われたらちょっと難しいかも。絵がおしゃれだから、具体的には分かりませんが、第 2 展示室はもうちょっとおしゃれだったらよかった。（女性/30 歳代）
●作品の製作過程が分かると別の意味でおもしろい。（男性/60 歳代）
●ほとんど知識がないので、もう少し解説文を添えてほしいと思いました。（男性/40 歳代）
●眼が悪いせいか題目など近くに寄らないと分からない。（男性/60 歳代）
●写真を撮れたり、もっと自由に観られるようにしてほしい。（男性/20 歳代）
●作品ごとにノートや何かを置いて、絵を鑑賞する人が意見や感想を間接的に共有できるようになるとおもしろいのではないか。（男性/13～19 歳）
●作品の解説のキャプションがあることで作品への理解が深まります。対話型鑑賞のイベントに参加してみたいと思いました。（女性/20 歳代）
●手で触れられる物もあるといいなと思う。（女性/30 歳代）
●テーマやコンセプトを追求した空間作りを徹底してほしい。（男性/30 歳代）

【施設・環境】　Ｂ要望

●コインロッカーの 100 円が返却されることを明示してほしい。（男性/50 歳代）
●老眼のため、説明書きや本など、字をもう少し大きくしてほしい。じっくり見て回ると時間がたつのが早いですね。（女性/50 歳代）
●入口で携帯の電源を切ることの、わかりやすい啓蒙があると良い。（女性/50 歳代）
●美術館屋根の緑青がうまくでるようにしてほしい。（男性/70 歳以上）
●グッズのクオリティーを上げてほしい。カフェ、レストランをもっとかっこよくしてほしい。（男性/50 歳代）
●作品保管のためでも、冷房がもう少し暖かい方が良いかも。（女性/20 歳代）
●1～5 まで駐車場があるとホームページにあるのに、上の 2 つに置けないのはどういうことなのか。利用者をだましているように思える。全ての人が健脚であの坂を登ってくることができないわけではないのだから、職員が下の駐車場に置くようにするべきではないだろうか。ご一考いただきたい。（女性/30 歳代）
●もう少し照明を明るくしてほしいです。（女性/40 歳代）
●顔がほてるので、もう少し涼しくしておいて頂けるとありがたいです。（女性/30 歳代）
●初めて来ましたが、とても充実した施設だと思いました。ひとつ、駐車場が一番遠くの第 1 に停めたため、入口までかなり歩きました。第 3 が近いことを明記して頂けるとありがたいです。（男性/40 歳代）
●開館時刻をもう少し早くしてほしい。9:00 や 9:30 頃。（男性/30 歳代）

●静岡駅および日本平動物園とバスで直結すべきです。現在では県東部から来るのが大変です。(男性/50 歳代)
●県立大学や草薙駅前にロダンの彫刻を置いてほしい。(男性/20 歳代)
●駐車場を増やしてほしい。(男性/40 歳代)
●美術館のイメージがなんとなく暗い。プロムナードも花を植えるなど、もう少し明るい感じにしたら良いと思います。(女性/30 歳代)

【運営・スタッフ】　Ｂ要望

●地元の人以外にももっともっと大いに PR して、観光客にも多く来館するよう更に心がけてください。(女性/70 歳以上)
●情報を多くして下さい。(男性/70 歳以上)
●以前のように 70 才以上の高齢者が無料で入れたらいいなあと思います。(女性/40 歳代)
●県外から来ると、静岡市の地図もあってほしい。(女性/70 歳以上)
●TV の CM で広告してほしいです。(女性/30 歳代)
●ポイントカードをいつも忘れ、いつも 1 個目のカードがたくさんある。例は思いつかないが、他でサービスを受けられるものがあれば良いと思う。(女性/40 歳代)
●入場料がもっと安いといいですね。プラド美術館の方が安いし、午後 5 時以降は毎日無料でした。(女性/40 歳代)
●いつもお世話になります。県民ギャラリーで公募などの場合、我々一般からも賞を出したいものがあります。投票させて下さい。(男性/70 歳以上)
●ウェブサイトがもう少し見やすいととても嬉しいです。(女性/30 歳代)
●ロダン体操は若い人々にウケると思うのでネット展開してほしい。(男性/13～19 歳)
●インターネットをやらないし地方紙もとっていないので、地方紙のみでなく全国紙新聞にもたくさん情報を出してほしい。(女性/60 歳代)

【今回の展覧会】　Ｃ苦情

●パンフレットにのっている人の作品も見られると思ったのですが、ちがったので残念でした。思ったより見るものが少なかった感じでした。(女性/40 歳代)
●作品の前面ガラスにまわりがうつりこみ見にくかった。きれいな色なので残念。(女性/60 歳代)
●この展覧会のポスターのデザインはちょっとわかりにくいのではないか。(男性/50 歳代)
●「幻触」がどのような作品なのかチラシでは分かりにくかった。(女性/13～19 歳)
●ポスターがこの幻触のすごさを伝えるには弱いと思います。(女性/30 歳代)

【展示方法】　Ｃ苦情

●ロダン館の作品が見づらい。(女性/20 歳代)
●解説の字が小さいので見えない。(男性/70 歳以上)

【施設・環境】　Ｃ苦情

●少し暗い。明るい場所が少ない。休みたい。(男性/70 歳以上)
●少し冷房がききすぎている感じ。(女性/70 歳以上)
●ミュージアムが館に不適切なほどスペースや品揃えが少ない。前庭の池の水がこのところ以前には

なかった程汚れすぎ気になっている。（男性/70 歳以上）
●マナーが悪い人がいた。携帯を使用していた。（男性/70 歳以上）
●駐車場から坂を登るのが大変です。（男性/70 歳以上）
●ただそこに建物があるだけでワクワクしない。階段が多すぎて中に入る前に疲れて美術品を見てもどうでもよくなくなる。（女性/40 歳代）
●客が少しうるさかった。（女性/13～19 歳）
●冬、外が寒いので厚着してくると館内が暖かすぎて上着を脱いでも汗が出る。（女性/50 歳代）
●今回は照度が非常に暗い。意味があるのか。理解できない。作品の良さが暗いため確認できなかった。残念である。（男性/50 歳代）
●私の目が見えにくいのか、暗くて見づらかった。絵に素人の私にはよくわからないが、ぼやっと見えるのが良いのでしょうか。（男性/70 歳以上）
●空調の音が気になる。（男性/60 歳代）
●駐車場からの距離がやや長い。（男性/30 歳代）
●駐車場が少ない。（女性/60 歳代）
●ロッカーの存在を教えてほしかった。（女性/70 歳以上）

【運営・スタッフ】　Ｃ苦情

●ギャラリートークの案内だったので待っていたが、集合の時点でツアーになったので予定が立たなくなった。（男性/50 歳代）
●ツアーガイドさんには申し訳ありませんが、期待はずれでした。（女性/50 歳代）
●貴館にとっての存在意義は何ですか。学生向けの発信があまり上手ではない。空回りしている。地域を巻き込めていない。フットワークが重い。（男性/20 歳代）

10　佐々木先生のレクチャー「評価アンケートの設問設定とデータ活用の方法」

レクチャー「評価アンケートの設問設定とデータ活用の方法」の要旨

2013 年 12 月 11 日に静岡県立美術館において、北海道大学大学院文学研究科の佐々木亨先生が「評価アンケートの設問設定とデータ活用の方法」というテーマでレクチャーを行った。
以下にレクチャーの要旨を紹介する。

このレクチャーでは、評価アンケートを始めた当初、展覧会アンケートの各設問がそもそもどういう意図で設計されたかを、あらためて説明した。

（１）　設問 A(2)：2 人以上で来館している人が、誰と来ているか。

展覧会観覧者の 82%がリピーターであり、さらにその 77%（全体の 63%）が 1 年以内のリピーターである。その内訳をみると、47%が 50 歳代以上であることが分かった（平成 14 年度）。展覧会観覧者の中心的なリピーターは高齢な方が多いため、その観覧行動・習慣が次世代に適切に継承されているかどうかは、今後のリピーター維持に重要な要素と考え、この設問を設定した。

したがって、2 人以上で来館している人が、同伴している人の属性%をみるだけでは不十分であり、実態を捉えたのちは、観覧行動・習慣の継承に関する新たな設問が必要である。＜配布資料 p.1 参照（本報告書 p.65 参照）＞

（２）　設問 A(3)：展覧会に来た「きっかけ」、「理由」は何か。

広報媒体を探る設問として、現在は主に使われているが、例えば、以下の 2 つの視点を持てば、さらに有益な情報や仮説を得ることができる。

1 つは、展覧会の開幕直後、中間、閉幕直前の 3 つの時期で、展覧会に来た「きっかけ」、「理由」をみることにより、その変化を知ることができる。そうすることにより、会期前半で有効な広報媒体は何で、会期後半では何に取って代わるのかが明確になる（府中市美術館の調査事例を紹介）。＜配布資料 p.2~4 参照（本報告書 p.66～68 参照）＞

もう 1 つは、消費行動プロセスモデルで読み解く方法である。従来は、「ＡＩＤＭＡ理論」が主流だったが、最近は「ＡＩＳＡＳ理論」が主流になってきている。美術館のケースで考えると従来は、美術館の広報や広告によって、地域住民は美術館の展覧会に注意（Ａ＝attention）や興味（Ｉ＝interest）を抱き、美術館に行ってみたい、作品を鑑賞してみたい、または美術館で豊かな時間を過ごしたいという欲求（Ｄ＝desire）を持つようになる。そして、その記憶（Ｍ＝memory）が持続している間に、さらに注意や興味をひき、欲求を刺激して、記憶が確信に変わり、最終的に美術館に足を運ぶ行動（Ａ＝action）をとると説明されてきた。

ところが、最近では、注意（Ａ＝attention）や興味（Ｉ＝interest）を抱いたのち、インターネットなどでその展覧会に関する公式な情報やすでに観覧した人が語る評判を検索（Ｓ＝search）し、情報を自ら収集し、美術館に足を運ぶ行動（Ａ＝action）をとる。そして、展覧会観覧後の行動として、その展覧会の評価をインターネット上に流通され、共有（Ｓ＝share）するとうモデルが支持されている。いままで「共有」部分は、フェース・ツゥ・フェースでのクチコミで伝えられたが、最近ではツイッター、フェースブックなどのソーシャル・メディア

を活用して、意見や見解、評判などが共有されるようになった。

この理論に基づき、当館の状況とその変化を定量的に把握し、今後の広報戦略に役立てる方法が 2 つめである。

（3） 設問 B(1)～(7)：総合的な満足度とそれを構成する要素

当初は、総合的な満足度とそれを構成する要素との関係を、カテゴリカル回帰分析を用いて分析していた。例えば、現在の設問 B(1)～(7)を使うと、

(7：総合満足度) = a(1：興味・関心)
+ b(2：心地よさ)
+ c(3：スタッフ対応)
+ d(4：来館を勧める)
+ e(5：情報入手)
+ f(6：交通機関)

のような式で総合的な満足度を表すことになる（a, b, c, d, e, f は係数）。

このような式（モデル）を手に入れることにより、展覧会の種類（日本美術、西洋絵画、文明ものなど）や開催時期によって、総合的な満足度に最も影響を及ぼす要素がある程度予想できるので、展覧会の不満を減少させる方策が検討しやすくなる。

ただし、現行の(1)～(6)の要素が、本当に総合的な満足度を構成する要素として相応しいかどうか、精査する必要がある。特に、(4)「展覧会のことを誰かに伝え、来館を勧めるか」という問いは、そもそも総合的な満足度に類似した設問であり、しかも展示を観た際の満足度を構成する要素となっていない。このようなモデル化を進めるのであれば、設問の再検討が必要である。＜配布資料 p.5 参照（本報告書 p.69 参照）＞

（4） 設問 B(9)：生活における美術館の存在・位置付けに関する回答の処理方法

かつては、3 年分のデータを集め（約 3,000 件）、テキストマイニングを行ったのちに、クラスター分析やコレスポンデンス分析を行った。

テキストマイニングやその後の多変量解析（クラスター分析やコレスポンデンス分析など）は難しい手法であるため、簡単には実行できないが、これまでの報告書では、この設問の集計結果すら掲載されていなかった。1,000 サンプル以下であれば、手作業でその傾向を把握することは可能である。そうすることで、来館者および県民と美術館とが現在どのような距離にあり、関係性にあるのかが分かり、展覧会や教育普及プログラムの企画検討時の参考になるはずである。＜配布資料 p.6～8 参照（本報告書 p.70～72 参照）＞

（5） 全体を通しての所見

静岡県立美術館の評価活動は、公立ミュージアム界において常に注目されて、着実な成果も収めている。しかし、評価活動を開始してから 10 年が経過し、この活動自体が形骸化し、数字の形式的な整理に終始しているように思われる。

評価の役割は、大きくわけると「説明責任」と「学びと改善」である。前者は十分に達成できているが、後者はどうか疑問である。何のために必要なデータなのかが十分に理解できていなければ、適切なデータの解釈が伴わず、自ずと改善のためのヒントや知見を得ることもできなくなる。

次年度は、評価業務を委託する前に、美術館内で評価の目的をあらためて確認し、その目的に沿ってアンケート設問の見直し、再検討をすることから始めるのがよいと考える。そこができない限り、次年度も数字の形式的な整理に終始してしまう可能性が高いのではないか。

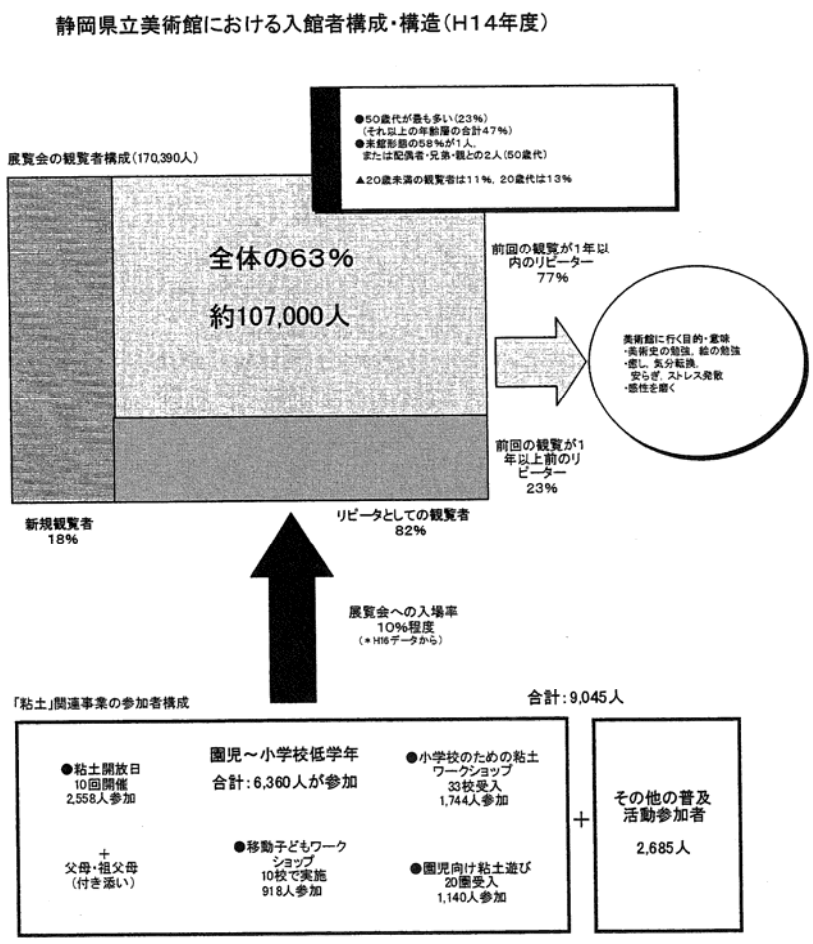
2013. 12. 11

「評価アンケートの設問設定とデータ活用の方法」（佐々木亨）

参照データ集

１．展覧会アンケート設問Ａ（１）、Ａ（２）と教育プログラム参加者アンケート

（H14, 16 年度のデータ）



２．展覧会アンケート設問Ａ（３）

＜府中市美術館でのデータ活用方法＞

府中市美術館における地域別の広報・事業戦略例

・　来館者を「市内」と「多摩地区」「東京２３区」に区分して、対応を検討している。

→理由：数年前からの調査により、以下のことが判明していたため。

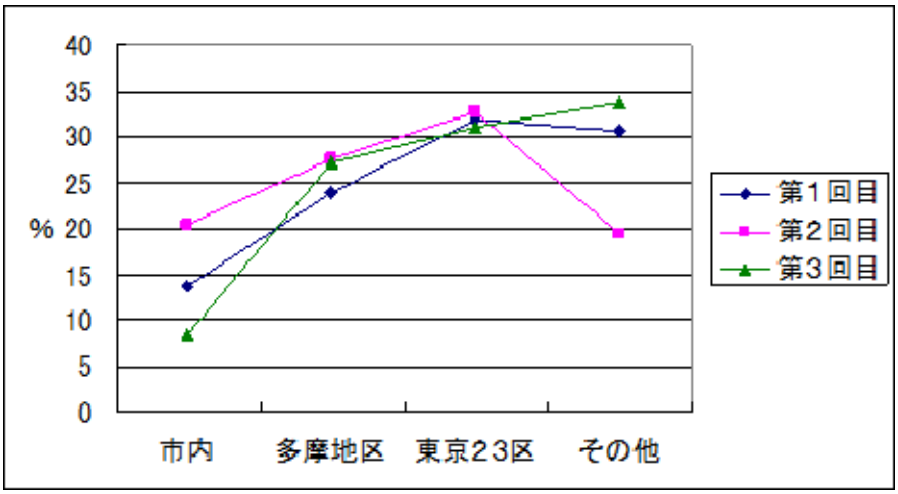
・建設当時の反対運動もあり、「市内」在住者の多くは美術館にあまり関心がない（冷たい）。「市内」からの来館者の多くはリピーターであるが、「クチコミ＋勧誘」率が低い。

・一方、「多摩地区」や「東京２３区」からの来館者は、新規来館者の割合が高いにもかかわらず、この美術館の良さ・長所を認識している方が多い。また、「クチコミ＋勧誘」率が高い。

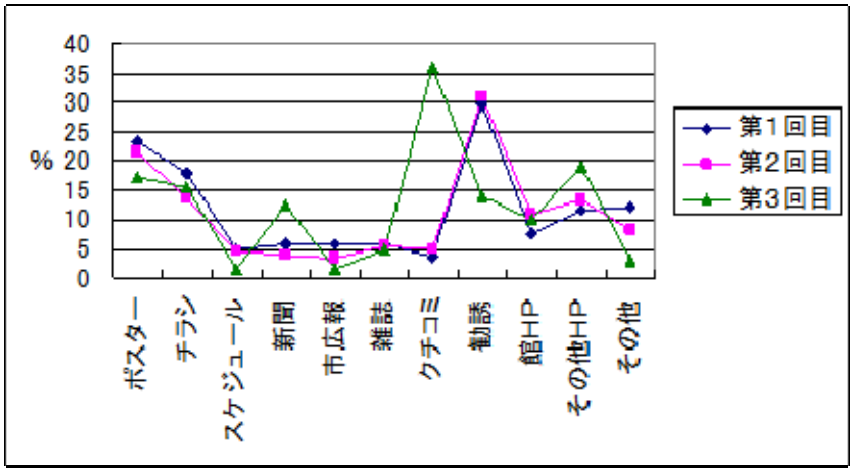
・　2009 年 5 月 23 日（土曜日）から 7 月 20 日（月曜日・祝日）まで開催した展覧会「純粋なる形象ディーター・ラムスの時代－機能主義デザイン再考」において、３回のアンケート調査を実施した。さらに詳細に、３地域からの来館者の現状を分析した。

第１回目アンケート	オープン直後の６日間	179 件
第２回目アンケート	その翌週の６日間	215 件
第３回目アンケート	会期最終の６日間	456 件

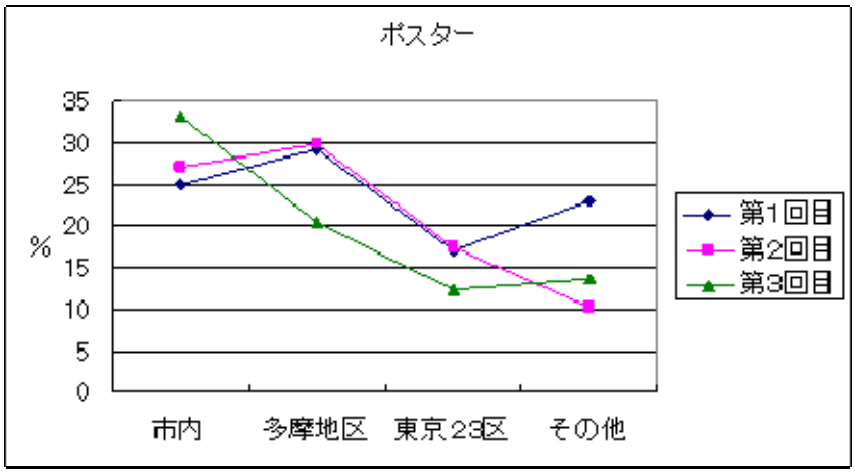
（１）居住地域別の観覧者割合

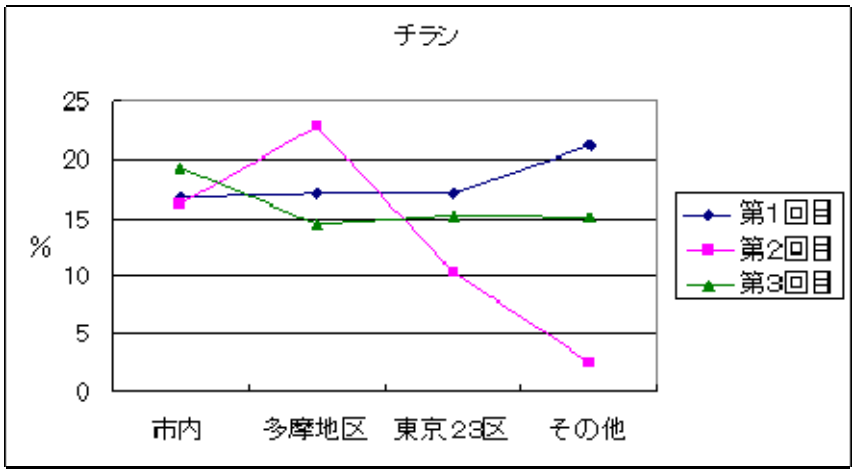


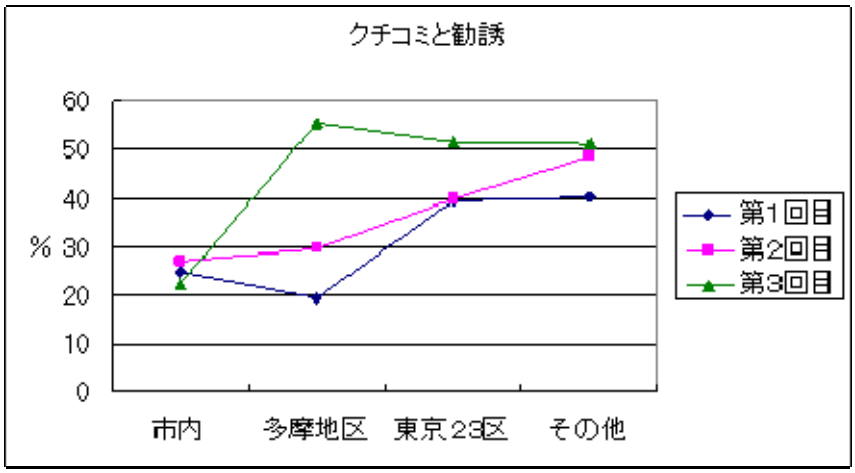
（2）来館のきっかけとなった広報媒体

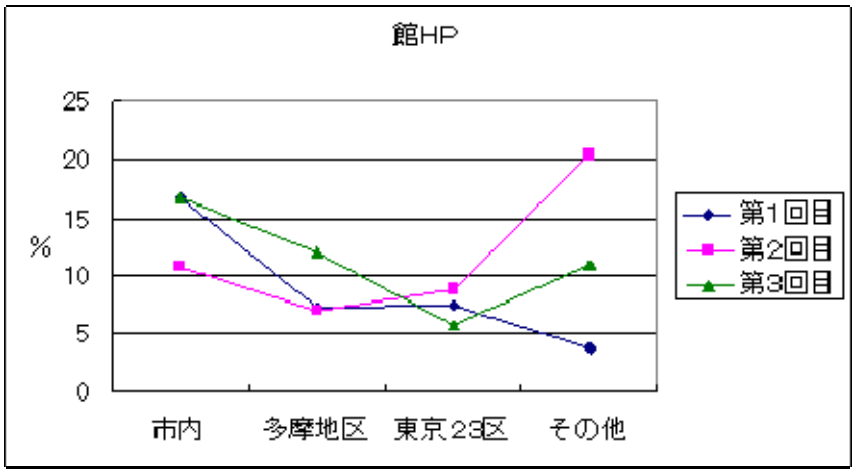


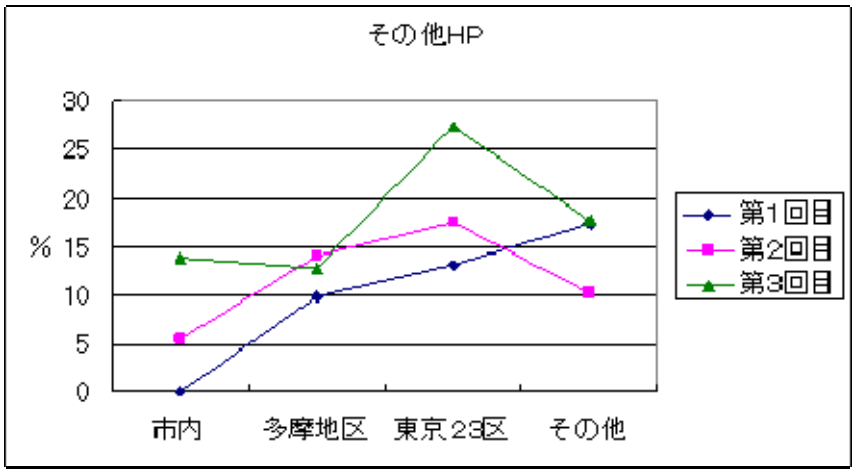
媒体ごとに見ると






クチコミと勧誘
60
50
40
% 30
20
10
0
市内
多摩地区
東京23区
その他
第1回目
第2回目
第3回目


館HP
25
20
15
%
10
5
0
市内
多摩地区
東京23区
その他
第1回目
第2回目
第3回目


その他HP
30
25
20
% 15
10
5
0
市内
多摩地区
東京23区
その他
第1回目
第2回目
第3回目

３．展覧会アンケート設問Ｂ（１)、(２)、(３)、(４)、(５)、(６)、(７)

「評価業務報告書」では、各展覧会の（１）～（６）と総合満足度（７）との相関係数を算出。

＜疑問点＞

・ 総合満足度をどう定義するか？

　観覧時の満足度を知りたいのか。

　設問Ｂ（４）はなにを聞くための問いか。

　総合満足度を構成する要素は、ほかにはないのか。

　NPS（推奨者の正味比率 Net Promoters Score）を使ってみてはどうか。

・ 相関係数を算出して、その後、どう活用するのか。

・ カテゴリカル回帰分析を適用できないか。

　例えば、

(7：総合満足度) = a(1：興味・関心)

+ b(2：心地よさ)

+ c(3：スタッフ対応)

+ d(4：来館を勧める)

+ e(5：情報入手)

+ f(6：交通機関)

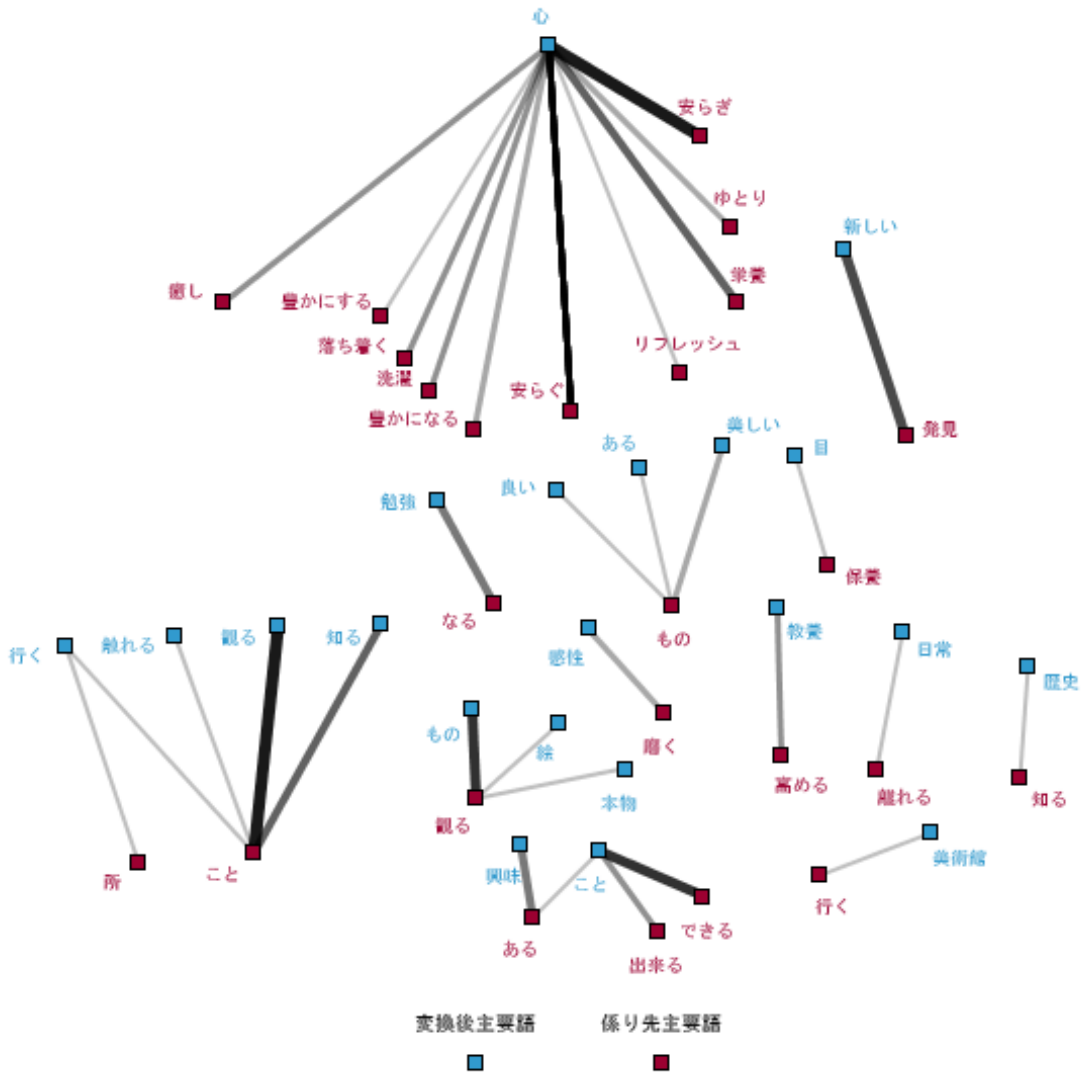
　のような式で総合満足度を表す（a, b, c, d, e, f は係数）

４．展覧会アンケート設問Ｂ（９）

（H14, 15, 17 年度のデータ）

（以下出典は、伊藤大介「テキストマイニング手法を用いて分析した美術館来館者の生活における美術館の存在意義--静岡県立美術館来館者アンケートを事例として」『文化経済学』5(3), pp. 101-110, 2007）

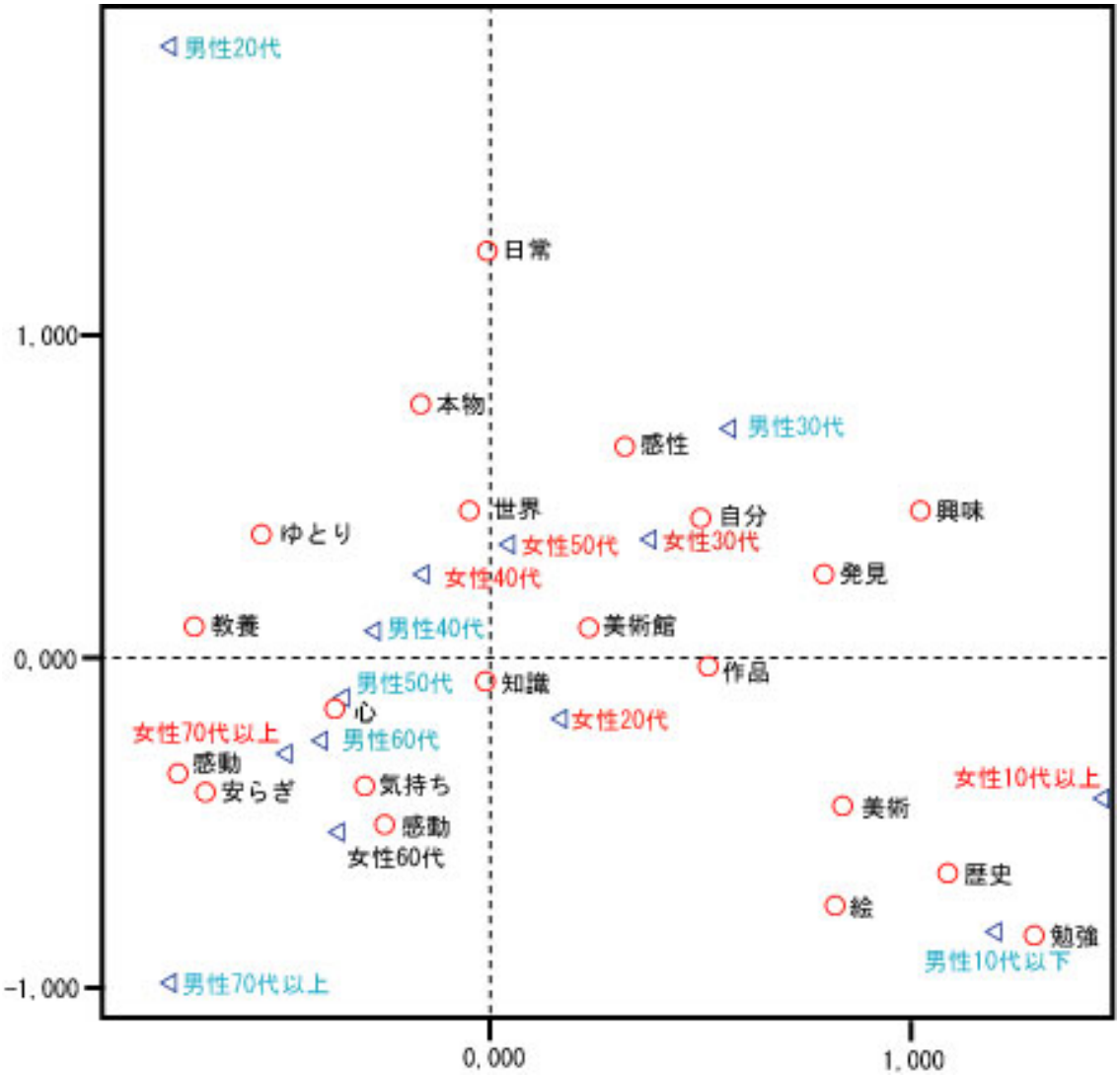
テキストマイニング



クラスター分析

クラスタ	比率(%)	性別(比)(男:女=)	主要語	係り先主要語	このクラスタの主たる傾向
82	25.7	3:7	心	安らぎ 栄養 洗濯 癒し	美術館を、心の安らぎや癒し、リフレッシュなど精神的充足の場としている。
80	10.6	2:8	自分	知る 問 心 感性	美術館を、内省の場として捉えたり、自らの感性を磨く場として位置づけている。
40	4.5	3:7	知識	得る 深める 広める 高める	美術館を、知識を獲得する場と位置づけている。
85	4.3	3:7	気持ち	落ち着く なる なれる リフレッシュ	クラスタ82と同様に、美術館を、精神的充足の場としている。
00	3.9	2:8	絵	観る 描く 勉強 好き	美術館におけるアンケート調査であるので、絵を鑑賞する場と位置づけている来館者も多いが、絵の勉強や描き方を学ぼうとする来館者もみられる。他のクラスタに比べ、10代が突出している。
09	3.9	3:7	興味	ある 持つ ない 満たす	美術館を、興味のある場、自らの興味を掻き立てる場として捉えている来館者が最も多い。その他、興味のある企画展の時にのみ来館する場との意見もみられる。初来館や3-5回の来館者が多い。
20	3.7	3:7	生活	一部 中 潤い 離れる	来館者の4割が来館回数20回以上であり、来館者の生活において美術館が、生活の一部として機能していると考えられる。
44	3.6	3:7	文化 ゆとり	文化-触れる 文化-知る ゆとり-持てる ゆとり-時間	美術館を、文化との接触の場、生活におけるゆとりの時間を過ごす場として捉えている。
04	3.5	6:4	教養	高める 深める つける 向上	全クラスタ中、性別構成が唯一、男性が女性を上回っている。教養を高める場として、中高年男性からのニーズがあると考えられる。
24	3.5	4:6	安らぎ 気分転換	安らぎ-場 安らぎ-得る 安らぎ-求める 気分転換-ため 気分転換-なる	心の平安、リフレッシュを志向するクラスタと考えられる。
80	3.2	3:7	発見	する ある 求める 感動	新たな発見をする場として美術館を位置づけている。
28	3.1	3:7	勉強	なる ため 場 する	美術館を勉強の場として位置づけている。年齢構成は、10代が突出して4割近くにのぼる。
63	3.0	3:7	美術館	行く 来る ある 思う	来館者の生活における美術館の位置づけを問う設問に対する回答のため、「美術館」という単語が多く用いられるのは、当然の結果であると考えられる。
22	2.8	3:7	日常	離れる 忘れる 彼れ はなれる	日常からの離脱を志向したクラスタであり、年齢構成をみると、50代、30代、40代のいわゆる団塊世代が全体の7割強を占めている。
48	2.7	2:8	歴史	知る 勉強 感じる 場所	クラスタ28と同様に、学習志向のクラスタであり、年齢構成も同じく10代が最上位で3割を占めている。1回から5回の来館者が半数以上。
06	2.7	3:7	作品	観る 触れる ある 楽しむ	作品とのふれあいの場と捉えている。クラスタ67における回答者と同じ考えなのではと考えられる。
68	2.6	3:7	感性	磨く 高める 豊かにする 深める	美術館に来館することで、なんらかの感覚を意識し、感性の向上・研磨の場として捉えている。50代、40代、30代の団塊世代が多い。
86	2.5	3:7	世界	知る 広げる 浸る 観る	美術館に来館することで、自らの世界観を広めようとする回答者と世界各国の作品に触れる場として美術館を位置づけている回答者が見出せる。
02	2.3	3:7	感動	得る ある 求める 味わう	感動するための場所として、美術館を位置づけていると考えられる。
67	2.2	3:7	本物	観る 触れる 出会う 美術作品	実物の作品に接触することを望むクラスタと考えられる。団塊世代多い。
42	2.2	3:7	癒し	場 求める 空間 場所	クラスタ82と同様に、美術館を、精神的充足の場としている。
46	2.1	2:8	目	保養 養う 肥やす 観る	主に作品に対する鑑賞眼を養う場ととらえている回答者が多い。
26	1.9	4:6	美術	勉強 こと 観る 関心	年齢構成が、50代に次いで10代が3割を占めている。

コレスポンデンス分析


男性20代
日常
1.000
本物
感性
男性30代
世界
自分
興味
ゆとり
女性50代
女性30代
女性40代
発見
教養
男性40代
美術館
0.000
作品
男性50代
知識
心
女性20代
女性70代以上
男性60代
感動
安らぎ
気持ち
女性10代以上
美術
感動
女性60代
歴史
絵
勉強
男性10代以下
-1.000
男性70代以上
0.000
1.000

静岡県立美術館評価業務　報告書
平成 26 年３月

発　行　静岡県立美術館
〒422-8002　静岡市駿河区谷田 53-2
TEL 054-263-5755
委託先　株式会社浜名湖国際頭脳センター
〒431-1207　浜松市西区村櫛町 4598 番地の 9
TEL 053-484-4002

平成 26 年度以降の評価指標に対する目標値　　【Ⅱ－５】

	評価指標	H23 実績	H24 実績	H25 目標	H25 実績	H26 目標	H27 目標	H28 目標
運営基本方針Ａ　人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を催します								
重点目標１　新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します								
1	展覧会の来館者数(人)	128,326	163,533	170,000	142,344	140,000	140,000	140,000
2	自主企画・企画参加型展覧会の回数（回）	4	5	4	4	4	4	4
3	作品やテーマに興味を持った人の割合（%）	85.7	88.7	88.0	84.4	88.0	88.0	88.0
4	展覧会における新規来館者の割合（%）	15.7	19.5	20.0	25.7	20.0	20.0	20.0
重点目標２　他の美術館・大学との連携・交流を進め、企画力を強化します								
6	調査研究の発表件数（回）※	18	11	10	14	10	15	15
7	内部セミナー・研究会・研修の回数（回）	22	12	14	8	14	14	14
8	他の美術館・大学と連携した取組件数（件）	3	5	5	4	5	5	5
重点目標３　特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します								
10	収蔵品展の観覧者数（人）	14,506	9,517	21,000	12,401	20,000	12,000	12,000
11	収蔵品の公開件数(貸出し含む)(件)	647	143	500	407	500	500	500
12	作品購入件数・購入価格（件・千円）（( )内は、基金対応額）	1 5,000	2 5,000	－	1 (63,000)	－	－	－
13	作品寄贈件数・評価価格（件・千円）	36 35,750	17 42,300	10 10,000	14 85,000	10	10	10
運営基本方針Ｂ　地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します								
重点目標１　質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します								
15	学校教育と連携した取組数（件）	530	297	350	330	300	300	300
16	鑑賞系プログラム数（件）	20	19	13	18	18	19	20
17	コレクションを活用したプログラム数（件）	19	19	16	18	18	19	20

	評価；指標	H23 実績	H24 実績	H25 目標	H25 実績	H26 目標	H27 目標	H28 目標
重点目標２ 講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します								
19	講演会等の開催回数（回）	170	174	210	136	160	160	160
20	学芸員のフロアレクチャー等の数（回）	105	92	120	111	120	120	120
重点目標３ 地域住民、企業、ＮＰＯ等と連携した美術館活動を充実させます								
21	地域住民等と連携した取組数（件）	6	8	4	6	6	6	6
22	館内空間を生かした催事の件数・参加者数(件・人)	83 13,929	59 13,901	90 5,500	90 4,344	90 5,000	90 5,000	90 5,000
運営基本方針Ｃ さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます								
重点目標１ 広報戦略を策定し、広報の質を高めます								
24	美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合(%)	70.6	71.6	70.0	68.0	70.0	70.0	70.0
25	ホームページへのアクセス件数(件)	419,000	370,660	170,000	977,227	600,000	600,000	1,600,000
26	ホームページの満足度(%)	71.7	71.6	75.0	73.9	75.0	75.0	75.0
重点目標２ 観光業界などとの連携や新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます								
27	観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数（件）	5	1	2	5	5	5	7
重点目標３ ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします。								
29	ロダン館の入館者数(人)	63,102	26,809	80,000	71,386	80,000	80,000	80,000
運営基本方針Ｄ 常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます								
重点目標１ 館内施設を充実し、満足度を高めます								
30	美術館利用者数（内訳）（人）	284,097	304,654	400,000	310,228	250,000	250,000	250,000
31	鑑賞環境に対する満足度(%)	90.4	92.5	90.0	90.9	90.0	90.0	90.0
32	レストラン・カフェ利用者の満足度（%）	71.3	81.4	70.0	72.9	70.0	75.0	80.0
33	ミュージアムショップ利用者の満足度（%）	86.8	82.8	85.0	86.1	85.0	85.0	85.0
２ 周辺環境やアクセスの利便を向上させます								
34	来館者のアクセス満足度（%）※	81.8 69.2	80.0 83.1	80.0	75.5 85.0	80.0	80.0	80.0

※ 実績の上段：公共交通機関で来所した方、下段：自家用車で来所した方

内容に関する問合せ先

静岡県文化・観光部文化政策課

〒420-8601　静岡県静岡市葵区追手町 9 番 6 号

TEL 054-221-3506

静岡県立美術館総務課

〒422-8002　静岡県静岡市駿河区谷田 53 番 2 号

TEL 054-263-5755